法学研究科　法学研究科（2019年度入学生）

※網掛けの科目については、本年度開講しません

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	クラス	索引
■法律学系科目 ■専門科目	知的財産法I 小川　明子	集中	1	2	1年	1
■政策科学系科目 ■専門科目	現代政治論I 松尾　哲也	集中	1	2	1年	2
	都市環境論I 中薗　哲	2学期	1	2	1年	3
	NPO・社会起業論I 雪松　直子	1学期	1	2	1年	4
	都市計画論I 山脇　直祐	1学期	1	2	1年	5

法学研究科　法学研究科（2019年度入学生）

<夜>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	クラス	索引
■専攻共通科目	法政総合演習 法学研究科担当教員	1学期	1	2	1年	6
■法律学系科目 ■専門基礎科目	法律文献調査 法律学科教員	1学期	1	2	1年	7
■専門科目	憲法AI 石塚　壮太郎	1学期	1	2	1年	8
	憲法AII 石塚　壮太郎	2学期	1	2	1年	9
	憲法BI 中村　英樹	1学期	1	2	1年	10
	憲法BII 中村　英樹	2学期	1	2	1年	11
	行政法AI 近藤　卓也	1学期	1	2	1年	12
	行政法AII 近藤　卓也	2学期	1	2	1年	13
	行政法BI 休講	1学期	1	2	1年	
	行政法BII 休講	2学期	1	2	1年	
	行政法CI 休講	1学期	1	2	1年	
	行政法CII 休講	2学期	1	2	1年	
	民法AI 矢澤　久純	2学期	1	2	1年	14
	民法AII 矢澤　久純	2学期	1	2	1年	15
	民法BI 福本　忍	1学期	1	2	1年	16

法学研究科　法学研究科（2019年度入学生）

<夜>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	クラス	索引
■法律学系科目 ■専門科目	民法BII 福本　忍	2学期	1	2	1年	17
	民法CI 休講	1学期	1	2	1年	
	民法CII 休講	2学期	1	2	1年	
	民法DI 清水　裕一郎	1学期	1	2	1年	18
	民法DII 清水　裕一郎	2学期	1	2	1年	19
	商法AI 今泉　恵子	1学期	1	2	1年	20
	商法AII 今泉　恵子	2学期	1	2	1年	21
	商法BI 高橋　衛	1学期	1	2	1年	22
	商法BII 高橋　衛	2学期	1	2	1年	23
	民事訴訟法AI 小池　順一	1学期	1	2	1年	24
	民事訴訟法AII 小池　順一	2学期	1	2	1年	25
	民事訴訟法BI 渡邊　典子	1学期	1	2	1年	26
	民事訴訟法BII 渡邊　典子	2学期	1	2	1年	27
	刑法AI 土井　和重	1学期	1	2	1年	28
	刑法AII 土井　和重	1学期	1	2	1年	29

法学研究科　法学研究科（2019年度入学生）

<夜>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	クラス	索引
■法律学系科目 ■専門科目	刑法BI 大杉　一之	1学期	1	2	1年	30
	刑法BII 大杉　一之	2学期	1	2	1年	31
	刑事訴訟法I 水野　陽一	1学期	1	2	1年	32
	刑事訴訟法II 水野　陽一	2学期	1	2	1年	33
	刑事学I 藤田　尚	1学期	1	2	1年	34
	刑事学II 藤田　尚	2学期	1	2	1年	35
	労働法I 休講	1学期	1	2	1年	
	労働法II 休講	2学期	1	2	1年	
	社会保障法I 津田　小百合	1学期	1	2	1年	36
	社会保障法II 津田　小百合	2学期	1	2	1年	37
	国際法I 二宮　正人	1学期	1	2	1年	38
	国際法II 二宮　正人	2学期	1	2	1年	39
	日本法制史I 休講	1学期	1	2	1年	
	日本法制史II 休講	2学期	1	2	1年	
	法哲学I 重松　博之	2学期	1	2	1年	40

法学研究科　法学研究科（2019年度入学生）

<夜>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期 クラス	履修年次	単位	索引
■法律学系科目 ■専門科目	法哲学II 重松　博之	2学期 1年	1	2	41
	法律実務特講I 末廣清二･小宮香織･根岸大将	1学期 1年	1	2	42
■特別研究科目	憲法特別研究I 中村　英樹	1･2学期（ペア） 1年	1	4	43
	行政法特別研究I 休講	1･2学期（ペア） 1年	1	4	
	民法特別研究I 矢澤　久純	2学期（ペア） 1年	1	4	44
	民法特別研究I 福本　忍	1･2学期（ペア） 1年	1	4	45
	商法特別研究I 休講	1･2学期（ペア） 1年	1	4	
	民事訴訟法特別研究I 小池　順一	1･2学期（ペア） 1年	1	4	46
	刑法特別研究I 休講	1･2学期（ペア） 1年	1	4	
	刑事訴訟法特別研究I 休講	1･2学期（ペア） 1年	1	4	
	刑事学特別研究I 休講	1･2学期（ペア） 1年	1	4	
	労働法特別研究I 休講	1･2学期（ペア） 1年	1	4	
	社会保障法特別研究I 津田　小百合	1･2学期（ペア） 1年	1	4	47
	国際法特別研究I 二宮　正人	1･2学期（ペア） 1年	1	4	48
■特定課題研究科目	私法領域特定課題研究I 小池　順一	1･2学期（ペア） 1年	1	4	49

法学研究科　法学研究科（2019年度入学生）

<夜>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	クラス	索引
■法律学系科目 ■特定課題研究科目	公法領域特定課題研究I 重松　博之	1・2学期（ペア）	1	4	1年	50
■政策科学系科目 ■専門基礎科目	政策調査法 政策科学科教員	1学期	1	2	1年	51
■専門科目	政治学I 中井　遼	1学期	1	2	1年	52
	政治学II 中井　遼	2学期	1	2	1年	53
	行政学I 森　裕亮	1学期	1	2	1年	54
	行政学II 森　裕亮	2学期	1	2	1年	55
	政治思想史I 大澤　津	1学期	1	2	1年	56
	政治思想史II 大澤　津	2学期	1	2	1年	57
	途上国開発論I 三宅　博之	1学期	1	2	1年	58
	途上国開発論II 三宅　博之	2学期	1	2	1年	59
	産業政策論I 田代　洋久	1学期	1	2	1年	60
	産業政策論II 田代　洋久	2学期	1	2	1年	61
	公共政策論I 楢原　真二	1学期	1	2	1年	62
	公共政策論II 楢原　真二	2学期	1	2	1年	63
	福祉政策論I 狭間　直樹	1学期	1	2	1年	64

法学研究科　法学研究科（2019年度入学生）

<夜>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	クラス	索引
■政策科学系科目 ■専門科目	福祉政策論II 狭間　直樹	2学期	1	2	1年	65
	環境政策論I 申　東愛	2学期	1	2	1年	66
	環境政策論II 申　東愛	2学期	1	2	1年	67
	政策評価論I 横山　麻季子	1学期	1	2	1年	68
	政策評価論II 横山　麻季子	2学期	1	2	1年	69
	比較政治経済学I 坂本　隆幸	2学期	1	2	1年	70
	比較政治経済学II 坂本　隆幸	2学期	1	2	1年	71
	自治体政策論I 山脇　直祐	2学期	1	2	1年	72
■特別研究科目	政治学特別研究I 休講	1・2学期（ペア）	1	4	1年	
	行政学特別研究I 森　裕亮	1・2学期（ペア）	1	4	1年	73
	政治思想史特別研究I 休講	1・2学期（ペア）	1	4	1年	
	途上国開発論特別研究I 三宅　博之	1・2学期（ペア）	1	4	1年	74
	産業政策論特別研究I 田代　洋久	1・2学期（ペア）	1	4	1年	75
	公共政策論特別研究I 楢原　真二	1・2学期（ペア）	1	4	1年	76
	福祉政策論特別研究I 狭間　直樹	1・2学期（ペア）	1	4	1年	77

法学研究科　法学研究科（2019年度入学生）

<夜>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■政策科学系科目 ■特別研究科目	環境政策論特別研究I 申　東愛	2学期（ペア）	1	4	78
		1年			
	政策評価論特別研究I 横山　麻季子	1・2学期（ペア）	1	4	79
		1年			
	比較政治経済学特別研究I 坂本　隆幸	2学期（ペア）	1	4	80
		1年			
■特定課題研究科目	地域政策特定課題研究I 楢原　真二　他	1・2学期（ペア）	1	4	81
		1年			
	比較政策特定課題研究I 三宅　博之　他	1・2学期（ペア）	1	4	82
		1年			

知的財産法I 【昼】

担当者名 /Instructor　小川　明子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　集中　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Course Completion),Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、知的財産法分野の知識を修得する。
技能	○	多様な法的問題や特定の課題について、批判的に分析し、論理的に思考し議論することができる。
態度		

※　◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

知的財産法Ｉ

※　政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要　/Course Description

この授業では、著作権法を総合的に理解した上で、「権利者の保護」と「公正な利用」の両方の観点から、現在起きている著作権に係る諸問題について検討する。ただし、事前に法的な知識を備えている必要はなく、誰もが知っておくべき著作権といった観点からの講義である。
具体的には以下のような内容を予定している。
①著作権法の概要
②著作権侵害行為
③著作権法による保護と自由利用のバランス
④海外の著作権法および国際条約

教科書　/Textbooks

毎回レジュメ等を配布

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

島並・上野・横山『著作権法入門第二版』有斐閣、2016年
小川明子『たのしい著作権法』山口TLO　2019年
中山・大渕・小泉・田村『著作権判例百選[第四版]』有斐閣、2009年
小泉・高林・井上・佐藤・駒田・島並・上野『ケースブック知的財産法[第3版]』弘文堂

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1:知的財産とはなにか
2:著作権とはなにか
3:著作者とは
4:著作者人格権
5:著作者人格権の例外
6:　著作権の概要 1
7:著作権の概要 2
8:複製権の例外規定
9:　著作権の例外規定
10:引用と研究倫理
11:　著作権保護期間
12:　著作隣接権とはなにか
13: パブリシティの権利とはなにか 学生による報告 (予備日)
14: 学生による報告
15: 学生による報告

成績評価の方法　/Assessment Method

平常点評価:60％授業への積極的な参加
その他:40％授業中に行われる発表内容

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

著作権判例に興味を持つこと。

知的財産法I 【昼】

法律学系科目
専門科目

履修上の注意　/Remarks

著作権法の条文は以下からダウンロード可能である
https://elaws.e-gov.go.jp/search/elawsSearch/elaws_search/lsg0500/detail?lawId=345AC0000000048
上記から条文を入手するか、知的財産法六法の最新刊を入手すること。
条約については以下からダウンロード可能である。
https://www.cric.or.jp/db/treaty/index.html

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

著作権法を楽しんで検討していきましょう。

キーワード　/Keywords

現代政治論I 【昼】

担当者名 /Instructor　松尾　哲也 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　集中　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が修了時に身に付ける能力)」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion),Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース(政策科学系)】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者（または高度専門職業人）として活躍するために必要な、現代政治論の知識を修得する。
技能	○	地域社会の諸課題（または特定の政策的課題）について、必要な情報を収集・分析し、政策を立案・評価（または実践的に提言）することができる。
態度		

※ ◎:強く関連　○:関連　△:やや関連

現代政治論Ⅰ

※ 法律学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要　/Course Description

本授業では、まずイントロダクションとして、「なぜ政治について考える必要があるのか」という問いをめぐって授業を行います。

その後、第一次世界大戦、ナチスの台頭、第二次世界大戦といった歴史的事象を取り上げ、20世紀の歴史について概観したあと、「民主主義の危機」、「国際政治の理想と現実」、「政治と教育」、「政治と人間理性」、「政治と自由の行方」をテーマとして、現代政治の実態について詳しく解説します。

さらに、現代の政治的課題を分析するために、リベラリズム、ロールズの正義論、コミュニタリアニズム、シティズンシップ等の代表的な政治理論について、初学者にもわかりやすく解説します。また、公共哲学についても入門的知識から講義し、公共哲学が投げかける現代政治の課題について解説します。その後、現代政治理論および公共哲学の視点から、受講者との議論を通じて、今後の現実政治の方向性・在り方について探究していきます。

教科書　/Textbooks

適宜、プリント資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○ハンナ・アレント著、志水速雄訳『人間の条件』（ちくま学芸文庫、1994年）
レオ・シュトラウス著、塚崎智・石崎嘉彦訳『自然権と歴史』（ちくま学芸文庫、2013年）
○丸山眞男著『丸山眞男集　第九巻　一九六一　一　一九六八』（岩波書店、1996年）
○エーリッヒ・フロム著、日高六郎訳『自由からの逃走　新版』（東京創元社、1965年）
○足立幸男著『政策と価値ー現代の政治哲学』（ミネルヴァ書房、1991年）
○W．キムリッカ著、千葉眞・岡崎晴輝　訳者代表『新版　現代政治理論』（日本経済評論社、2005年）
○ジョン・ロールズ著、川本隆史・福間聡・神島裕子訳『正義論　改訂版』（紀伊國屋書店、2010年）
○山脇直司著『公共哲学とは何か』（ちくま新書、2004年）
齋藤純一編『公共性の政治理論』（ナカニシヤ出版、2010年）
○佐々木毅・金泰昌編『21世紀公共哲学の地平ー公共哲学10』（東京大学出版会、2002年）
○ユルゲン・ハーバーマス著、細谷貞雄・山田正行訳
『[第2版]　公共性の構造転換ー市民社会の一カテゴリーについての探究』（未來社、1994年）

現代政治論I 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　イントロダクション―なぜ政治について考える必要があるのか―
第2回　二つの世界大戦―総力戦時代の国際政治史―
第3回　民主主義の危機
第4回　国際政治の理想と現実
第5回　政治と教育
第6回　政治と人間理性
第7回　政治と自由の行方
第8回　リベラリズム
第9回　ロールズの正義論
第10回　コミュニタリアニズム
第11回　シティズンシップ
第12回　公共哲学とは何か
第13回　公共性論①：ユルゲン・ハーバーマス
第14回　公共性論②：ハンナ・アレント
第15回　総括

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取組み･･･60%　　課題（小レポート）･･･40%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習は特に必要としませんが、授業中に課題レポートについてお話しますので、その課題に沿った学習をしてください。

履修上の注意　/Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

授業で取り上げる歴史および著作について、事前の予備知識や専門知識がなくても受講できるように、初歩から丁寧に授業を行います。

政治学を学ぶ方だけでなく、法律を学ぶ方、政策科学を学ぶ方でもわかりやすく、またそれぞれの学生の研究分野にも活かせる授業を行います。

キーワード　/Keywords

現代政治理論・公共哲学

都市環境論I 【昼】

担当者名 /Instructor　中薗　哲 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が修了時に身に付ける能力)」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion),Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース(政策科学系)】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者（または高度専門職業人）として活躍するために必要な、都市環境論の知識を修得する。
技能	○	地域社会の諸課題（または特定の政策的課題）について、必要な情報を収集・分析し、政策を立案・評価（または実践的に提言）することができる。
態度		

※ ◎:強く関連　○:関連　△:やや関連

都市環境論Ⅰ

※ 法律学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要　/Course Description

ＳＤＧｓ（持続可能な開発目標）は、環境政策としてだけでなく、企業の経営戦略にも組み込まれるなど、その重要性が広く認識されている。環境未来都市に指定されている北九州市は、ＳＤＧｓ実現の牽引車としての役割が国からも期待されている。

明治以来、日本の近代国家形成に大きな役割を果たした北九州は、第二次大戦後の国土復興においても牽引車として貢献し、経済の高度成長期には深刻な環境汚染を引き起こしたがこれを克服した経験を有する。

この間の経験を活かした環境国際協力を他都市に先駆けて取り組み、その成果は国連機関から高く評価された。

公害、国際協力、廃棄物の適正処理、循環型社会形成、環境教育、地球環境問題、少子高齢化社会、市民環境力育成と環境未来都市に向けた取り組みは、まさにＳＤＧｓを先取りしてきたと言える。

北九州の環境の歴史から、私たちは何を学び取り、未来に活かしていくべきか、そして国際社会の中で何が活かせるかを考察したい。

教科書　/Textbooks

なし。資料は毎回講師が準備・配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　はじめに：　北九州市の環境政策の概要と講義の進め方について
２回　公害克服の経験から１：　婦人会活動の意義
３回　公害克服の経験から２：　スモッグ警報発令における行政の決断と企業の協力
４回　公害克服の経験から３：　「後追い行政」から「未然防止」へ
５回　公害克服の経験から４：　市民・企業・行政・大学連携の成果
６回　環境国際協力の経験から１：　都市間環境協力の取り組み
７回　環境国際協力の経験から２：　環境ビジネスへの展開
８回　国際社会からの評価：　「グローバル５００」受賞が市民にもたらしたもの
９回　地球環境問題への取り組み：　国際社会からの期待と北九州市の取り組み
１０回　廃棄物処理対策の方針転換：　「処理重視」から「資源リサイクル」へ
１１回　資源・エネルギーの寄り組み：　エコタウンから循環型社会構築への道のり
１２回　ＰＣＢ処理とリスクコミュニケーション：　「市民環境力」とはなにか
１３回　青空学１：　環境ミュージアムで実施中の「青空学ミニセミナー」の紹介
１４回　青空学２：　ミニセミナー実施（２～３テーマ）
１５回　まとめ：　北九州の経験を未来に生かすために、何を伝えていくべきかを考察

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の学習状況（５０％）、課題レポート（５０％）。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

「北九州市環境首都検定公式テキスト」を事前に見ておくと、授業が理解しやすい。

都市環境論I 【昼】

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

ＳＤＧｓ、環境未来都市、公害克服、国際協力、循環型社会

NPO・社会起業論I 【昼】

担当者名 /Instructor　雪松　直子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が修了時に身に付ける能力)」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion),Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース(政策科学系)】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者（または高度専門職業人）として活躍するために必要な、NPO・社会起業分野の知識を修得する。
技能	○	NPO・社会起業の諸課題について、必要な情報を収集・分析し、NPO・社会起業に関して評価立案し実践的に提言することができる。
態度		

※ ◎:強く関連　○:関連　△:やや関連

NPO・社会起業論Ⅰ

※ 法律学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要　/Course Description

NPOや社会起業が担っている役割は、今までの常識に疑問を持ち、当事者の課題を自身の課題として捉えることから生まれます。「ソーシャル・イノベーション」と呼ばれる大きな変化が社会で起こる背景には、一人の疑問から仲間へ、そして社会と一緒に考えていく地道な作業と経営があります。

本授業では、主に特定非営利活動促進法（NPO法）設計の趣旨背景を読み解くことと、非営利の組織デザインや経営に関するディスカッションを通じて、NPOが現在社会の中でどのような役割を担っているか、またこれから何を期待されているかを、皆さんと一緒に考えます。

また、実際の地域におけるNPOの現場と乖離しない知識や思考を獲得するため、資料からの情報に留まらず、講師が経営するNPO法人アカツキ・またアカツキのコンサルティング支援先であった実際のケースを参考にします。

本授業内では学生の到達目標、また成績の評価基準として、「NPOの現場と接続した専門知識の獲得」と「NPOの経営課題を俯瞰して構造的に見る力」の2点を重視します。

教科書　/Textbooks

なし
適宜プリントやスライド投影資料等を使用します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回：オリエンテーション / 基礎的用語や知識の確認
2回：行政・企業・NPOの関係性
3回：NPO法の立法プロセスが生み出したもの
4回：認定NPO法人制度設計・要件・税制上の優遇措置
5回：北九州のNPO事例研究発表（１）【福祉】
6回：北九州のNPO事例研究発表（２）【まちづくり】
7回：北九州のNPO事例研究発表（３）【子ども】
8回：行政のNPO支援制度【補助金・情報提供・協働事業】
9回：政策提言における権力との距離感
10回：NPOでの創業と内部コミュニケーション
11回：福岡のNPO経営事例紹介（１）【資金調達】
12回：福岡のNPO経営事例紹介（２）【事務整備】
13回：福岡のNPO経営事例紹介（３）【事業計画】
14回：NPOの成果と評価を取り巻く議論
15回：支援と人権

成績評価の方法　/Assessment Method

レポート…30%　日常の授業への取り組み…70%

NPO・社会起業論I 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

・事前学習については、事前に指定した資料の該当範囲を読み、必要に応じて発表担当者はシラバスを作成しておいてください。（A4用紙1〜2枚程度）
・事後学習については、その日のディスカッションを経て聞いた他の学生や教員の意見を踏まえた上で、自分の考えにどのような変化があったかを再度振り返っておいてください。

履修上の注意　/Remarks

授業ではディスカッションの時間を設けます。ディスカッションに勝ち負けはありません。発言は、「私はこう思う」と自分を主語にし、他者の意見は聞くこと（傾聴）から努めてください。仲間と一緒に考えを作り上げるイメージを持って進めてください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

市民が動くことから始まった市民立法・議員立法の法律、NPO法が成立して20年が経ちました。制度の内容とこれに尽力した人たちの思いを知り、そこからNPOの役割と身近な政策、行政との関係性を考えることは、NPO法とそれを事業という形で進めていくNPOの秘められた可能性に気づくことになるでしょう。事業や政策の推進側のみならず、政策提言する側の市民や現場の視点を持ち、双方の当事者としてのバランスをどのように取り続けていくのか、NPO経営について皆さんと一緒に考えていきたいと思います。

キーワード　/Keywords

NPO法　非営利　社会起業　政策提言　ソーシャル・イノベーション　市民立法　議員立法

都市計画論I 【昼】

担当者名 /Instructor　山脇　直祐 / Naosuke YAMAWAKI / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が修了時に身に付ける能力)」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion),Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース(政策科学系)】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者（または高度専門職業人）として活躍するために必要な、都市計画論の知識を修得する。
技能	○	地域社会の諸課題（または特定の政策的課題）について、必要な情報を収集・分析し、政策を立案・評価（または実践的に提言）することができる。
態度		

※ ◎:強く関連　○:関連　△:やや関連

都市計画論Ⅰ

※ 法律学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要　/Course Description

「『住むこと』について考える」

私たちは、必ず誰かの隣に住んでいます。
他者との関係のなかで「住む」ということは、私たちが生きていく上で避けようのない事実です。
また、「居住」するための「住居」のあり方は、私たちの生活のあり方を左右することすらあります。
それでは、私たちはいかなる方法で自ら「住む」環境の形成に関わっていくことができるのでしょうか。

本講は、私たちの日常生活にとって身近かつ根源的・ 基本的な「住む」という事実と都市計画を通し、
政治・ 政策・ 法に関する学問の実践的意義について理解を深めること、
新たな政策展開の可能性を考察することを目的とします。

教科書　/Textbooks

毎回、レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

その都度、紹介します。

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

（【】内はキーワード）
第　１回　はじめに．～「住むこと」がもつ根源性・ 政治性について～　【居住】【住居】【住宅】
第　２回　「住むこと」とは何であったか～住宅政策における「住宅」観～　【持家政策】【居住政策】
第　３回　「51C」から「居住福祉」へ～住宅改良の社会史～　【貧民窟】【51C】【居住福祉】
第　４回　居住地によるデモクラシー？　【集合住宅デモクラシー】【私的政府】【CID】
第　５回　社会が育む権利の内実～法解釈理論の新展開I～　【所有】【総有】【合有】
第　６回　交渉で育て続ける契約～法解釈理論の新展開II～【私的自治】【関係】【交渉】
第　７回　わが国マンションにおける議会政治　【強制競売】【建替え決議】【区分所有者集会】
第　８回　マンション所有権の基本権的性質　【区分所有権】
第　９回　"困った人たち"の物語～マンション管理狂騒曲～　【マンション管理】
第１０回　揺れ続けたマンション～阪神淡路大震災被災マンションの建替え～　【被災建替え】
第１１回　不法占拠の"法外"な合法性？～ウトロ51番地・ 伊丹空港に住んだ人々～　【合法性】
第１２回　集合住宅としての都市の命運~ﾁｴﾙﾉﾌﾞｲﾘ･九龍城塞、ﾃﾞﾄﾛｲﾄ･軍艦島と北九州~【国家】【経済】【都市】
第１３回　いかにして「住む」か～コーポラティブ・ ハウジングという手法～　【ｺｰﾎﾟﾗﾃｲﾌﾞ･ﾊｳｼﾞﾝｸﾞ】
第１４回　どのように「住む」か～コレクティブ・ ハウジングという可能性～　【ｺﾚｸﾃｲﾌﾞ･ﾊｳｼﾞﾝｸﾞ】
第１５回　おわりに．　～居住生活と住宅をめぐる「価値」・「場所」・「方法」～　【合意形成】

成績評価の方法　/Assessment Method

受講姿勢、定期試験。各回のテーマに関する自主的レポート（2500字程度）の提出も歓迎します。
受講姿勢…４％×15回＝60％　定期試験…40％
レポートはその内容に応じ、１本10％までで加点します。

都市計画論I 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習としてはシラバス掲載のキーワードについて、自分なりの問題意識をもって調べてみてください。

事後学習としては配布するレジュメを踏まえ、その際も細かな知識にこだわることなく、
自分なりの問題意識に応じた対策を検討しておいてください。

履修上の注意　/Remarks

臆せず悩まず、考える。
御紹介できる情報や機関もあると思いますから、困り事があったら応相談。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

出来、不出来より積極性を評価します。
修士論文作成に向けて、進路形成に向けていかに講義を活用するかを考えてもらいたい。

キーワード　/Keywords

居住、住居、住宅、持家政策、居住政策、貧民窟、51C、居住福祉、集合住宅デモクラシー、私的政府、CID、
所有、総有、合有、私的自治、関係的契約、交渉促進規範、強制競売、建替え決議、区分所有者集会、
区分所有権、マンション管理、被災建替え、合法性、国家、経済、都市、
コーポラティブ・ハウジング、コレクティブ・ハウジング、合意形成

法政総合演習 【夜】

担当者名 /Instructor　法学研究科担当教員

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Course Completion),Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系・政策科学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、法律学と政策科学に関する総合的な知識を修得する。
技能		
態度	○	自立した研究者または高度専門職業人として、主体的かつ積極的に研究し行動することができる。

※ ◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

法政総合演習

授業の概要 /Course Description

本科目は、法律系・政策系の枠組みを超えて、また研究者コース・専修コースの枠組みを超えて、法律学・政策科学の全体を俯瞰する科目です。それによって、自らが専門として研究しようとする分野が、法学全体の中でどのような位置づけとなるのかを把握するために必要となる知識を習得することを目的としています。

オムニバス式の講義に本研究科所属の専任教員の多くが出講することによって、教員と大学院生の交流の接点を作り出すとともに、各担当教員が専門分野に関する現在の状況を学生に提示することで、学生の履修計画、論文執筆、ならびに研究に関連する他分野についての理解を深めることが期待されています。

教科書 /Textbooks

テキストは特に使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各担当者のトピックスに応じて、適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第１回　オリエンテーション
第２回　憲法学の現在
第３回　基礎法学の現在
第４回　民法学の現在
第５回　商法学の現在
第６回　民事訴訟法学の現在
第７回　刑事法学の現在
第８回　国際法学の現在
第９回　政治研究の現在【実証】
第10回　政治研究の現在【規範】
第11回　都市政策研究の現在
第12回　福祉政策研究の現在
第13回　環境政策研究の現在
第14回　行政研究の現在
第15回　大学院２年生による中間発表会と法政総合演習のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・ 50%　　レポート・・・ 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、当該回の分野の内容について、自ら一定程度の知識を事前に得て予習をしておくこと。授業の後は、ノートや配付資料をもとに内容を整理し、復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自らの研究分野以外の知識も、この講義を通して積極的に吸収してください。各担当教員の専門分野およびそれに関連した参考文献などを自ら進んで調べることにより、より理解が深まるでしょう。

法政総合演習 【夜】

キーワード　/Keywords

法律文献調査 【夜】

担当者名 /Instructor　法律学科教員

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Course Completion),Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解		
技能	◎	研究活動を進めるうえで必要となる法的情報（判例や法律文献や法令等）を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
態度	○	修士論文または特定課題研究の作成に必要となる基本的な研究姿勢を身につける。

※　◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

法律文献調査

授業の概要　/Course Description

本講義では、六法を中心とする法律の各分野に即して、必要となる判例や法律文献や法令等の調査方法について学習する。その際、基本的な法分野を広く見渡しながら学習することになる。そのうえで最終的には、基本的には各自が専門とする分野についての判例評釈を書くことになる。

そのために、判例、文献、法令等の引用の仕方などもあわせて学ぶ。法律学の全体を幅広く見渡すと同時に、この講義で学んだことを、各人が修士論文や特定課題研究を今後執筆していく上でのスキルとして活用できるようにすることが、本講義の目的とするところである。

教科書　/Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて講義中に指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　オリエンテーション
第２回　論文の作成にあたって–盗用・剽窃に対する注意喚起と正しい引用の仕方
第３回　法律文献情報の調査法
第４回　法令の調査法
第５回　図書館データベースを使った判例・文献の調査法
第６回　公法領域の判例・文献調査について①【判例の読み方】
第７回　公法領域の判例・文献調査について②【判例評釈の作法】
第８回　刑事法領域の判例・文献調査について①【判例の読み方】
第９回　刑事法領域の判例・文献調査について②【判例評釈の作法】
第10回　民事法領域の判例・文献調査について①【判例の読み方】
第11回　民事法領域の判例・文献調査について②【判例評釈の作法】
第12回　商事法領域の判例・文献調査について【文献の読み方・文献レビューの作法】
第13回　社会法領域の判例・文献調査について【文献の読み方・文献レビューの作法】
第14回　基礎法領域の（判例・）文献調査について【文献の読み方・文献レビューの作法】
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

講義への参加の態様（熱心さや貢献度など）（50%）、レポート（50%）。
レポートは、各自が専門とする分野での判例評釈を基本とする。
ただし、専門とする分野によっては教員と相談のうえ、文献レビューでも可。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業開始前までにシラバスを確認し予習しておくこと。授業終了後には論点をまとめ復習すること。

履修上の注意　/Remarks

1　判例や文献の情報検索に際してはパソコンを使用することもあるので、パソコンの基本的な操作方法に関しては、事前に知っておく必要がある。
2　各講義回の担当教員の指示に従って、課題に取り組むこと。

法律文献調査 【夜】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

文献調査　法令調査、判例調査

憲法AI 【夜】

担当者名 /Instructor　石塚　壮太郎 / ISHIZUKA, Sotaro / 法律学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion),Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、憲法分野の知識を修得する。
技能		
態度		

※　◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

憲法ＡＩ

※　政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要　/Course Description

憲法の規範性と実効性について、検討する。
履修者が報告し、担当教員と共に検討する。

教科書　/Textbooks

吉田俊弘・横大道聡が法学教室で2018年4月から連載中の「探検する憲法」

※教科書は変更の可能性があるため、事前に購入しないこと。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○宍戸常寿らが論究ジュリストで2018年冬号から連載中の「日本国憲法のアイデンティティ」
○山本龍彦らが法律時報で2018年8月から連載中の「憲法の規整力」

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　ガイダンス
第２回　(第1回)憲法とは何か
第３回　(第2回)なぜ憲法典を制定するのか
第４回　(第3回)どのように憲法を制定するべきか
第５回　(第4回)どのような憲法典を作るのか
第６回　(第5回)どのように憲法を守るのか
第７回　(第6回)どうやって憲法を変えるのか(上・下)
第８回　(第7回)憲法をどう教えるのか
第９回　(第8回)憲法はどのように国際社会と向き合うのか
第10回　(第9回)なぜ人権を憲法で保障するのか
第11回　(第10回)何を人権として保障するのか
第12回　(第11回)いつ人権の制約は正当化されるのか(上・下)
第13回　(第12回)人権をどう教えるのか
第14回　検討
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

レジュメおよび報告（40%）、日常の授業への取り組み（40%）、レポート（20%）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

報告準備を行うこと。事後にレポートの提出を求める。

履修上の注意　/Remarks

無断欠席や、正当な理由のない遅刻は許されない。やむをえない場合には、事前に連絡すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

憲法AI 【夜】

キーワード　/Keywords

憲法AII 【夜】

担当者名 /Instructor　石塚　壮太郎 / ISHIZUKA, Sotaro / 法律学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion),Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、憲法分野の知識を修得する。
技能		
態度		

※　◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

憲法AⅡ

※　政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要　/Course Description

憲法の規範性と実効性について、検討する。

内容は以下の通りである。
①第一週目に一章分を報告する。
②第二週目に討論する。

教科書　/Textbooks

境家史郎著『憲法と世論––戦後日本人は憲法とどう向き合ってきたのか』（筑摩書房、2017年）

※教科書は変更の可能性があるため、事前に購入しないこと。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

樋口陽一『憲法という作為––『人』と『市民』の連関と緊張』（岩波書店、2009年）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　ガイダンス
第２回　報告「第１章　『世論』不在の憲法論争？」
第３回　討論
第４回　報告「第２章　改憲論優位の時代–占領期から『逆コース』の時代へ」
第５回　討論
第６回　報告「第３章　脱イデオロギー化する憲法問題–高度成長期から五五年体制の崩壊へ」
第７回　討論
第８回　報告「第４章　瓦解する『改憲派連合』–小泉改革から政権交代の時代へ」
第９回　討論
第10回　報告「第５章　誰がなぜ改憲に賛成してきたのか」
第11回　討論
第12回　報告「第６章　憲法意識の安定性と変化のしくみ」
第13回　討論
第14回　報告「第７章　憲法と世論のゆくえ」
第15回　討論（まとめを含む）

成績評価の方法　/Assessment Method

レジュメおよび報告（40%）、日常の授業への取り組み（40%）、レポート（20%）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

報告準備を行うこと。事後にレポートの提出を求める。

履修上の注意　/Remarks

無断欠席や、正当な理由のない遅刻は許されない。やむをえない場合には、事前に連絡すること。

憲法AII 【夜】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

憲法BI 【夜】

担当者名 /Instructor　中村　英樹 / 法律学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion),Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、憲法分野の知識を修得する。
技能		
態度		

※　◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

憲法ＢＩ

※　政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要　/Course Description

憲法学未習者も念頭におきながら、憲法学に関する基礎的知識の習得あるいは確認、及び多角的検討を行うことを目的とする。
具体的には、下記「教科書」を参加者全員で講読していくが、参加者の人数や専攻等に応じて、取り上げる文献の変更もありうる。
テキストの分担報告・それに基づく全員での検討・議論を進行の基本とする。

教科書　/Textbooks

山本龍彦ほか『憲法判例からみる日本』（日本評論社、2016年）

※変更の可能性もあるので、初回は購入せずに参加すること

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜指示する

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス（演習の目的・概要説明、報告分担決定など）
第2回　憲法に関する基礎的内容の講義
第3回　指定テキストの報告及び検討・議論（第1章　小説はプライバシーを侵害するのか）
第4回　指定テキストの報告及び検討・議論（第2章　社会や家族の変化に民法は応えるべきか？）
第5回　指定テキストの報告及び検討・議論（第3章　「投票価値の平等」を阻むものは何か）
第6回　指定テキストの報告及び検討・議論（第4章　憲法「土着化」プロセスにみえる「公務員」秩序とは）
第7回　指定テキストの報告及び検討・議論（第5章　思想・良心に反する行為を拒めるか？）
第8回　指定テキストの報告及び検討・議論（第6章　「神社は宗教ではない？」が示唆すること）
第9回　指定テキストの報告及び検討・議論（第7章　「お行儀のよいデモ行進」を目指して？）
第10回　指定テキストの報告及び検討・議論（第8章　自分の好きなところに店を開くことができない？）
第11回　指定テキストの報告及び検討・議論（第9章　「大学の危機」時代に考える学問の自由・大学の自治）
第12回　指定テキストの報告及び検討・議論（第10章　「最低限度の生活」を求めて）
第13回　指定テキストの報告及び検討・議論（第11章　私のものは「私だけのもの」か？）
第14回　指定テキストの報告及び検討・議論（第12章　日本の解散権は自由すぎる！？）
第15回　指定テキストの報告及び検討・議論（第13章　「統治行為論」とは何か？）

成績評価の方法　/Assessment Method

担当回の報告内容：50%
検討・議論への参加状況：50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

テキストの報告が複数回課されるので、報告担当者は、該当部分の内容をまとめたレジュメを用意すること。
報告者以外も、テキストの該当部分を十分読み込んで、議論に参加できるように準備しておくこと。
授業終了後には論点をまとめ復習すること。

履修上の注意　/Remarks

憲法についてある程度の前提知識を有していることが望ましいが、強い関心があれば未習者であっても歓迎する。

憲法BI 【夜】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

憲法BII 【夜】

担当者名 /Instructor　中村　英樹 / 法律学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Course Completion),Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、憲法分野の知識を修得する。
技能		
態度		

※　◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

憲法ＢⅡ

※　政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要　/Course Description

憲法学未習者も念頭におきながら、憲法学に関する基礎的知識の習得あるいは確認、及び多角的検討を行うことを目的とする。
具体的には、下記「教科書」を参加者全員で講読していくが、参加者の人数や専攻等に応じて、取り上げる文献の変更もありうる。
テキストの分担報告・それに基づく全員での検討・議論を進行の基本とする。

教科書　/Textbooks

安西文雄ほか『憲法学読本　第3版』（有斐閣、2018年）

※変更の可能性もあるので、初回は購入せずに参加すること

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜指示する

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス（演習の目的・概要説明、報告分担決定など）
第2回　（必要があれば）憲法に関する基礎的内容の講義
第3回　指定テキストの報告及び検討・議論（第1章　総論・憲法史）
第4回　指定テキストの報告及び検討・議論（第2章　象徴天皇制）
第5回　指定テキストの報告及び検討・議論（第4章　人権総論）
第6回　指定テキストの報告及び検討・議論（第5章　包括的基本権）
第7回　指定テキストの報告及び検討・議論（第6章　法の下の平等）
第8回　指定テキストの報告及び検討・議論（第7章　思想・良心の自由および信教の自由）
第9回　指定テキストの報告及び検討・議論（第8章　表現の自由・集会結社の自由・学問の自由）
第10回　指定テキストの報告及び検討・議論（第9章　経済的自由）
第11回　指定テキストの報告及び検討・議論（第11章　参政権・国務請求権）
第12回　指定テキストの報告及び検討・議論（第12章　社会権）
第13回　指定テキストの報告及び検討・議論（第13章　統治の基本原理）
第14回　指定テキストの報告及び検討・議論（第17章　憲法訴訟）
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

担当回の報告内容：50%
検討・議論への参加状況：50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

テキストの報告が複数回課されるので、報告担当者は、該当部分の内容をまとめたレジュメを用意すること。
報告者以外も、テキストの該当部分を十分読み込んで、議論に参加できるように準備しておくこと。
授業終了後には論点をまとめ復習すること。

履修上の注意　/Remarks

憲法についてある程度の前提知識を有していることが望ましいが、強い関心があれば未習者であっても歓迎する。

憲法BII 【夜】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

行政法AI 【夜】

担当者名 /Instructor　近藤　卓也 / KONDO TAKUYA / 法律学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion),Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、行政法分野の知識を修得する。
技能		
態度		

※　◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

行政法ＡＩ

※　政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要　/Course Description

「行政法総論」分野の諸問題について、判例報告と論文報告を通じて検討します。

教科書　/Textbooks

初回の講義で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜指示します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス (授業内容の説明など)
第2回　法律による行政の原理(1)【判例報告】
第3回　法律による行政の原理(2)【論文報告】
第4回　法規命令(1)【判例報告】
第5回　法規命令(2)【論文報告】
第6回　行政規則(1)【判例報告】
第7回　行政規則(2)【論文報告】
第8回　行政行為の職権取消し(1)【判例報告】
第9回　行政行為の職権取消し(2)【論文報告】
第10回　行政裁量(1)【判例報告】
第11回　行政裁量(2)【論文報告】
第12回　行政上の強制執行(1)【判例報告】
第13回　行政上の強制執行(2)【論文報告】
第14回　行政手続(1)【判例報告】
第15回　行政手続(2)【論文報告】
※受講人数、受講者の希望等によって、内容を変更することがあります。

成績評価の方法　/Assessment Method

報告50%、日常の授業への取組み50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

適宜、教員が指示する課題に取り組むこと。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

行政法AII 【夜】

担当者名 /Instructor　近藤　卓也 / KONDO TAKUYA / 法律学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Course Completion),Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、行政法分野の知識を修得する。
技能		
態度		

※　◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

行政法ＡⅡ

※　政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要　/Course Description

「行政救済法」分野の諸問題について、判例報告と論文報告を通じて検討します。

教科書　/Textbooks

初回の講義で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜指示します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス (授業内容の説明など)
第2回　処分性(1)【判例報告】
第3回　処分性(2)【論文報告】
第4回　原告適格(1)【判例報告】
第5回　原告適格(2)【論文報告】
第6回　訴えの利益(1)【判例報告】
第7回　訴えの利益(2)【論文報告】
第8回　差止訴訟(1)【判例報告】
第9回　差止訴訟(2)【論文報告】
第10回　当事者訴訟(1)【判例報告】
第11回　当事者訴訟(2)【論文報告】
第12回　民間委託と国家賠償(1)【判例報告】
第13回　民間委託と国家賠償(2)【論文報告】
第14回　規制権限の不行使(1)【判例報告】
第15回　規制権限の不行使(2)【論文報告】
※受講人数、受講者の希望等によって、内容を変更することがあります。

成績評価の方法　/Assessment Method

報告50%、日常の授業への取組み50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

適宜、教員が指示する課題に取り組むこと。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

民法AI 【夜】

担当者名 /Instructor　矢澤　久純 / 法律学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Course Completion),Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、民法分野の知識を修得する。
技能		
態度		

※　◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

民法ＡＩ

※　政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要　/Course Description

この科目では、民法の中の民法総則の部分について考える。民法を学習する場合、民法総則が基本となる。また、法学全般の基本でもある。ここを学習することは、大きな意味があるものと思われる。この分野について、２０１７年民法（債権法）改正および裁判例に留意しながら、講義および学生の報告という形で（後者が主となる。）、授業を進めてゆきたい。学部の授業のときよりも、一歩踏み込んだ議論を展開することが望まれる。

教科書　/Textbooks

民法総則分野の本であれば、なんでも良い。大学院の授業であるから、２０１７年改正前の内容の書籍であっても、議論の対象にする必要がある点に注意すること。なぜなら、改正前と改正後の比較検討も重要な論点だからである。何らかの書籍の購入は義務づけない。図書館にあるものでも良い。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要があれば、指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回　信義誠実の原則の適用範囲
３回　権利の濫用の適用範囲
４回　未成年者をめぐる諸問題
５回　成年後見をめぐる諸問題
６回　物をめぐる諸問題
７回　法律行為をめぐる諸問題
８回　虚偽表示をめぐる諸問題
９回　錯誤をめぐる諸問題
１０回　詐欺、強迫をめぐる諸問題
１１回　代理をめぐる諸問題
１２回　無権代理をめぐる諸問題
１３回　条件、期限をめぐる諸問題
１４回　時効をめぐる諸問題
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への取り組み、参加意欲　…　５０　％
学期末に提出してもらうレポート　…　５０　％
（レポート課題は、講義で取り扱ったものの中から、後日、指定する。）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

民法総則に関する複数の教科書や体系書を実際に読むことが望まれる。必要に応じて、裁判例について研究者による評釈を読むと良い。

履修上の注意　/Remarks

六法を必ず持参すること。
それなりに調査・研究することが望まれる。授業開始前までにシラバスを確認し予習しておくこと。

民法AI 【夜】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この科目は、留学生が法学日本語を学習するための科目でもある。そのため、法学研究科の日本人学生および他研究科学生が受講を希望する場合に、状況によっては受け入れが難しい場合がある。

キーワード　/Keywords

民法総則、民法改正、債権法改正

民法AII 【夜】

担当者名 /Instructor　矢澤　久純 / 法律学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Course Completion),Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、民法分野の知識を修得する。
技能		
態度		

※　◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

民法ＡⅡ

※　政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要　/Course Description

この授業では、いわゆる環境問題に関わる不法行為を大きなテーマとする。すなわち、不法行為法について、裁判例に留意しながら、講義および学生の報告という形で（後者が主となる。）、授業を進めて行きたい。その際、日本と中国の不法行為法について、比較研究をすることを目標としたい。従って、日本では民法７０９条以下の不法行為制度、中国では侵権行為法が、この授業での主たる研究対象となる。
中国法も扱うため、基本的な中国語を読むことができる者のみ、受講を許可する。

教科書　/Textbooks

使用せず。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要があれば、指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回　権利侵害をめぐる諸問題
３回　違法性をめぐる諸問題
４回　故意をめぐる諸問題
５回　過失一般をめぐる諸問題
６回　注意義務の定立過程をめぐる諸問題
７回　事実的因果関係をめぐる諸問題
８回　因果関係の立証をめぐる諸問題
９回　賠償範囲確定をめぐる諸問題
１０回　過失相殺をめぐる諸問題
１１回　使用者責任をめぐる諸問題
１２回　工作物責任をめぐる諸問題
１３回　共同不法行為をめぐる諸問題
１４回　特別法をめぐる諸問題
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への取り組み、参加意欲　……　５０　％
学期末に提出してもらうレポート　……　５０　％
（レポート課題は、授業で取り扱ったものの中から、後日、指定する。）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

不法行為法の教科書・体系書を読むと良い。関連する裁判例についても読むと良い。

履修上の注意　/Remarks

六法は必ず持参すること。
それなりに調査・研究することが望まれる。

民法AII 【夜】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この科目は、留学生が法学日本語を学習するための科目でもある。そのため、法学研究科の日本人学生および他研究科学生が受講を希望する場合に、状況によっては受け入れが難しい場合がある。

キーワード　/Keywords

不法行為法、中国法

民法BI 【夜】

担当者名 /Instructor　福本　忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Course Completion),Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、民法分野の知識を修得する。
技能		
態度		

※　◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

民法ＢＩ

※　政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要　/Course Description

この授業では、債権法分野に関する最重要判決（判例）の「再」検討を行う。学部時代、基本書・体系書を読んだり、ゼミ（演習）における判例研究報告などで、一度はこれらの判決理由（の一部）を読んだことのあるものばかりであろう。しかし、この授業では、主として、「当該判決が公表された当時の学説の応接」および「改正民法（債権法）下における当該判決の位置づけ（の変容）」の観点から、より深く当該最高裁（または大審院）判決を分析していく。学部とは一線を画する質の高い民事判例研究報告・判例評釈執筆を行ってもらいたい。

教科書　/Textbooks

※最新年度の六法（判例付きのものが望ましい。）必携。
※その他、民法（債権総論・同各論を対象としたもので、かつ、改正民法にも対応しているものであれば、普段使用しているものでよい。こちらからは特に指定はしない。）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References（Available in the library: ○ ）

※参考書については、適宜指導のなかで紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回 ：ガイダンス；授業内容・進め方、報告順、成績評価方法等についての説明。
第2回 ：「カフェー丸玉女給事件・再論①（判決理由の分析）」
※以下、受講院生と教員との対話形式で判決の解析・分析を行う。
第3回 ：「カフェー丸玉女給事件・再論②（判決当時の学説の応接・改正民法下における本判決の位置づけ）」
第4回 ：「タービンポンプ事件・再論①（判決理由の分析）」
第5回 ：「タービンポンプ事件・再論②（判決当時の学説の応接・改正民法下における本判決の位置づけ）」
第6回 ：「『塩釜声の新聞社』事件・再論①（判決理由の分析）」
第7回 ：「『塩釜声の新聞社』事件・再論②（判決当時の学説の応接・改正民法下における本判決の位置づけ）」
第8回 ：「ブルドーザー事件・再論①（判決理由の分析）」
第9回 ：「ブルドーザー事件・再論②（判決当時の学説の応接・改正民法下における本判決の位置づけ）」
第10回：「大学湯事件・再論①（判決理由の分析）」
第11回 ：「大学湯事件・再論②（判決当時の学説の応接・改正民法下における本判決の位置づけ）」
第12回 ：「債務の不履行の軽微性と解除；最（二小）判 昭和43年2月23日 民集22巻2号281頁および改正民法541条ただし書（判決理由の分析と改正民法下における本判決の位置づけの検討）」
第13回 ：改正民法541条ただし書（いわゆる「軽微性の抗弁」）についての研究
第14回 ：受講院生（ら）による民事判例研究報告（1人報告30分、質疑・応答15分を予定。）
第15回 ：まとめ
※8月初旬（予定）、レポート（6,000字程度）を提出すること。内容は、この授業で検討・分析した最高裁判決（ないし大審院判決）を対象とする判例評釈とする。ただし、「大学院レヴェル」の評釈を求めるので、学説の配置、判決当時の学説と当該判決（最高裁等が示した規範）との関係の詳細な分析、改正民法下における当該判決の位置づけの検討など、多岐に渡る内容を期待する。なお、執筆要領その他の詳細は、初回授業時に説明する。

成績評価の方法　/Assessment Method

※授業中の発言内容、議論・対話への積極的参加の度合い……70%
※第14回（予定）で行う民事判例研究報告の内容……15%
※期末レポート（判例評釈）の内容……15%
以上の合算で成績を評価する。
【注意】期末レポート（判例評釈）未提出者には、原則として単位を付与しないので注意すること。

民法BI 【夜】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

【事前学習】大審院判決を扱うので、当然、大審院民事判決録、大審院民事判例集をじっくり読み込んで来ることが必要となる。また、各種判例評釈、調査官解説、および改正民法における諸制度（制度趣旨・要件・効果）についても予習をしてくることが求められる。なお、この予習に必要な学習時間の目安は90分である。
【事後学習】毎回授業の終わりに、担当教員から口頭にて簡単な課題を提示するので（検討した各判決に関連する学説を整理する課題を予定）、それについて復習を兼ねて調べてくること。ペーパーの提出を求める予定である。なお、この復習に必要な学習時間の目安は60分である。

履修上の注意　/Remarks

改正民法下における上掲各判決の位置づけについても研究・分析を進めるので、各自、自主的に改正民法（債権法改正）の学習を進めておいてもらいたい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

戦前の「大審院判例審査会」が当時の民録・民集の「判決要旨」作成に当たって、上掲・各大審院判決の判旨をどのように受け止めていたかといった点まで分析してもらいたい。

キーワード　/Keywords

大審院判決、改正民法下における判決の位置づけ（の変容）、債権法

民法BII 【夜】

担当者名 /Instructor　福本　忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Course Completion),Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、民法分野の知識を修得する。
技能		
態度		

※　◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

民法ＢⅡ

※　政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要　/Course Description

この授業では、民法・財産法（なかでも債権法）分野に関する学術論文（内容としては、フランス民法を比較法または分析の主たる対象とした論説等）の検討を行う。学部時代に培った文献解析能力等を総動員して、質の高い研究報告、文献・論文の検討、およびレポート執筆を行う力を養うことがこの授業のねらいである。

教科書　/Textbooks

※使用しない。民法（債権法）の基本書・体系書（改正民法にも対応のものが望ましい。）、フランス（民）法の概説書等については、受講院生が普段使用しているものを持参すること。なお、最新版（年度）の六法必携。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References（Available in the library: ○　）

※適宜、指導のなかで紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

※【　】内はキーワード。
第1回 ：ガイダンス；授業内容・進め方、報告順、成績評価方法等についての説明。【大学院レヴェルの研究報告とは？】
第2回 ：報告学術論文概要報告（受講生全員）。【フランス債務法を対象とする代表的研究論文の紹介】
第3回 ：教員による研究報告および質疑・応答【2016年改正前フランス民（債務）法における法定解除の法的基礎と要件（論）】
第4回 ：教員による研究報告に対する質疑・応答【「黙示の解除条件」とフランス民法旧1184条】、【フランス民法（債務法）2016年改正】
第5回 ：院生による報告および質疑・応答 その1【報告論説の内容理解】、【フランス法上の法制度の理解】
第6回 ：院生による報告および質疑・応答 その2【フランスの判例を意識した質疑・応答】、【20世紀科学学派】
第7回 ：院生による報告および質疑・応答 その3【比較法的考察（フランス民法とわが国の民法との差異に着目した分析）】
第8回 ：院生による報告および質疑・応答 その4【わが国旧民法への接続（ボワソナード草案の研究も兼ねて）】
第9回 ：院生による報告および質疑・応答 その5【ローマ法からフランス民法典（原始規定）制定までの流れを意識した質疑・応答】
第10回 ：院生による報告および質疑・応答 その6【わが国における当該分野の研究の現状と課題】
第11回 ：原著（フランス債務法）研究その1 【改正フランス民法（債務法）における契約解除制度】
※ただし、受講院生がフランス語を読めない場合、他の内容を協議のうえで決定する場合がありうる。
第12回 ：原著（フランス債務法）研究その2 【19世紀註釈学派の名著に触れる（オーブリィ＝ロー、ローランの著作など）】
第13回 ：原著（フランス債務法）研究その3 【フランス（旧）民法典編纂過程に関する資料に触れる（共和国暦8年草案など）】
第14回 ：原著（フランス債務法）研究その4 【フランス民法典に影響を与えた学説に触れる（ドマ、ポティエの著作など）】
第15回 ：まとめ
※令和3年2月初旬（予定）、期末レポート（4,000字程度）を提出すること。内容は、この授業で検討したフランス民法上の制度とわが国民法上の法制度との比較法的考察を主たるテーマとしたものとする。執筆要領その他詳細は、初回授業時（以降、適宜）に説明する。

成績評価の方法　/Assessment Method

※授業中の発言内容、議論への積極的参加の度合い、報告内容など……80%
※期末レポートの内容……20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

【事前学習】；第2回授業時（予定）に紹介する「フランス債務法分野を対象とする代表的研究論文」について、その数本を事前に熟読し、研究テーマの深化に努めること（毎週1論説は通読してもらいたい。最初は短いものでよい。）。なお、この予習に必要な学習時間の目安は60分である。
【事後学習】；各授業の終わりに、「復習課題」を指示するので、その内容に従い、課題をこなすことが求められる（内容は、各回で扱ったテーマを補足する資料等の熟読・内容の要約などである。）。なお、この復習に必要な学習時間の目安は60分である。

民法BII 【夜】

法律学系科目
専門科目

履修上の注意　/Remarks

研究報告準備･レポート執筆など、負担の大きい授業である。また、フランス民法（債務法）を扱うので、まずは各大学の紀要等に掲載されている論説を読むなどして、フランス民法の研究に慣れておくことが肝要である。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

フランス債務法（改正前･改正後問わず）に関心を持とう！ 旧民法（およびボワソナード草案）にも関心を持とう！

キーワード　/Keywords

フランス債務法研究

民法DI 【夜】

担当者名 /Instructor　清水　裕一郎 / Yuichiro Shimizu / 法律学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Course Completion),Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、民法分野の知識を修得する。
技能		
態度		

※　◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

民法ＤＩ

※　政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要　/Course Description

担保物権法（特に動産担保）に関するドイツ語の文献を読むことを通して，今後の研究に必要なドイツ語の法律文献を理解する力を養成するとともに，日本法とドイツ法の違いについて理解を深める。

教科書　/Textbooks

Weber/Weber, Kreditsicherungsrecht, 10. Auflage 2018 (C.H.Beck)　3,978円（Amazonにおける参考価格）
＊為替相場の変動等により，価格が変更される場合がある。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References（Available in the library: ○ ）

ベルンド・ゲッツェ『独和法律用語辞典〔第2版〕』（成文堂，平成22年）　本体8,000円＋税
山田晟『ドイツ法律用語辞典〔改訂増補版〕』（大学書林，平成5年）　本体30,000円＋税○
このほか，必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス
第2回　Einleitung (SS. 1-4)
第3回　Allgemeines I, II (SS. 4-8)
第4回　Allgemeines III (SS. 8-12)
第5回　Allgemeines IV (SS. 13-18)
第6回　Allgemeines V (SS. 18-29)
第7回　Allgemeines V (SS. 30-34)
第8回　Allgemeines V (SS. 34-40)
第9回　Das Pfandrecht I (SS. 111-114)
第10回　Das Pfandrecht II (SS. 114-118)
第11回　Das Pfandrecht II (SS. 118-122)
第12回　Das Pfandrecht III (SS. 122-126)
第13回　Das Pfandrecht IV, V (SS. 126-128)
第14回　Besondere Pfandrechtsformen (SS. 129-132)
第15回　まとめ

＊授業の内容は，受講者の希望や授業の進行状況等に応じて，一部変更することがある。

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み…50%，期末試験（関連する内容の文献の独文和訳）…50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

毎回の授業で取り扱う部分について，必ず事前に和訳をして授業で発表することができるようにしておくこと。

履修上の注意　/Remarks

ドイツ語の基礎的な文法知識があることを前提に授業を進める。
この授業においてドイツ語の文法等の解説を行う予定はないので，十分に注意すること。
また，授業内容を理解するためには，担保物権法（特に動産担保）に関する日本法の知識も必要不可欠である。

民法DI 【夜】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

高度な内容の授業となることを覚悟した上で受講すること。

キーワード　/Keywords

担保物権法　ドイツ法　動産担保

民法DII 【夜】

担当者名 /Instructor　清水　裕一郎 / Yuichiro Shimizu / 法律学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Course Completion),Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、民法分野の知識を修得する。
技能		
態度		

※　◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

民法ＤⅡ

※　政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要　/Course Description

1学期に引き続き，担保物権法（特に動産担保）に関するドイツ語の文献を読むことを通して，今後の研究に必要なドイツ語の法律文献を理解する力を養成するとともに，日本法とドイツ法の違いについて理解を深める。

教科書　/Textbooks

Weber/Weber, Kreditsicherungsrecht, 10. Auflage 2018 (C.H.Beck)　3,978円（Amazonにおける参考価格）
＊為替相場の変動等により，価格が変更される場合がある。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References（Available in the library: ○ ）

ベルンド・ゲッツェ『独和法律用語辞典〔第2版〕』（成文堂，平成22年）　本体8,000円＋税
山田晟『ドイツ法律用語辞典〔改訂増補版〕』（大学書林，平成5年）　本体30,000円＋税○
このほか，必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス
第2回　Sicherungsübereignung I (SS. 132-134)
第3回　Sicherungsübereignung II (SS. 134-139)
第4回　Sicherungsübereignung III, IV (SS. 139-142)
第5回　Sicherungsübereignung V (SS. 142-147)
第6回　Sicherungsübereignung VI, VII (SS. 147-151)
第7回　Der einfache Eigentumsvorbehalt I (SS. 151-156)
第8回　Der einfache Eigentumsvorbehalt II, III (SS. 156-159)
第9回　Der einfache Eigentumsvorbehalt IV (SS. 159-162)
第10回　Der einfache Eigentumsvorbehalt V, VI (SS. 162-166)
第11回　Der einfache Eigentumsvorbehalt VII (SS. 166-168)
第12回　Sonderformen des Eigentumsvorbehalts I (SS. 168-170)
第13回　Sonderformen des Eigentumsvorbehalts II (SS. 170-174)
第14回　Sonderformen des Eigentumsvorbehalts III, IV, V (SS. 174-175)
第15回　まとめ

＊授業の内容は，受講者の希望や授業の進行状況等に応じて，一部変更することがある。

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み…50%，期末試験（関連する内容の文献の独文和訳）…50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

毎回の授業で取り扱う部分について，必ず事前に和訳をして授業で発表することができるようにしておくこと。

履修上の注意　/Remarks

ドイツ語の基礎的な文法知識があることを前提に授業を進める。
この授業においてドイツ語の文法等の解説を行う予定はないので，十分に注意すること。
また，授業内容を理解するためには，担保物権法（特に動産担保）に関する日本法の知識も必要不可欠である。

民法DII 【夜】

法律学系科目
専門科目

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

高度な内容の授業となることを覚悟した上で受講すること。

キーワード　/Keywords

担保物権法　ドイツ法　動産担保

商法AI 【夜】

担当者名 /Instructor　今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Course Completion),Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、商法分野の知識を修得する。
技能		
態度		

※ ◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

商法ＡＩ

※ 政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

本講義のねらいは、具体的ケースを取り上げながら、銀行事業・証券事業・保険事業・貸金業など、いわゆる金融業に伴って生じる諸問題について、ニュースや裁判例を素材にして、法的な観点から検討を加えることにあります。

【注意】下記の授業計画・内容の項に記載されたテーマは、あくまで、一つの例示です。
受講者の興味・関心事が優先されます。希望するテーマへと自由に変更・差し替えをすることができます。

教科書 /Textbooks

初回時に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ、その都度、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回　オリエンテーション・報告テーマの検討、報告順番等の決定
第2回　報告テーマの確定、基本文献や参考文献、基本判例や関連判例等の検討
第3回　銀行取引に関する法律文献の講読・討論①論点設定
第4回　銀行取引に関する法律文献の講読・討論②各論点分析
第5回　銀行取引に関する法律文献の講読・討論③前回の議論で出た質問・視点に対する追加報告と比較検討
第6回　前回テーマのまとめ、および、保険取引に関するテーマの設定・文献の選択
第7回　保険取引に関する法律文献の講読・討論①論点設定
第8回　保険取引に関する法律文献の講読・討論②各論点分析
第9回　保険取引に関する法律文献の講読・討論③前回の議論で出た質問・視点に対する追加報告と比較検討
第10回　前回テーマのまとめ、および、証券取引に関するテーマの設定・文献の選択
第11回　証券取引に関する法律文献の講読・討論①論点設定
第12回　証券取引に関する法律文献の講読・討論②各論点分析
第13回　証券取引に関する文献の講読・討論③前回の議論で出た質問・視点に対する追加報告と比較検討
第14回　前回テーマのまとめ
第15回　総まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告（レポート）内容５０％、ディスカッションへの参加度５０％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

(事前学習）　次回取り上げる題材に目を通し、参考文献等については，メモをとり，要点・疑問点をまとめておいてください。

（事後学習）　授業終了後には論点をまとめて学習した内容を振り返り、知識を定着させ、自身の問題関心に役立ててください。

商法AI 【夜】

履修上の注意　/Remarks

報告レジュメに関してはできるだけ事前に参加者に配布できるようにすることが，望ましいです。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

銀行取引、保険取引、証券取引

商法AII 【夜】

担当者名 /Instructor　今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Course Completion),Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、商法分野の知識を修得する。
技能		
態度		

※ ◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

商法ＡⅡ

※ 政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

本講義のねらいは、具体的なニュースや裁判例を取り上げながら、企業取引で生じている今日的な問題に商事法的な観点から分析・検討を加えることにあります。

【注意】下記の授業計画・内容の項に記載されたテーマは、あくまで、一つの例示です。
受講者の興味・関心事が優先されます。
希望するテーマへと自由に変更・差し替えをすることができます。

教科書 /Textbooks

使用しない。各自の関心に応じて適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自のテーマに応じて、適宜、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

01回　ゼミの運営方針の説明。
テーマ・事例の選定にあたり、各自の問題意識を再確認し、あるいは、明確化する。
02回　興味のあるテーマに関わる資料（裁判例・統計・新聞雑誌記事・研究論文など）を検索してみる
関連資料の多寡や入手の難易度を調査して、テーマとして取り組みやすいかどうかを見極める。
03回　複数の報告候補テーマを紹介し合う。
調査・分析の方法や範囲などについて、意見交換・助言の実施。
04回　各自が取り組むテーマ（後からの変更もOK）を暫定的に決定すると共に報告順番を定める。
05回　報告と討論　例：営業秘密と不正競争
06回　報告と討論　例：秘密保持契約をめぐる問題点
07回　報告と討論　例：新しい事業形態と名板貸責任
08回　報告と討論　例：新しい事業形態と報償責任
09回　報告と討論　例：食品の偽装表示
10回　報告と討論　例：銀行取引約定書における債権保全規定
11回　報告と討論　例：金利の規制
12回　報告と討論　例：貸付債権の流動化をめぐる問題点（住専問題・リーマンショックから学ぶ）
13回　報告と討論　例：インサイダー取引
14回　報告と討論　例：消費者信用
15回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告レポートの内容５０％、ディスカッションへの参加度５０％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

（事前学習）次回までに読んでおくべき参考文献等については，メモをとり，要点・疑問点をまとめておくこと。
（事後学習）学習した内容を振り返り、知識を定着させ、自身の問題関心に役立てること。

商法AII 【夜】

履修上の注意　/Remarks

１，予習・復習はもちろん、テーマについての自発的なリサーチが求められます。
２，報告レジュメに関してはできるだけ事前に参加者に配布できるようにすることが，望ましいといえます。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

不正競争　財産的な価値のある事実関係　融資　信用

商法BI 【夜】

担当者名 /Instructor　高橋 衛 / 法律学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Course Completion),Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、商法分野の知識を修得する。
技能		
態度		

※ ◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

商法ＢＩ

※ 政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

近年の会社法改正問題を中心に、会社法の重要論点について検討します。この授業では、主に、株式会社の機関に関する問題を扱います。

教科書 /Textbooks

教科書は特に指定しない。必要な資料は適宜配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の授業で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第１回　ガイダンス
第２回　株式会社の機関の概要
第３回　株主総会（１）【招集】【株主の議決権】
第４回　株主総会（２）【委任状の勧誘】【株主提案権】
第５回　株主総会（３）【決議の瑕疵】
第６回　株式会社の業務執行（１）【取締役会】
第７回　株式会社の業務執行（２）【代表取締役】
第８回　株式会社の監督・監査
第９回　取締役の義務
第１０回　取締役の報酬規制
第１１回　取締役の責任（１）【会社に対する責任】
第１２回　取締役の責任（２）【株主代表訴訟】
第１３回　取締役の責任（３）【第三者に対する責任】
第１４回　親子会社のガバナンス
第１５回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告…50％、日常の授業への取り組み…50％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

商法BII 【夜】

担当者名 /Instructor　高橋 衛 / 法律学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion),Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、商法分野の知識を修得する。
技能		
態度		

※ ◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

商法ＢⅡ

※ 政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

近年の会社法改正問題を中心に、会社法の重要論点について検討します。この授業では、主に、株式会社のファイナンスやM&Aに関する法律問題を扱います。

教科書 /Textbooks

教科書は特に指定しない。必要な資料は適宜配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の授業で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第１回　ガイダンス
第２回　株式会社のファイナンスの概要
第３回　株式の発行（１）【授権資本制度】【有利発行】
第４回　株式の発行（２）【不公正発行】
第５回　株式の発行（３）【新株発行の無効】
第６回　株式の譲渡
第７回　自己株式の取得
第８回　新株予約権
第９回　社債
第１０回　組織再編・M&A（１）【合併】【会社分割】
第１１回　組織再編・M&A（２）【株式交換】【株式移転】
第１２回　組織再編・M&A（３）【株式買取請求権】
第１３回　組織再編・M&A（４）【敵対的買収】
第１４回　非公開化取引
第１５回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告…50%、日常の授業への取り組み…50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民事訴訟法AI 【夜】

担当者名 /Instructor　小池　順一 / junichi KOIKE / 法律学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Course Completion),Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、民事訴訟法分野の知識を修得する。
技能	○	多様な法的問題や特定の課題について、批判的に分析し、論理的に思考し議論することができる。
態度		

※　◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

民事訴訟法ＡＩ

※　政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要　/Course Description

民事訴訟法に関する学説上、基本的な論点について、受講生に文献・判例を調査、報告してもらい、その上で、討論をします。このことにより民事訴訟法についての知識を修得することを目的とします。最終的に、レポートを提出してもらいます。　レポートの分量は、10000字程度を予定しています。なお、レポートのテーマについては、受講生と相談の上、決定します。

到達目標は以下のとおりです。
・ 司法書士、裁判所事務官、法律事務所事務員などの専門的職業人として活躍するために必要となる民事裁判の専門的知識を修得できる。
・ 学部での学習、社会人としての経験から関心を持った民事裁判についての問題を掘り下げて研究するための批判的分析能力・論理的思考能力を身につけることができる。

教科書　/Textbooks

特に，指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業時に、受講生に指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　法律上の争訟
３回　移送
４回　除斥、忌避
５回　死者を当事者とする訴訟
６回　法人でない社団の当事者能力
７回　法定訴訟担当
８回　訴訟能力
９回　将来の給付の訴え
１０回　遺言無効確認の訴え
１１回　証書真否確認の訴え
１２回　訴えの交換的変更
１３回　境界確定の訴え
１４回　相殺の抗弁と重複訴訟
１５回　一部請求

成績評価の方法　/Assessment Method

報告状況　…　５０　％　　レポート　…　５０　％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前に指定した範囲の課題を準備しておくこと。
事後に、学習した内容をまとめておくこと。
(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習30分です。)

民事訴訟法AI 【夜】

履修上の注意　/Remarks

受講生に個別に指示します。
授業開始前までにシラバスを確認し予習しておくこと。授業終了後には論点をまとめ復習すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

民事訴訟法AII 【夜】

担当者名 /Instructor　小池　順一 / junichi KOIKE / 法律学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Course Completion),Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、民事訴訟法分野の知識を修得する。
技能	○	多様な法的問題や特定の課題について、批判的に分析し、論理的に思考し議論することができる。
態度		

※　◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

民事訴訟法ＡⅡ

※　政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要　/Course Description

民事訴訟法に関する学説上、重要な論点について、受講生に文献・判例を調査、報告してもらい、その上で、討論する。最終的にレポートを作成することを目的とする。この講義を受講することにより、民事訴訟法についての幅広く、深い知識を修得できる。
レポートの分量は、10000字程度を予定している。なお、テーマについては、受講生と相談の上、決定する。
到達目標は以下のとおりです。
司法書士、裁判所事務官、法律事務所事務員などの専門的職業人として活躍するために必要となる民事裁判の専門的知識を修得できる。
学部での学習、社会人としての経験から関心を持った民事裁判についての問題を掘り下げて研究するための批判的分析能力・論理的思考能力を身につけることができる。

教科書　/Textbooks

特に，指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

講義時に受講生に指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　攻撃防御方法の提出と信義則
３回　時機に遅れた攻撃防御方法
４回　弁論主義
５回　釈明権
６回　権利自白
７回　集団訴訟における証明
８回　概括的認定
９回　損害賠償額の算定
１０回　違法収集証拠
１１回　証明責任
１２回　文書提出命令
１３回　既判力の時的限界
１４回　既判力の客観的範囲
１５回　既判力の主観的範囲

成績評価の方法　/Assessment Method

報告状況　…　５０　％　　レポート　…　５０　％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習として、指定された範囲の予習を行うこと。
事後学習として、授業内容の復習を行うこと。
(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習30分です。)

民事訴訟法AII 【夜】

履修上の注意　/Remarks

授業前に、文献・判例を充分調査・検討して、講義に臨むこと。授業終了後には論点をまとめ復習すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

民事訴訟法BI 【夜】

担当者名 /Instructor　渡邊　典子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Course Completion),Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、民事訴訟法分野の知識を修得する。
技能	○	多様な法的問題や特定の課題について、批判的に分析し、論理的に思考し議論することができる。
態度		

※　◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

民事訴訟法ＢＩ

※　政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要　/Course Description

破産法・民事再生法の基本的な知識を身に着けていただき、重要論点について事例や判例を元に、演習を行っていきたいと思います。

教科書　/Textbooks

田頭章一　『講義　破産法・民事再生法　重要論点の解説と演習』有斐閣2016年　2900円（税別）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

伊藤眞『破産法・民事再生法』第４版　有斐閣　2018年　8300円（税別）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1ガイダンス　倒産手続の基礎①
2倒産手続の基礎②
3破産債権、再生債権等の個別的権利行使の制限
4破産債権、再生債務者財産の管理処分権及び事業遂行権の取扱い
5破産債権と再生債権①概要
6破産債権と再生債権②多数債務者関係の問題
7破産債権と再生債権③優先順位
8財団債権と共益債権①概要
9財団債権と共益債権②検討
10破産手続及び民事再生手続の申立て・開始・手続機関①概要
11破産手続及び民事再生手続の申立て・開始・手続機関②検討
12破産財団・再生債務者財産をめぐる法律関係整理の基礎
13賃貸借契約①概要
14賃貸借契約②検討
15委任契約その他の契約・法律関係

成績評価の方法　/Assessment Method

課題　３割
レポート　７割

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前に教科書の該当箇所を読んで、基本的な知識を参考書などで確認をしておいてください。
課題を数回課す予定ですので、回答を作成して提出してください。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

実務における経験談もお話できればと思っています。

民事訴訟法BI 【夜】

キーワード　/Keywords

民事訴訟法BII 【夜】

担当者名 /Instructor　渡邊　典子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Course Completion),Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、民事訴訟法分野の知識を修得する。
技能	○	多様な法的問題や特定の課題について、批判的に分析し、論理的に思考し議論することができる。
態度		

※　◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

民事訴訟法ＢⅡ

※　政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要　/Course Description

破産法・民事再生法の基本的な知識を身に着けていただき、重要論点について事例や判例を元に、演習を行っていきたいと思います。

教科書　/Textbooks

田頭章一　『講義　破産法・民事再生法　重要論点の解説と演習』有斐閣2016年　2900円（税別）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

伊藤眞『破産法・民事再生法』第４版　有斐閣　2018年　8300円（税別）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1請負契約・継続的給付契約・労働契約①概要
2請負契約・継続的給付契約・労働契約②検討
3取戻権・別除権①概要
4取戻権・別除権②検討
5相殺権①概要
6相殺権②検討
7否認権①概要
8否認権②検討
9破産の進行と終了
10再生手続の進行と終了、手続相互の関係等
11個人破産・免責手続き①概要
12個人破産・免責手続き②検討
13個人再生手続
14破産・再生手続と相続、信託財産と破産・再生手続
15破産犯罪・再生犯罪

成績評価の方法　/Assessment Method

課題　３割
レポート　７割

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前に教科書の該当箇所を読んで、基本的な知識を参考書などで確認をしておいてください。
課題を数回課す予定ですので、回答を作成して提出してください。

履修上の注意　/Remarks

民事訴訟法ＢIとあわせてカリキュラムを作成していますので、あわせて受講することが望ましいです。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

実務の経験もお話できればと思っています。

民事訴訟法BII 【夜】

キーワード　/Keywords

刑法AI 【夜】

担当者名 /Instructor　土井　和重 / Kazushige Doi / 法律学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Course Completion),Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、刑法分野の知識を修得する。
技能		
態度		

※　◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

刑法ＡＩ

※　政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要　/Course Description

刑法学における主要なテーマについて、現時点における理論的到達点を把握することを目指します。刑法AIでは、特に刑法総論のテーマについて議論します。授業の形式は、受講者各位が関心のあるテーマを選択し、テーマごとの基本的文献と関連する文献について、まとめて報告してもらう形になります。その報告を基に、教員および受講者全員で議論をすることで、現在の刑法学の問題関心を明らかにして、修士論文のテーマの設定ないしは明確化に資するようにします。

教科書　/Textbooks

開講時に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○伊東研祐 / 松宮孝明編『リーディングス刑法』（法律文化社、2015年）
○高橋則夫 / 杉本一敏 / 仲道祐樹『理論刑法学入門　刑法理論の味わい方』（日本評論社、2014年）
この他、受講者の関心に応じて、適宜紹介します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス（演習の運営方針の説明、受講者によるテーマの選択）
第2回　文献の調べ方、報告の方法についての概説
第3回　テーマ①刑法解釈の方法論：受講者による報告・議論
第4回　テーマ①刑法解釈の方法論：議論で上がった質問に対する追加報告
第5回　テーマ②実行行為論：受講者による報告・議論
第6回　テーマ②実行行為論：議論で上がった質問に対する追加報告
第7回　テーマ③因果関係論：受講者による報告・議論
第8回　テーマ③因果関係論：議論で上がった質問に対する追加報告
第9回　テーマ④違法性の本質：受講者による報告・議論
第10回　テーマ④違法性の本質：議論で上がった質問に対する追加報告
第11回　テーマ⑤違法性阻却事由：受講者による報告・議論
第12回　テーマ⑤違法性阻却事由：議論で上がった質問に対する追加報告
第13回　テーマ⑥共犯論：受講者による報告・議論
第14回　テーマ⑥共犯論：議論で上がった質問に対する追加報告
第15回　演習全体の総括
※受講者の関心に応じて、相談の上で内容と順序を変更する可能性があります。

成績評価の方法　/Assessment Method

報告資料および報告内容（50%）、演習中の積極的な発言（50%）を総合的に評価する。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業前には，その都度指定する参考文献を一読して，臨んで下さい。
授業後は，授業中の議論を整理して，そこで紹介した参考文献を確認して下さい。

履修上の注意　/Remarks

レジュメ、その他プレゼンテーションソフトを利用した資料を作成し、事前に大学の学習支援システムにアップロードして下さい。
刑法総論および刑法各論を一通り学んでいることが前提とされます。授業終了後には論点をまとめ復習すること。
基本的には、刑事法分野で修士論文を執筆する予定の大学院生を念頭においていますが、それ以外の大学院生にも配慮したいと思います。

刑法AI 【夜】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

刑事法学　刑法総論　刑法各論

刑法AII 【夜】

担当者名 /Instructor　土井　和重 / Kazushige Doi / 法律学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Course Completion),Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、刑法分野の知識を修得する。
技能		
態度		

※　◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

刑法ＡⅡ

※　政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要　/Course Description

刑法学における主要なテーマについて、現時点における理論的到達点を把握することを目指します。刑法AIIでは、特に刑法各論のテーマについて議論します。授業の形式は、受講者各位が関心のあるテーマを選択し、テーマごとの基本的文献と関連する文献について、まとめて報告してもらう形になります。その報告を基に、教員および受講者全員で議論をすることで、現在の刑法学の問題関心を明らかにして、修士論文のテーマの設定ないしは明確化に資するようにします。
学期末には、報告を担当した項目について、レポートを提出してもらいます。

教科書　/Textbooks

開講時に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○伊東研祐 / 松宮孝明編『リーディングス刑法』（法律文化社、2015年）
この他、受講者の関心に応じて、適宜紹介します。

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス（演習の運営方針の説明、受講者によるテーマの選択）
第2回　刑法解釈学の方法論について概説
第3回　テーマ①住居侵入罪：受講者による報告・ 議論
第4回　テーマ①住居侵入罪：議論で上がった質問に対する追加報告
第5回　テーマ②名誉に対する罪：受講者による報告・ 議論
第6回　テーマ②名誉に対する罪：議論で上がった質問に対する追加報告
第7回　テーマ③財産犯論・ 総論：受講者による報告・ 議論
第8回　テーマ③財産犯論・ 総論：議論で上がった質問に対する追加報告
第9回　テーマ④詐欺罪：受講者による報告・ 議論
第10回　テーマ④詐欺罪：議論で上がった質問に対する追加報告
第11回　テーマ⑤背任罪：受講者による報告・ 議論
第12回　テーマ⑤背任罪：議論で上がった質問に対する追加報告
第13回　テーマ⑥文書偽造罪：受講者による報告・ 議論
第14回　テーマ⑥文書偽造罪：議論で上がった質問に対する追加報告
第15回　演習全体の総括
※受講者の関心に応じて、相談の上で内容と順序を変更する可能性があります。

成績評価の方法　/Assessment Method

報告資料および報告内容（30%）、レポート（40%）、演習中の積極的な発言（30%）

事前・ 事後学習の内容　/Preparation and Review

授業前には，その都度指定する参考文献を一読して，臨んで下さい。
授業後には，授業中の議論を整理して，そこで紹介した参考文献を確認して下さい。特に，報告後は，レポート作成のために，目次を書き出してみることを，推奨します。

刑法AII 【夜】

法律学系科目
専門科目

履修上の注意　/Remarks

レジュメ、その他プレゼンテーションソフトを利用した資料を作成し、事前に大学の学習支援システムにアップロードして下さい。
刑法総論および刑法各論を一通り学んでいることが前提とされます。授業終了後には論点をまとめ復習すること。
基本的には、刑事法分野で修士論文を執筆する予定の大学院生を念頭においていますが、それ以外の大学院生にも配慮したいと思います。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

刑事法学　刑法総論　刑法各論

刑法BI 【夜】

担当者名 /Instructor　大杉　一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion),Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、刑法分野の知識を修得する。	
技能			
態度			

※　◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

刑法ＢＩ

※　政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要　/Course Description

日本の刑法学において近年議論されている重要な理論的問題を各領域から取り上げて考察する。刑法に関する知識を拡充し、刑法理論の理解を深めて、法的思考の基礎を形成することを目的とする。

教科書　/Textbooks

開講後に受講生と相談して決定する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜必要と思われる文献・資料を紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

詳細は受講生と相談して決定する。基本的には、対象とする文献を要約することから始めて、問題点、問題状況及び理論状況を明らかにして、刑法理論を考察する。

１回　ガイダンス (演習の運営方針の説明・報告テーマの配分など)
２回　Research Paper の意義と作成法
３回　担当テーマについての論点と問題の所在の検討
４回　担当テーマに関する参考文献の整理と検討
５回　規範論と刑罰論(1)　判例・学説の分析
６回　規範論と刑罰論(2)　自説の提立と論証
７回　構成要件論(1)　判例・学説の分析
８回　構成要件論(2)　自説の提立と論証
９回　違法論(1)　判例・学説の分析
１０回　違法論(2)　自説の提立と論証
１１回　責任論(1)　判例・学説の分析
１２回　責任論(2)　自説の提立と論証
１３回　共犯論(1)　判例・学説の分析
１４回　共犯論(2)　自説の提立と論証
１５回　最終レポートの提出・まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

報告内容 (レポート・レジュメを含む) ... ５０％　　討論及び発言内容... ５０％
※提出されたレポートも報告内容に含めて総合的に評価する。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

摘要の作成など指示された予習を行って授業に臨みなさい。また、授業で指摘された事項や疑問点について、関連資料を参照して再検討したうえで摘要を再作成しなさい。

履修上の注意　/Remarks

刑法 (刑法総論および刑法各論) をひと通り学んでいること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

難易度の高い内容となるので、留意すること。

刑法BI 【夜】

キーワード　/Keywords
刑事法　刑法　犯罪論　刑罰論　刑法総論　刑法各論

刑法BII 【夜】

担当者名 /Instructor　大杉　一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion),Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、刑法分野の知識を修得する。
技能		
態度		

※　◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

刑法ＢⅡ

※　政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要　/Course Description

日本の刑法理論の理解を深めるために、比較法的研究として、母法であるドイツ法と英米法系の司法制度と刑法の概要を考察する。

教科書　/Textbooks

①Fritz Baur ; fortgeführt von Gerhard Walter, Einführung in das Recht der Bundesrepublik Deutschland., 6., Aufl., München : Beck , 1992.
②Claus Roxin/Gunther Arzt/Klaus Tiedemann, Einführung in das Strafrecht und Strafprozeßrecht., 6. Aufl., Heidelberg : C.F. Müller, 2013.
③William Geldart/David Yardley, Introduction to English Law, 11. edit., Oxford Univ Press, 1995.
④村上淳一 / 守矢健一 / ハンス・ペーター・マルチュケ『ドイツ法入門（外国法入門双書）』改訂9版（有斐閣・2018.05）。
⑤伊藤正己 / 木下毅『アメリカ法入門』5版（東京：日本評論社・2012.02）。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References（Available in the library: ○　）

適宜必要と思われる文献・資料を紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

詳細は受講生と相談して決定する。基本的には、対象とする文献を要約することから始めて、問題点、問題状況及び理論状況を明らかにして、刑法理論を考察する。

１回　ガイダンス（演習の運営方針の説明・報告テーマの配分など）
２回　ドイツ法の歴史（『ドイツ法入門』）
３回　英米法の歴史（『アメリカ法入門』）
４回　憲法・基本法の比較法的考察（『ドイツ法入門』・『アメリカ法入門』）
５回　刑法の比較法的考察（『ドイツ法入門』・『アメリカ法入門』）
６回　司法制度の比較法的考察（『ドイツ法入門』・『アメリカ法入門』）
７回　8. Crimes（Introduction to English Law.）(1)　講読
８回　8. Crimes（Introduction to English Law.）(2)　検討と摘要の作成
９回　7. Strafrecht（Einführung in das Recht.）(1)　講読
１０回　7. Strafrecht（Einführung in das Recht.）(2)　検討と摘要の作成
１１回　8. Die Gerichte und gerichtliche Verfahren（Einführung in das Recht.）(1)　講読
１２回　8. Die Gerichte und gerichtliche Verfahren（Einführung in das Recht.）(2)　検討と摘要の作成
１３回　Der Allgemeine Teil des materiellen Strafrecht（Einführung in das Strafrecht und Strafprozeßrecht.）(1)　講読
１４回　Der Allgemeine Teil des materiellen Strafrecht（Einführung in das Strafrecht und Strafprozeßrecht.）(2)　検討と摘要の作成
１５回　最終レポートの提出・まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

報告内容（レポート・レジュメを含む）…５０％　討論及び発言内容…５０％
※提出されたレポートも報告内容に含めて総合的に評価する。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

摘要の作成など指示された予習を行って授業に臨みなさい。また、授業で指摘された事項や疑問点について、関連資料を参照して再検討したうえで摘要を作成しなさい。

履修上の注意　/Remarks

刑法（刑法総論および刑法各論）をひと通り学んでいること。

刑法BII 【夜】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

難易度の高い内容となるので、留意すること。

キーワード　/Keywords

刑事法　刑法　犯罪論　刑罰論　刑法総論　刑法各論

刑事訴訟法I 【夜】

担当者名 /Instructor　水野　陽一 / 法律学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion),Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、刑事訴訟法分野の知識を修得する。
技能	○	多様な法的問題や特定の課題について、批判的に分析し、論理的に思考し議論することができる。
態度		

※　◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

刑事訴訟法Ⅰ

※　政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要　/Course Description

本講義において、受講者がゼミナール形式の演習を通じて具体的事例を中心に刑事訴訟の基本構造、特に捜査の終結までについて理解することを目的とする。簡潔且つ明瞭な解説を行いながら密度の濃い内容を提供し、未知の問題にも、原理原則に立ち返り、自ら正解を導出できる力を養うことを目標とする。

教科書　/Textbooks

参考例：渡辺直行『入門刑事訴訟法〔第2版〕』（成文堂、2013年等。受講者の関心によって、指定する教科書は変更することがあります。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○「刑事訴訟法判例百選〔第10版〕」　（有斐閣 、2017年)、○「刑事訴訟法の争点」(有斐閣、2013年)等。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス、刑事訴訟法の目的と構造
第2回　刑事訴訟の関与者　(1)【法曹三者】
第3回　刑事訴訟の関与者　(2)【その他の訴訟参加者】
第4回　捜査総説
第5回　令状主義と強制処分法定主義
第6回　捜査の端緒
第7回　証拠の収集保全　(1)【捜索・差押え】
第8回　証拠の収集保全　(2)【鑑定、検証等】
第9回　逮捕
第10回 無令状捜索・差押
第11回 勾留
第12回 別件逮捕・勾留に関する問題
第13回 被疑者の取調べ、自己負罪拒否権
第14回 被疑者の防御権、接見交通権に関する問題
第15回 捜査の終結後の事件処理、公訴提起に関わる諸問題、まとめ
※受講者の興味関心によって、講義内容は変更になることがあります。

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取組み(50%)、議論への参加状況(50%)

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

各回の授業準備として、講義で扱うテーマについて内教科書等を用いて内容を把握するようにしてください。授業後には、各回の内容について各自復習を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

刑事訴訟法I 【夜】

キーワード　/Keywords

刑事訴訟法II 【夜】

担当者名 /Instructor　水野　陽一 / 法律学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Course Completion),Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、刑事訴訟法分野の知識を修得する。
技能	○	多様な法的問題や特定の課題について、批判的に分析し、論理的に思考し議論することができる。
態度		

※　◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

刑事訴訟法Ⅱ

※　政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要　/Course Description

本講義において、受講者がゼミナール形式の演習を通じて具体的事例を中心に刑事訴訟の基本構造、特に捜査の終結までについて理解することを目的とする。簡潔且つ明瞭な解説を行いながら密度の濃い内容を提供し、未知の問題にも、原理原則に立ち返り、自ら正解を導出できる力を養うことを目標とする。

教科書　/Textbooks

参考例：渡辺直行『入門刑事訴訟法〔第2版〕』（成文堂、2013年）、大久保隆志『刑事訴訟法』（新世社、2014年）等。受講者の関心によって、指定する教科書は変更することがあります。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○「刑事訴訟法判例百選〔第10版〕」（有斐閣、2017年）、○「刑事訴訟法の争点」(有斐閣、2013年)等。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　公訴の提起（起訴便宜主義、起訴状一本主義）
第2回　審判対象論
第3回　訴因の特定・変更
第4回　訴訟条件
第5回　公判の諸原則、公判期日の手続
第6回　裁判員制度
第7回　被害者参加
第8回　公判の準備（公判前整理手続、証拠開示）
第9回　証拠裁判主義
第10回　自由心証主義、証拠能力と証明力
第11回　違法収集証拠排除法則
第12回　自白法則
第13回　伝聞法則
第14回　裁判
第15回　上訴、再審
※受講者の興味関心によって、講義内容が変更となることがあります。

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取組み(50%)、議論への参加状況(50%)

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

各回の授業準備として、講義で扱うテーマについて内教科書等を用いて内容を把握するようにしてください。授業後には、各回の内容について各自復習を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

刑事訴訟法II 【夜】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

刑事学I 【夜】

担当者名 /Instructor　藤田　尚 / 法律学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion),Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、刑事学分野の知識を修得する。
技能	○	多様な法的問題や特定の課題について、批判的に分析し、論理的に思考し議論することができる。
態度		

※　◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

刑事学Ｉ

※　政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要　/Course Description

本授業は、研究者として、犯罪学に関する専門的知識を身に付けることを目的とする。まずは、犯罪学に関する基礎的な知識を習得し、その上で、近年の動向を押さえる。授業の進め方としては、受講生が報告し、皆で討論を行う。

教科書　/Textbooks

初回の授業の際に相談して決めたいと思う。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○藤本哲也『犯罪学原論』日本加除出版（２００３年）。
○守山正＝小林寿一共著『ビギナーズ犯罪学』成文堂（２０１６年）。
○瀬川晃『犯罪学』成文堂（１９９８年）。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

＊授業は以下の計画で進める予定であるが、受講者数あるいは受講生の関心によっては、内容を変更する場合もある。詳細については、初回の授業の際に、受講生と相談して決定する。

第１回　ガイダンス
第２回　犯罪学の概要
第３回　犯罪学の歴史①
第４回　犯罪学の歴史②
第５回　文化地域を中心とする理論①
第６回　文化地域を中心とする理論②
第７回　文化葛藤を中心とする理論①
第８回　文化葛藤を中心とする理論②
第９回　社会構造を中心とする理論①
第１０回　社会構造を中心とする理論②
第１１回　社会統制を中心とする理論①
第１２回　社会統制を中心とする理論②
第１３回　社会的相互作用を中心とする理論①
第１４回　社会的相互作用を中心とする理論②
第１５回　総括

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への参加度７０％、レポート３０％の総合評価とする。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

【事前学習】各回のテーマに関する文献に目を通すこと。
【事後学習】授業で取り上げた内容に関して、わからない用語等があれば教科書等で調べ、知識の定着を図ること。

刑事学I 【夜】

履修上の注意　/Remarks

刑事法Iと刑事法IIは、内容がリンクしているため、基本的には、両方受講することが望ましい。
また、犯罪学を受講していない者は、事前に犯罪学の文献に目を通した上で受講すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

犯罪学

刑事学II 【夜】

担当者名 /Instructor　藤田　尚 / 法律学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion),Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、刑事学分野の知識を修得する。
技能	○	多様な法的問題や特定の課題について、批判的に分析し、論理的に思考し議論することができる。
態度		

※　◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

刑事学Ⅱ

※　政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要　/Course Description

本授業は、研究者として、犯罪学に関する専門的知識を身に付けることを目的とする。本授業では、近年の犯罪学理論を学んだ後、犯罪学に関連する様々なテーマを扱うため、刑事学Iで学んだ知識を基に、受講生がテーマを選定し、報告を行う。

教科書　/Textbooks

初回の授業の際に相談して決めたいと思う。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○藤本哲也『犯罪学原論』日本加除出版（２００３年）。
○守山正＝小林寿一共著『ビギナーズ犯罪学』成文堂（２０１６年）。
○瀬川晃『犯罪学』成文堂（１９９８年）。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

＊授業は以下の計画で進める予定であるが、受講者数あるいは受講生の関心によっては、内容を変更する場合もある。詳細については、初回の授業の際に、受講生と相談して決定する。

第１回　ガイダンス
第２回　社会的実体を中心とする理論①
第３回　社会的実体を中心とする理論②
第４回　社会的絆を中心とする理論①
第５回　社会的絆を中心とする理論②
第６回　近年の犯罪学①
第７回　近年の犯罪学②
第８回　近年の犯罪学③
第９回　被害者を中心とする理論①
第１０回　被害者を中心とする理論②
第１１回　犯罪学調査の方法
第１２回　各種犯罪の分析①
第１３回　各種犯罪の分析②
第１４回　各種犯罪の分析③
第１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への参加度７０％、レポート３０％の総合評価とする。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

【事前学習】各回のテーマに関する文献に目を通すこと。
【事後学習】授業で取り上げた内容に関して、わからない用語等があれば教科書等で調べ、知識の定着を図ること。

刑事学II 【夜】

履修上の注意　/Remarks

刑事法IIと刑事法Iは、内容がリンクしているため、基本的には、両方受講することが望ましい。
また、犯罪学を受講していない者は、事前に犯罪学の文献に目を通した上で受講すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

毎回テーマが異なる以上、膨大な文献を読む必要があるため、意欲のある学生のみ受講して下さい。

キーワード　/Keywords

犯罪学

社会保障法I 【夜】

担当者名 /Instructor　津田　小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Course Completion),Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者や高度専門職業人として活躍するために必要な社会保障法分野の知識を修得する。
技能	○	多様な法的問題や特定の課題に対し、法学的観点から分析し議論を展開することができる。
態度		

※　◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

社会保障法Ⅰ

※　政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要　/Course Description

社会保障法に関して近年議論されている理論的諸問題を取り上げ、受講者による報告・討論を行う。
受講者と相談のうえ、外国語文献を講読することも考えられる。

教科書　/Textbooks

使用しない。受講者の関心に応じ、適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

特になし。必要に応じ、適宜指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

毎回、論点を設定し、それに関する学術論文を検討することを通じて、社会保障法の重要な諸問題についての理解を深める。
具体的な進行の仕方や内容等については、受講生と相談の上決定する。

第1回　オリエンテーション
第2回　初回テーマの設定・文献の選択
第3回　テーマ①（年金領域）に関する文献の講読・討論（１）～論点の設定～
第4回　テーマ①に関する文献の講読・討論（２）～各論点に関する分析～
第5回　テーマ①に関する文献の講読・討論（３）～他の視点の提示と比較分析～
第6回　テーマ①のまとめと次回テーマの設定・文献の選択
第7回　テーマ②（生活保護領域）に関する文献の講読・討論（１）～論点の設定～
第8回　テーマ②に関する文献の講読・討論（２）～各論点分析～
第9回　テーマ②に関する文献の講読・討論（３）～他の視点提示と比較分析～
第10回　テーマ②のまとめと次回テーマの設定・文献の選択
第11回　テーマ③（労働保険領域）に関する文献の講読・討論（１）～論点の設定～
第12回　テーマ③に関する文献の講読・討論（２）～各論点分析～
第13回　テーマ③に関する文献の講読・討論（３）～他の視点提示と比較分析～
第14回　テーマ③に関するまとめ
第15回　総まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

出席状況、報告内容、発言等を総合的に判断し、評価する。
必要に応じてレポートを課すこともある。

受講態度等参加の度合い…50%　　報告内容…50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習　次回扱うテーマについての基礎知識を身につけておく。
事後学習　学んだ内容を復習するとともに、自分なりの見解についてまとめておく。

社会保障法I 【夜】

履修上の注意　/Remarks

社会保障法に関する一応の基本的知識を持っていることが望ましい。毎回設定されるテーマについての一般的な知識については、各自予習を求める。授業終了後には論点をまとめ復習すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

社会保障法II 【夜】

担当者名 /Instructor　津田　小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Course Completion),Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者や高度専門職業人として活躍するために必要な社会保障法分野の知識を修得する。
技能	○	多様な法的問題や特定の課題に対し、法学的観点から分析し議論を展開することができる。
態度		

※　◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

社会保障法Ⅱ

※　政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要　/Course Description

社会保障法に関して近年議論されている理論的諸問題を取り上げ、受講者による報告・討論を行う。
受講者と相談のうえ、外国語文献を講読することも考えられる。

教科書　/Textbooks

使用しない。受講者の関心に応じ、適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

特になし。必要に応じ、適宜指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

毎回、論点を設定し、それに関する学術論文を検討することを通じて、社会保障法の重要な諸問題についての理解を深める。
具体的な進行の仕方や内容等については、受講生と相談の上決定する。

第1回　オリエンテーション
第2回　初回テーマ・文献の選択
第3回　テーマ①（高齢者福祉領域）に関する文献の講読・討論（１）～論点の設定～
第4回　テーマ①に関する文献の講読・討論（２）～各論点分析～
第5回　テーマ①に関する文献の講読・討論（３）～他の視点提示と比較分析～
第6回　テーマ①のまとめと次回テーマ・文献の選択
第7回　テーマ②（障害者福祉領域）に関する文献の講読・討論（１）～論点の設定～
第8回　テーマ②に関する文献の講読・討論（２）～各論点分析～
第９回　テーマ②に関する文献の講読・討論（３）～他の視点提示と比較分析～
第１０回　テーマ②のまとめと次回テーマ・文献の選択
第１１回　テーマ③（児童福祉領域）に関する文献の講読・討論（１）～論点の設定～
第１２回　テーマ③に関する文献の講読・討論（２）～各論点分析～
第１３回　テーマ③に関する文献の講読・討論（３）～他の視点提示と比較分析～
第１４回　テーマ③のまとめ
第15回　総まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

出席状況、報告内容、発言等を総合的に判断し、評価する。
必要に応じてレポートを課すこともある。

受講態度等参加の度合い…50%　　報告内容…50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習　次回扱うテーマについての基礎的な内容について把握しておく。
事後学習　講義で学んだ内容について復習し、関連する情報について調べてみる。

社会保障法II 【夜】

履修上の注意　/Remarks

社会保障法に関する一応の基本的知識を持っていることが望ましい。毎回設定されるテーマについての一般的な知識については、各自予習を求める。授業終了後には論点をまとめ復習すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

国際法I 【夜】

担当者名 /Instructor　二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Course Completion),Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、国際法分野の知識を修得する。
技能		
態度		

※ ◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

国際法Ⅰ

※ 政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

本クラスでは、人権にかかわる国際法の判断を含む日本の国内裁判所の判決を取り上げ、検討を行っていくことを通じ、国際人権法に関する基本的知識やその運用の実態の理解を深めるとともに、日本における人権の保障状況について考える力を養うことを目的としています。
受講者の国際法の習熟度にもよりますが、まずは国際人権保障システムの現状や国内法制と国際法との関係など、背景知識となる総論部分の理解を深める作業を行います。次に日本の国内裁判所の判決の検討作業を通じ、国際的な人権基準が具体的事案の中で実際にどのように国内に適用されていくのかについての理解を深める作業を行っていきます。
国際法Iでは，外国人の法的地位が絡んだケースに焦点を当てます。
実際にどのような判決を読むかは、受講者と相談の上、決定していくこととします。

到達目標は、
□国際人権法に関する専門知識を習得するとともに、国際人権保障システムの現状と課題について説明することができる、
□裁判の中で、国際的な人権基準が具体的にどのように扱われてきているか、説明することができる、
□日本の国内法体系において、外国人の法的地位がどのようなものとなっているか、説明することができる、とします。

教科書 /Textbooks

テキストは、とくに指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

薬師寺公夫ほか『法科大学院ケースブック国際人権法』（日本評論社・2006年）○
芹田健太郎＝薬師寺公夫＝坂元茂樹編『ブリッジブック国際人権法』（信山社・2008年）
その他の参考文献に関しては、指導の過程で、必要に応じ、適宜、指示していきます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第１回　コースガイダンス
第２回　判例検索システムの利用方法，研究対象判例の選定
第３回　国連と人権の国際的保障枠組み
第４回　国際人権保障システム①　【基準設定活動】
第５回　国際人権保障システム②　【監視活動（UPR，Treaty Bodyにおける報告制度等）】
第６回　国際法と国内法との関係　【二元論と一元論】【受容と変型】【条約の国内適用：自動執行力】
第７回　判例研究I①（精読：事実関係の明確化）
第８回　判例研究I②（精読：争点の整理，論点の抽出）
第９回　判例研究I③（報告担当者による判例報告）
第10回　判例研究II①（精読：事実関係の明確化）
第11回　判例研究II②（精読：争点の整理，論点の抽出）
第12回　判例研究II③（報告担当者による判例報告）
第13回　判例研究III①（精読：事実関係の明確化）
第14回　判例研究III②（精読：争点の整理，論点の抽出）
第15回　判例研究III③（報告担当者による判例報告）

なお受講者の国際法および国際人権法の学習状況によっては，第2回から第６回の内容を変更する可能性があります。

国際法I 【夜】

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への貢献…50%
担当した判例報告の取組...50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

アサインメントに従い、事前学習を行い、授業にのぞむことを求めます。
また指示に従い、事後学習を進め、授業の理解を深めることを求めます。

履修上の注意　/Remarks

クラスへの参加にあたっては、十分な予習が求められます。
学部時代の国際法の既習、未習は問いません。ただし未習の場合は、授業の組立にも関係しますから、受講申告前に一度ご相談ください。
まずはninomiya@kitakyu-u.ac.jpまで。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

国内裁判所でも、判決を出す場合に、国際法の適用が問題になるケースが多々あります。「なま」の判決を一緒に紐解いていってみませんか。

キーワード　/Keywords

【国際人権法】【実体法と手続法】【基準設定活動】【監視活動】【国際法と国内法との関係】【国内裁判所】【判決】【外国人の人権】【在留資格】【裁量】

国際法II 【夜】

担当者名 /Instructor　二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Course Completion),Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、国際法分野の知識を修得する。
技能		
態度		

※ ◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

国際法Ⅱ

※ 政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

本クラスでは、人権にかかわる国際法の判断を含む日本の国内裁判所の判決を取り上げ、検討を行っていくことを通じ、国際人権法に関する基本的知識やその運用の実態の理解を深めるとともに、日本における人権の保障状況について考える力を養うことを目的としています。
受講者の国際法の習熟度にもよりますが、まずは国際人権保障システムの現状や国内法制と国際法との関係など、背景知識となる総論部分の理解を深める作業を行います。次に日本の国内裁判所の判決の検討作業を通じ、国際的な人権基準が具体的事案の中で実際にどのように国内に適用されていくのかについての理解を深める作業を行っていきます。
国際法IIでは、多文化共生（社会への統合）が絡んだケースに焦点を当てます。
実際にどのような判決を読むかは、受講者と相談の上、決定していくこととします。

到達目標は、
□国際人権法に関する専門知識を習得するとともに、国際人権保障システムの現状と課題について説明することができる、
□裁判の中で、国際的な人権基準が具体的にどのように扱われてきているか、説明することができる、
□国際人権法の適用・解釈において，多文化共生や社会統合の視点がどこまで反映されているか、説明することができる、とします。

教科書 /Textbooks

テキストは、とくに指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References（Available in the library: ○ ）

薬師寺公夫ほか『法科大学院ケースブック国際人権法』（日本評論社・2006年）○
芹田健太郎＝薬師寺公夫＝坂元茂樹編『ブリッジブック国際人権法』（信山社・2008年）
その他の参考文献に関しては、指導の過程で、必要に応じ、適宜、指示していきます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第１回　コースガイダンス
第２回　判例検索システムの利用方法，研究対象判例の選定
第３回　国連と人権の国際的保障枠組み
第４回　国際人権保障システム①　【基準設定活動】
第５回　国際人権保障システム②　【監視活動（UPR，Treaty Bodyにおける報告制度等）】
第６回　国際法と国内法との関係　【二元論と一元論】【受容と変型】【条約の国内適用：自動執行力】
第７回　判例研究I①（精読：事実関係の明確化）
第８回　判例研究I②（精読：争点の整理，論点の抽出）
第９回　判例研究I③（報告担当者による判例報告）
第10回　判例研究II①（精読：事実関係の明確化）
第11回　判例研究II②（精読：争点の整理，論点の抽出）
第12回　判例研究II③（報告担当者による判例報告）
第13回　判例研究III①（精読：事実関係の明確化）
第14回　判例研究III②（精読：争点の整理，論点の抽出）
第15回　判例研究III③（報告担当者による判例報告）

なお受講者の国際法および国際人権法の学習状況によっては，第2回から第６回の内容を変更する可能性があります。

国際法II 【夜】

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への貢献…50%
担当した判例報告への取組...50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

アサインメントに従い、事前学習を行い、授業にのぞむことを求めます。
また指示に従い、事後学習を進め、授業の理解を深めることを求めます。

履修上の注意　/Remarks

可能な限り，国際法Iと合わせて受講してください。
クラスへの参加にあたっては、十分な予習が求められます。
国際法IIから参加する場合，これまでの国際法の既習、未習は問いません。ただし未習の場合は、授業の組立にも関係しますから、受講申告前に一度ご相談ください。開講前に補講を課す場合があります。まずはninomiya@kitakyu-u.ac.jpまで。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

国内裁判所でも、判決を出す場合に、国際法の適用が問題になるケースが多々あります。「なま」の判決を一緒に紐解いていってみませんか。

キーワード　/Keywords

【国際人権法】【実体法と手続法】【基準設定活動】【監視活動】【国際法と国内法との関係】【国内裁判所】【判決】【多文化共生】【社会への統合】

法哲学I 【夜】

担当者名 /Instructor　重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion),Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、法哲学分野の知識を修得する。
技能	○	多様な法的問題や特定の課題について、批判的に分析し、論理的に思考し議論することができる。
態度		

※ ◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

法哲学Ⅰ

※ 政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

広い意味で法・権利・正義に関する基礎的考察を本講義のテーマとする。具体的なテーマ設定は、受講生の研究テーマを勘案したうえで、受講生と相談して決定する。

教科書 /Textbooks

具体的なテキストの候補の一つとして、Ｇ．Ａ．コーエン『自己所有権・自由・平等』（青木書店、2005年）を想定している。ただし、これはあくまでも暫定的なものであり、テキストの選定や具体的なテーマ設定は、受講生の研究テーマを勘案したうえで、受講生と相談の上決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

選択したテキストに応じて、適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回　はじめに　～　テキスト選択と参考文献の指示など
第2回　選択したテキストに関する背景の概観【現代正義論の展開とリバタリアニズム】
第3回　テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める①【歴史・倫理・マルクス主義】
第4回　テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める②【ロバート・ノージック】
第5回　テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める③【正義・自由・市場取引】
第6回　テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める④【自己所有権・世界所有権・平等】
第7回　テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑤【自由と平等は両立するか】
第8回　テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑥【自己所有権と平等】
第9回　テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑦【ノージックとマルクス主義】
第10回　テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑧【ロックとマルクス（土地と労働）】
第11回　テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑨【搾取と不正】
第12回　テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑩【自己所有権の概念】
第13回　テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑪【自己所有権の命題】
第14回　テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑫【自己所有権・自由・平等】
第15回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告…40%　質問等の状況…30%　日常の演習への取り組み…30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回に扱う予定の箇所を事前にきちんと読み、質問を考え予習しておくこと。授業の後は、テキストやノートやレジュメをもとに内容を整理し、復習を行うこと。

法哲学I 【夜】

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

現代正義論　リバタリアニズム　ノージック　自己所有権　自由　平等

法哲学II 【夜】

担当者名 /Instructor　重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion),Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、法哲学分野の知識を修得する。
技能	○	多様な法的問題や特定の課題について、批判的に分析し、論理的に思考し議論することができる。
態度		

※ ◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

法哲学Ⅱ

※ 政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

広い意味で法・権利・正義に関する基礎的考察を本講義のテーマとする。具体的なテーマ設定は、受講生の研究テーマを勘案したうえで、受講生と相談して決定する。

教科書 /Textbooks

具体的なテキストの候補の一つとして、ジョン・ロールズ『正義論　改訂版』（紀伊國屋書店、2010年）を想定している。ただし、これはあくまでも暫定的なものであり、テキストの選定や具体的なテーマ設定は、受講生の研究テーマを勘案したうえで、受講生と相談の上決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

選択したテキストに応じて、適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回　はじめに　～　テキスト選択と参考文献の指示など
第2回　選択したテキストについての概観
第3回　テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める①【公正としての正義】
第4回　テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める②【正義の諸原理】
第5回　テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める③【原初状態】
第6回　テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める④【平等な自由】
第7回　テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑤【分配上の取り分】
第8回　テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑥【義務と責務】
第9回　テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑦【合理性としての善さ】
第10回　テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑧【正義感覚】
第11回　テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑨【正義の善】
第12回　テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑩【第一部の総括】
第13回　テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑪【第二部の総括】
第14回　テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑫【第三部の総括】
第15回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告…40%　質問等の状況…30%　日常の演習への取り組み…30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回に扱う予定の箇所を事前にきちんと読み、質問を考え予習しておくこと。授業の後は、テキストやノートやレジュメをもとに内容を整理し、復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

法哲学II 【夜】

キーワード　/Keywords
公正　正義　分配

法律実務特講I 【夜】

担当者名 /Instructor　末廣清二･小宮香織･根岸大将

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Course Completion),Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、法律実務の知識を修得する。
技能	○	法律実務の実際を理解し、多様な法的問題や特定の課題について、批判的に分析し、論理的に思考し議論することができる。
態度	○	理論と実務とのつながりを理解し、現実社会で生起する法律問題に積極的かつ柔軟に対処する姿勢を身につける。

※　◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

法律実務特講Ⅰ

※　政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要　/Course Description

①刑事弁護実務（担当　根岸大将弁護士）
②法律相談の実務（担当　小宮香織弁護士）
③債権の保全･ 回収及び倒産処理（担当　弁護士末廣清二）

教科書　/Textbooks

なし。講義の際にレジメを配布する予定。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References（Available in the library: ○　）

講義の際に紹介する。

授業計画･ 内容　/Class schedules and Contents

①　刑事弁護実務
第１回　捜査段階の弁護活動
第２回　続･ 捜査段階の弁護活動
第３回　公判段階の弁護活動
第４回　事実認定，弁論
第５回　裁判員裁判
②　法律相談に際して生ずる諸問題について検討する。
第１回　弁護士業務における「法律相談」の占める位置（法律相談は入り口である。）
第２回　典型的な民事事件の相談事案（具体的事件に即し）
第３回　家事事件（夫婦関係･ 相続問題）相談事案（同上）
第４回　交通事故･ 刑事事件の法律相談（同上）
第５回　ひるがえって，改めて法律相談の位置づけについて･ その他
③　債権の保全･ 回収及び倒産処理
第１回　債権の保全
第２回　債権の回収
第３回　私的整理
第４回　破産手続き
第５回　民事再生手続き

成績評価の方法　/Assessment Method

試験またはレポートいずれかで評価。

事前･ 事後学習の内容　/Preparation and Review

上記①は刑事法，上記②③は民事法の基礎的知識を前提とするものであるから，各自学部で習ったことを復習しておくこと。
授業開始前までにシラバスを確認し予習しておくこと。授業終了後には論点をまとめ復習すること。

履修上の注意　/Remarks

上記①は刑事法，上記②③は民事法の基礎的知識を前提とするものであるから，各自学部で習ったことを復習しておくこと。
授業開始前までにシラバスを確認し予習しておくこと。授業終了後には論点をまとめ復習すること。

法律実務特講I 【夜】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

憲法特別研究I 【夜】

担当者名 /Instructor　中村　英樹 / 法律学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　4単位　学期 /Semester　1・2学期（ペア）　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion),Specific Targets in Focus

【研究者コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	△	研究者としての活動の基盤となる、憲法分野についての高度な専門的知識を修得する。
技能	○	高度な法的思考力をもち、総合的な観点から、多様な法的問題を解決することができる。
態度	◎	研究者として自ら問題を発見し、それを論理的・批判的に分析することにより、憲法分野について主体的に研究することができる。

※　◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

憲法特別研究Ⅰ

授業の概要　/Course Description

受講者の研究テーマに応じて、関連する憲法学的知見を学び、学説、判例を検討し、問題意識を深めることを通じて、修士論文ないし特定課題研究へ向けた準備を行うことを目的とする。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

受講者の研究テーマに応じて、適宜指導する

憲法特別研究I 【夜】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス　–講義の概要説明
第2回　研究テーマの確認
第3回　取り上げる文献や判決の決定
第4回　基本書読解①　–研究テーマに関する部分の報告I【基礎】
第5回　基本書読解②　–前回報告に基づく議論・検討I【基礎】
第6回　基本書読解③　–研究テーマに関する部分の報告II【発展】
第7回　基本書読解④　–前回報告に基づく議論・検討II【発展】
第8回　専門文献読解①　–研究テーマに関する専門文献の報告I【基礎】
第9回　専門文献読解②　–前回報告に基づく議論・検討I【基礎】
第10回　専門文献読解③　–研究テーマに関する専門文献の報告II【発展】
第11回　専門文献読解④　–前回報告に基づく議論・検討II【発展】
第12回　専門文献読解⑤　–研究テーマに関する専門文献の報告III【応用】
第13回　専門文献読解⑥　–前回報告に基づく議論・検討III【応用】
第14回　研究テーマの再検討
第15回　前半のまとめ
第16回　判例研究①　–研究テーマに関連する判決の報告I【基礎】
第17回　判例研究②　–前回報告に基づく議論・検討I【基礎】
第18回　判例研究③　–研究テーマに関連する判決の報告II【発展】
第19回　判例研究④　–前回報告に基づく議論・検討II【発展】
第20回　判例研究⑤　–研究テーマに関連する判決の報告III【応用】
第21回　判例研究⑥　–前回報告に基づく議論・検討III【応用】
第22回　論文作成へ向けて①　–テーマの明確化
第23回　論文作成へ向けて②　–全体構成
第24回　論文作成へ向けて③　–テーマと全体構成の関連
第25回　論文作成へ向けて④　–全体構成と章立て
第26回　論文作成へ向けて⑤　–収集文献・資料の再検討I【基本資料編】
第27回　論文作成へ向けて⑥　–収集文献・資料の再検討II【文献編】
第28回　論文作成へ向けて⑦　–収集文献・資料の再検討III【判例編】
第29回　論文作成へ向けて⑧　–工程表の確定
第30回　全体のまとめ

ただし、これは例示である。具体的には受講者のテーマや進行状況に応じて相談の上で決定していく。

成績評価の方法　/Assessment Method

各回の研究報告内容：50％
議論・検討への参加状況：50％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

毎回、各回の課題や研究の進捗状況に関する報告資料を準備すること。それをもとにして議論を行い、次回の報告に反映させること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

民法特別研究I 【夜】

担当者名 /Instructor　矢澤　久純 / 法律学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　4単位　学期 /Semester　2学期（ペア）　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Course Completion),Specific Targets in Focus

【研究者コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	△	研究者としての活動の基盤となる、民法分野についての高度な専門的知識を修得する。
技能	○	高度な法的思考力をもち、総合的な観点から、多様な法的問題を解決することができる。
態度	◎	研究者として自ら問題を発見し、それを論理的・批判的に分析することにより、民法分野について主体的に研究することができる。

※　◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

民法特別研究Ｉ

授業の概要　/Course Description

民法の中の物権の分野について研究をしたい。物権分野の数々の論点について、いわゆる判例や学説（海外のそれも含む。）の議論を見ながら、私見を考えてゆく。この科目は、主として研究者を目指す人が履修する科目であるので、研究者の議論を重視し、参加者による報告を基礎に進めてゆきたい。
この科目を履修することで、研究者の視点で民法を考える能力が養われるであろう。

教科書　/Textbooks

物権法の本であれば、なんでも良い。と言うか、研究者を目指すのであれば、物権法の主要な本（海外のものも含む。）はすべて見る必要があろう。図書館で、随時、物権に関連する書籍を参照してほしい。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References（Available in the library: ○　）

○　我妻栄『近代法における債権の優越的地位』（有斐閣）
○　川島武宜『所有権法の理論』（岩波書店）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１　ガイダンス
２　物権と債権の違いに関する諸問題
３　物権法定主義をめぐる諸問題
４　慣習法上の物権をめぐる諸問題
５　物権的請求権をめぐる諸問題
６　物権行為をめぐる諸問題
７　所有権の移転時期をめぐる諸問題
８　公示制度をめぐる諸問題
９　登記請求権をめぐる諸問題
１０　１７７条の第三者の客観的範囲をめぐる諸問題
１１　１７７条の第三者の主観的範囲をめぐる諸問題
１２　無効・取消・解除と登記をめぐる諸問題
１３　相続と登記をめぐる諸問題
１４　時効と登記をめぐる諸問題
１５　中間省略登記をめぐる諸問題
１６　動産物権変動をめぐる諸問題
１７　即時取得をめぐる諸問題
１８　占有をめぐる諸問題
１９　所有権の意義をめぐる諸問題
２０　相隣関係・囲繞地通行権をめぐる諸問題
２１　付合・混和・加工をめぐる諸問題
２２　共有をめぐる諸問題
２３　用益物権をめぐる諸問題
２４　留置権をめぐる諸問題
２５　先取特権をめぐる諸問題
２６　質権をめぐる諸問題
２７　抵当権をめぐる諸問題
２８　物上代位をめぐる諸問題
２９　譲渡担保をめぐる諸問題
３０　その他の非典型担保をめぐる諸問題

成績評価の方法　/Assessment Method

普段の報告（５０％）とレポート（５０％）で評価する。レポートは、学期終了時に提出してもらう。テーマは、物権法の中で特に興味を持った点。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

研究者コースの授業である以上、各自の関心に基づき、物権の主要テキストブックの該当論点について、常に深い学習をする必要がある。必要に応じて、当該論点についての裁判例を読むと良いであろう。
また、物権法制の改正の議論が始まっている（特に、相続人不明の場合の処遇）。これについても、徐々に調査・研究すると良いであろう。

履修上の注意　/Remarks

日々、民法関連の本を読むことが望まれる。授業終了後には論点をまとめ復習すること。

民法特別研究I 【夜】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

研究者を目指す場合、上記２冊は「必読」文献であり、この２冊をきちんと読むことが、そもそもの出発点である。

キーワード　/Keywords

物権、担保物権

民法特別研究I 【夜】

担当者名 /Instructor　福本　忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　4単位　学期 /Semester　1・2学期（ペア）　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Course Completion),Specific Targets in Focus

【研究者コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	△	研究者としての活動の基盤となる、民法分野についての高度な専門的知識を修得する。
技能	○	高度な法的思考力をもち、総合的な観点から、多様な法的問題を解決することができる。
態度	◎	研究者として自ら問題を発見し、それを論理的・批判的に分析することにより、民法分野について主体的に研究することができる。

※　◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

民法特別研究Ⅰ

授業の概要　/Course Description

本演習は、「研究者コース」所属院生のうち、民法（主として財産法・債権法）分野を専攻する者の「修士論文」執筆を指導ないし支援することを目的とする（昨年度から当職の同科目は開講されたが、同年度研究者コース所属の民法専攻修士1年生は居なかったので、今年度履修可能性があるのも、民法専攻の「修士1年生のみ」と想定される。よって、修士1年目の研究計画にそって修士論文のテーマ確定に向けた研究指導・支援を行う。）。

各回の詳細な指導内容等については、受講院生の研究テーマや受講人数（1名なら完全な修士論文個別指導となる。）を斟酌して協議のうえ決定するが、後掲「授業計画・内容」に示す通り、以下の「4本柱」が中心となる。

①修士論文のテーマ（仮）に直結または関連するわが国の民法学の種々の論説についての批判的検討および報告
②修士論文のテーマ（仮）に直結または関連するわが国の（裁）判例の研究および報告（判決理由の精読・解析）
③修士論文のテーマ（仮）に直結または関連する外国（本演習で扱うことが可能な外国民法は、フランス法、英米法、およびロシア法に限られる。ドイツ法は扱うことができないので注意すること。）の民法学のテクスト（原著）講読
④修士論文のテーマの確定・執筆開始。それに対する添削・指導

なお、受講院生が複数の場合、各院生は、他の受講院生の研究報告等についても、質問や資料講読などを通じて、お互いの研究内容について批判的検討を行う必要がある。同じ研究者コース所属院生同士、互いの研究内容を認め合い、かつ、研究作業面においても互いに切磋琢磨してもらいたい。また、法律学系の（民法）研究者コースの修士論文では、外国法の原著を読みこなす能力が必須であるから、その前提として、外国語基礎文法は本演習受講前に自学・自習しておくことが望ましいことを申し添えておく。

教科書　/Textbooks

※受講院生の研究テーマ（仮）および比較法の対象とする外国法が決定してから、資料（論文のコピー、判例〔民集等のコピー〕、および外国民法の原著のコピー）を配布するので、教科書は指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References（Available in the library: ○ ）

たとえば、フランス法を比較法の対象として研究を行う院生であれば、古書で、必ず柳川 勝二『佛和法律辞書』（判例タイムズ社、1975年※絶版）は入手しておくこと。その他の外国法の法律辞書については、初回授業の際に情報提供する。

民法特別研究I 【夜】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

※受講院生の人数・研究テーマの内容・関連性、原著講読能力等を考慮し、受講院生と協議・調整しつつ、フレキシブルに授業を進める。
※昨年度からの継続指導該当者はいないので、修士１年目の指導計画・内容を以下の通り示す。
第1回：ガイダンス（受講院生の大まかな希望研究テーマ〔仮〕・比較法の対象のヒアリング）
第2回：修士論文の大まかなテーマ（仮・変更は当然あり得る。）を考える。
第3回：1学期の研究計画策定
第4回：資料・文献渉猟（わが国の民法学体系書・研究書のリストアップ）
第5回：資料・文献渉猟（わが国の〔裁〕判例のリストアップ）
第6回：資料・文献渉猟（外国民法の体系書・論文等のリストアップ）※1学期は原著講読の進捗状況について、適宜授業内で確認するに留めるが、受講院生の希望により、原著講読指導の時間に変更する場合もあり得る。
第7回：論文テーマ（仮）に直結または関連するわが国民法学の論説の検討および報告（予定）①（令和のもの）
第8回：論文テーマ（仮）に直結または関連するわが国民法学の論説の検討および報告（予定）②（平成時代）
第9回：論文テーマ（仮）に直結または関連するわが国民法学の論説の検討および報告（予定）③（昭和・戦後期）
第10回：論文テーマ（仮）に直結または関連するわが国民法学の論説の検討および報告（予定）④（昭和・戦前期）
第11回：論文テーマ（仮）に直結または関連するわが国民法学の論説の検討および報告（予定）⑤（明治・大正期）
第12回：論文テーマ（仮）に直結または関連するわが国民法学の論説の検討および報告（予定）⑥法典調査会議事速記録など民法典（原始規定）編纂過程の研究
第13回：論文テーマ（仮）に直結または関連するわが国民法学の論説の検討および報告（予定）⑦旧民法（ボワソナード草案も含む予定。）時代の学説研究
第14回：論文テーマ（仮）に直結または関連するわが国の（裁）判例の研究および報告（予定）①（最重要判決の検討）
第15回：修士論文の「テーマの妥当性」に関する中間報告（1回目）および指導と1学期のまとめ
【夏季休暇～しっかり外国法の知見を原著講読等を通じて深めること！～】
第16回：論文テーマ（仮）に直結または関連するわが国の（裁）判例の研究および報告（予定）②（最高裁判決群の研究）
第17回：論文テーマ（仮）に直結または関連するわが国の（裁）判例の研究および報告（予定）③（大審院判決群の研究）
第18回：論文テーマ（仮）に直結または関連するわが国の（裁）判例の研究および報告（予定）④（下級審裁判例の研究）
第19回：わが国の関連判例の推移・変遷についての分析・報告
第20回：論文テーマ（仮）に直結または関連する外国の民法学のテクスト（原著）講読①（基本書）
第21回：論文テーマ（仮）に直結または関連する外国の民法学のテクスト（原著）講読②（体系書・研究書）
第22回：論文テーマ（仮）に直結または関連する外国の民法学のテクスト（原著）講読③（関連論文・前半部分）
第23回：論文テーマ（仮）に直結または関連する外国の民法学のテクスト（原著）講読④（関連論文・後半部分）
第24回：論文テーマ（仮）に直結または関連する外国の民法学のテクスト（原著）講読⑤（関連論文・補足）
第25回：比較法の手法についてのレクチャーを兼ねて、授業担当教員が研究報告を行う（質疑・応答含む。）。
第26回：修士論文のテーマ（仮）からテーマ「確定」へ（分析基軸の設定に向けた検討）
第27回：修士論文のテーマ（仮）からテーマ「確定」へ（設定した分析基軸についての報告・指導）
第28回：修士論文の「テーマの妥当性」に関する中間報告（2回目）および指導
第29回：修士論文のテーマ「確定」および執筆開始・指導①（「はじめに」からではなく、これまでの授業の成果を踏まえて、具体的検討内容部分から書き始めてみよう。）
第30回：（最終回）修士論文のテーマ「確定」および執筆開始・指導②（具体的検討内容の執筆・指導）、修士2年目の研究計画の策定、および「まとめ」

成績評価の方法　/Assessment Method

・日常の授業への取組み（研究・論文執筆作業の積極性、複数回課す研究報告の内容）……30％
・各学期1回ずつ課す（予定の）修士論文の「テーマの妥当性」に関する報告……20％
・「修士論文」のテーマを「確定」させ（修士1年2学期頃）、そのテーマに関するレポート（修士論文執筆の前提となる「研究ノート」）を6,000字程度で執筆・提出すること（令和3年2月初旬〆切。なお、受講院生が複数いる場合は、他の院生の修士論文の研究テーマについても疑問点などを簡潔に言及すること。）……50％
　上記の合算で成績を評価する。
【注意】大学院の授業においても、当然ながら正当な理由なき遅刻や無断欠席は許されない。これらの行為が見られる場合は、上記成績から減点するので注意すること。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

【事前学習】第3回以降、受講院生の研究進捗状況を見ながら、次回までに熟読しておくべき資料・文献ないし邦訳しておくべき外国民法のテクスト（原著）を配布または指示するので、事前に資料の渉猟、精読、および邦訳をしてくることが求められる（主に1学期）。2学期（第16回）以降は、修士論文のテーマ「確定」に関する研究ノートの書けたろことまでを添付ファイル等で事前に提出することが求められる。なお、この予習に必要な学習時間の目安は120分である。
【事後学習】各回の授業で担当者が指示した追加資料の分析・原著邦訳箇所の修正などを行うことが求められる。なお、この復習に必要な学習時間の目安は120分である。

履修上の注意　/Remarks

　論文執筆・研究にかかる作業は、コツコツとした地道な努力が絶対的に必要であり、特に、修士1年段階では、比較法の研究において、語学力（原著講読の力）という壁にぶつかることも多いと思われる。だが、辞書を引いて毎日少しずつ原著を邦訳する習慣を身に着ければ、1年間でそのスピード・精度は格段にレベルアップすると予測される。そして、この授業に主体的・積極的に取り組んでいけば、研究計画の順調な遂行も望めよう。「修士論文完成」という遥かな頂に向け、しっかりと、かつ、無理のない研究計画を策定し、着実に指導内容をクリアしてもらいたい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

民法特別研究I 【夜】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

20年近く前、私にも大学院修士課程時代がありました。毎日大学の書庫に籠って古い文献を読み漁り、仏和辞書・佛和法律辞書がボロボロになるまで原著を訳した日々……。修士1年目は先の見えない実に苦しい時期ですが、1日1日を大切に研究活動を頑張ってください。支援・相談は惜しみません。あと、心身が壊れるほどの無理は絶対に禁物です。気分転換もしっかり取り入れて、充実した研究者コースでの2年間を過ごして下さい！

キーワード　/Keywords

修士論文、修士論文のテーマ（論文の分析基軸）の「確定」、民法学（財産法学・債権法学）、フランス法、英米法、ロシア法

民事訴訟法特別研究I 【夜】

担当者名 /Instructor　小池　順一 / junichi KOIKE / 法律学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　4単位　学期 /Semester　1・2学期（ペア）　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Course Completion),Specific Targets in Focus

【研究者コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	△	研究者としての活動の基盤となる、民事訴訟法分野についての高度な専門的知識を修得する。
技能	○	高度な法的思考力をもち、総合的な観点から、多様な法的問題を解決することができる。
態度	◎	研究者として自ら問題を発見し、それを論理的・批判的に分析することにより、民事訴訟法分野について主体的に研究することができる。

※　◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

民事訴訟法特別研究Ⅰ

授業の概要　/Course Description

「研究者コース」の学生を対象に民事訴訟法についての論文指導を目的とした授業です。各自の研究テーマに応じて、ドイツ民事訴訟法、アメリカ民事訴訟法に関する文献を購読することもあります。

教科書　/Textbooks

指定はありません。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて、各自に紹介します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　ガイダンス
2回　研究テーマについての指導I【打ち合わせ】
3回　研究テーマについての指導II【確認】
4回　研究テーマの決定
5回　研究資料のリストアップI【日本の著書・論文】
6回　研究資料のリストアップII【ドイツの著書・論文】
7回　研究資料の収集I【日本の著書】
8回　研究資料の収集II【日本の論文】
9回　研究資料の収集III【ドイツの著書・論文】
１０回　文献購読I【日本の著書】
１１回　文献購読II【日本の論文】
１２回　文献購読III【日本の判例評釈】
１３回　文献購読IV【ドイツの著書・論文】
１４回　研究テーマに応じて論点検討
１５回　研究テーマに応じて中間ノートの作成
１６回　関連判例のリストアップI【日本の判例】
１７回　関連判例のリストアップII【ドイツの判例】
１８回　関連判例の収集I【日本の判例】
１９回　関連判例の収集II【ドイツの判例】
２０回　関連判例の分析I【日本の判例】
２１回　関連判例の分析II【日本の判例評釈】
２２回　関連判例の分析III【ドイツの判例】
２３回　判例の整理I【日本の判例】
２４回　判例の整理II【日本の判例評釈】
２５回　判例の整理III【ドイツの判例】
２６回　外国語文献購読I【ドイツの著書】
２７回　外国語文献購読II【ドイツの論文】
２８回　外国語文献購読III【ドイツの判例評釈】
２９回　研究成果のまとめI【日本の著書・論文・判例・判例評釈】
３０回　研究成果のまとめII【ドイツの著書・論文・判例・判例評釈】

民事訴訟法特別研究I 【夜】

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への取り組み、各回の報告４０％、レポート６０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

教員の指導に応じて、各自、資料を収集し、分析して授業に臨むこと。授業において教員に指導された点について、各自、調査し自分の見解を整理すること。
（必要な学習時間の目安は、90分です。）

履修上の注意　/Remarks

研究計画に沿って、各自が主体的かつ積極的に調査すること。毎回レジュメを作成して授業に臨むこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

社会保障法特別研究I 【夜】

担当者名 /Instructor　津田　小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　4単位　学期 /Semester　1・2学期（ペア）　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Course Completion),Specific Targets in Focus

【研究者コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	△	研究者としての活動の基盤となる、社会保障法分野についての高度な専門的知識を修得する。
技能	○	高度な法的思考力を持ち、総合的な観点から説得力ある法的議論を展開できる。
態度	◎	自ら問題を発見し、法的観点から分析・議論することを通じて、主体的な研究態度を身につける。

※　◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

社会保障法特別研究Ⅰ

授業の概要　/Course Description

受講生の研究テーマに応じて、社会保障法分野における基本文献、判例、関連資料等の研究を行い、修士論文作成に向けた具体的指導を行う。

教科書　/Textbooks

特に使用しない。
受講生のテーマに即した資料等の配布予定あり。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス　–講義の概要説明
第2回　研究テーマの確認
第3回　取り上げる文献や判決の決定（以下の計画は「医療保険」分野を研究テーマにする場合を例にしている。）
第4回　基本文献読解①　～研究テーマに関する部分の報告【健康保険】
第5回　基本文献読解②　～前回報告に基づく議論・検討
第6回　基本文献読解③　～研究テーマに関する部分の報告【国民健康保険】
第7回　基本文献読解④　～前回報告に基づく議論・検討
第8回　専門文献読解①　～研究テーマに関する専門文献の報告【高齢者医療保険】
第9回　専門文献読解②　～前回報告に基づく議論・検討
第10回　専門文献読解③　～研究テーマに関する専門文献の報告【医療保障システム比較】
第11回　専門文献読解④　～前回報告に基づく議論・検討
第12回　専門文献読解⑤　～研究テーマに関する専門文献の報告【保険制度比較】
第13回　専門文献読解⑥　～前回報告に基づく議論・検討
第14回　研究テーマの再検討と今後の修論執筆計画策定
第15回　1学期のまとめ
第16回　専門文献読解⑦　～研究テーマに関連する専門文献の報告【国民保健制度比較】
第17回　専門文献読解⑧　～前回報告に基づく議論・検討
第18回　専門文献読解⑨　～研究テーマに関連する専門文献の報告【医療保障の財源論】
第19回　専門文献読解⑩　～前回報告に基づく議論・検討
第20回　専門文献読解⑪　～研究テーマに関連する専門文献の報告【医療保障請求権】
第21回　専門文献読解⑫　～前回報告に基づく議論・検討
第22回～第25回　修士論文作成支援①　～テーマの明確化、全体構成の検討
第26回～第29回　修士論文作成支援②　～収集文献・資料の検討と具体的進行計画の策定
第30回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

研究報告の内容・・・50%、議論・調査への参加状況・・・50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習　授業開始前までにシラバスを確認し予習しておくこと。
事後学習　授業終了後には論点をまとめ復習すること。

社会保障法特別研究I 【夜】

履修上の注意　/Remarks

研究テーマに応じて、授業進行を変更することもある。
修士論文作成に向けて、各自の研究を着実にコツコツ進めるよう努力してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

国際法特別研究I 【夜】

担当者名 /Instructor　二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　4単位　学期 /Semester　1・2学期（ペア）　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Course Completion),Specific Targets in Focus

【研究者コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	△	研究者としての活動の基盤となる、国際法分野についての高度な専門的知識を修得する。
技能	○	高度な法的思考力をもち、総合的な観点から、多様な法的問題を解決することができる。
態度	◎	研究者として自ら問題を発見し、それを論理的・批判的に分析することにより、国際法分野について主体的に研究することができる。

※　◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

国際法特別研究Ⅰ

授業の概要　/Course Description

受講者の修士論文の作成を支援することを目的とします。
本講義は、修士論文の作成にあたり、それぞれが選んだテーマとの関連で、必用な国際法上の議論に触れ、その理解を深めるための機会を提供するものです。
受講者が一人の場合には、個別指導の形式を取り、授業を展開します。したがってこの場合には、各自の問題関心領域のみを勉強してもらっていっこうに構いません。しかし、受講者が複数いる場合には、演習形式の科目である以上、各受講者には、他の受講者が希望するテーマ、文献等を尊重し、積極的に協力する義務が存在します。つまり、仮に自分の問題関心領域とは異なったテーマであったとしても、他の受講者の研究にも興味を持ち、その発表等に対し、質疑などを通じ、積極的に協力していただきたいということです。受講を希望する者は、このことは忘れないでください。
到達目標は、
修士論文の作成に必要な知識や学術技法・作法を身につけること、とします。

教科書　/Textbooks

必要に応じ、受講希望者と相談の上、決定します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

指導の過程で、必要に応じ、適宜、指示していきます。

国際法特別研究I 【夜】

法律学系科目
特別研究科目

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

受講者の能力・人数等を考慮し、受講者と調整をはかりながら、柔軟に運営していきます。

昨年度からの継続指導の該当者はいないので、１年めの指導計画・内容（ほぼ初学者・単独の場合）を例示する。

第１回　コースガイダンス
第２回　修士論文で扱いたいテーマの確認
第３回　テーマに関する資料収集①　邦語文献【書籍・論文】
第４回　テーマに関する資料収集②　外国語文献【書籍・論文】
第５回　テーマに関する資料収集③　WEB【国内の公的機関等】
第６回　テーマに関する資料収集④　WEB【外国の公的機関等】
第７回　テーマに関する資料収集⑤　WEB【国際機関】
第８回　テーマに関する資料収集⑥　判例【国内】
第９回　テーマに関する資料収集⑦　判例【外国・国際】
第１０回　邦語文献を用いた研究の進め方
第１１回　邦語文献の精読①
第１２回　邦語文献の精読②（続き）
第１３回　レジュメを用いた邦語文献の「報告」①　【論文A】
第１４回　レジュメを用いた邦語文献の「報告」②　【論文B】
第１５回　１学期進捗状況の振り返りと夏季休暇中の作業の確認
《夏季休暇》
第１６回　判例を用いた研究の進め方
第１７回　判例研究①　判決文の精読
第１８回　判例研究②　判決文の精読（続き）
第１９回　判例研究③　原判決等との比較検討
第２０回　判例研究④　判例評釈等の活用
第２１回　レジュメを用いた判例研究の「報告」
第２２回　外国語文献を用いた研究の進め方①　語学力の確認
第２３回　外国語文献を用いた研究の進め方②　パラグラフリーディングと論文構造の把握（一読によるあらレジュメの作成）
第２４回　外国語文献の精読①
第２５回　外国語文献の精読②（続き）
第２６回　外国語文献の精読③（続き）
第２７回　外国語文献の精読④（続き）
第２８回　レジュメを用いた外国語文献の「報告」
第２９回　修士論文で扱いたいテーマの明確化
第３０回　２学期進捗状況の振返りと２年次に向けての作業の確認

成績評価の方法　/Assessment Method

指導されたアサインメントの実施状況をもとに評価します。
アサインメントの実施状況…100%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

アサインメントに従い、事前学習を行い、授業にのぞむことを求めます。
また指示に従い、事後学習を進め、授業の理解を深めることを求めます。

履修上の注意　/Remarks

各回の指導に基づき、作業をこなしていってもらう必要があります。そのため授業以外に十分な勉強時間を確保してもらうことになります。
なお担当者は、国際公法分野を専門としています。問題関心領域の関連等で、何か質問・懸念等があれば、事前に相談に来られてください。
まずは　ninomiya@kitakyu-u.ac.jp　まで。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

大学院の修士時代に、一番勉強した（させられた）という記憶が残っています。確かに大変でしたが、知的好奇心が満たされていく充実感も同時に味わうことができました。この経験・蓄積が今の自分を支えてくれています。
院生のみなさん、くじけそうになることがあるかも知れませんが、未来を信じて、がんばってください。

キーワード　/Keywords

【修士論文】【指導】【国際法】

私法領域特定課題研究I 【夜】

担当者名 /Instructor　小池　順一 / junichi KOIKE / 法律学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　4単位　学期 /Semester　1・2学期（ペア）　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion),Specific Targets in Focus

【専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	△	高度専門職業人として活躍するために必要とされる私法分野の専門的・実務的知識を修得している。
技能	○	学部での学習または社会人経験に基づき、私法分野における特定課題を深く掘り下げて研究できる分析能力・思考能力を身につけている。
態度	◎	高度専門職業人または高度な知的素養を有する人材として、地域社会でリーダーシップを発揮できる主体性を有する。

※　◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

私法領域特定課題研究Ⅰ

授業の概要　/Course Description

この科目は、「専修コース」の院生を対象に特定課題研究完成に向けた指導を行うことを目的として開講しています。
指導の詳細は院生と相談の上、決定します。
初回ガイダンスには必ず出席してください。

教科書　/Textbooks

各担当指導教員から指示します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

各担当教員が文献を紹介します。

私法領域特定課題研究I 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 ガイダンス 集団指導教員による指導内容の相談
2回 代表指導教員による指導 研究テーマ、内容の検討
3回 代表指導教員による指導 研究方法の検討、基本的資料の選定
4回 代表指導教員による指導 研究計画策定 分担指導の内容の決定
5回 集団指導教員①による指導 テーマ①についての基本文献の収集
6回 集団指導教員①による指導 テーマ①についての基本文献の精読
7回 集団指導教員①による指導 テーマ①についての基本文献を用いた研究報告
8回 集団指導教員①による指導 テーマ①についての関係文献の収集
9回 集団指導教員①による指導 テーマ①についての関係文献の精読
10回 集団指導教員①による指導 テーマ①についての基本判例の精読
11回 集団指導教員①による指導 テーマ①について基本判例の分析
12回 集団指導教員①による指導 テーマ①について関係判例の精読
13回 集団指導教員①による指導 テーマ①について関係判例の検討
14回 集団指導教員①による指導 テーマ①についての研究成果のまとめ
15回 代表指導教員による指導 テーマ①についての状況確認、夏休み中の作業の確認
16回 集団指導教員②による指導 テーマ②についての基本文献の収集
17回 集団指導教員②による指導 テーマ②についての基本文献の精読
18回 集団指導教員②による指導 テーマ②についての基本文献を用いた研究報告
19回 集団指導教員②による指導 テーマ②についての関係文献の収集
20回 集団指導教員②による指導 テーマ②についての関係文献の精読
21回 集団指導教員②による指導 テーマ②についての基本判例の精読
22回 集団指導教員②による指導 テーマ②についての基本判例の検討
23回 集団指導教員②による指導 テーマ②についての関係判例の精読
24回 集団指導教員②による指導 テーマ②についての関係判例の検討
25回 集団指導教員②による指導 テーマ②についての研究成果のまとめ
26回 代表指導教員による指導 テーマ①及び②についての状況確認、残された課題の確認
27回 代表指導教員による指導 基本文献による補充指導
28回 代表指導教員による指導 関係文献による補充指導
29回 代表指導教員による指導 関係判例による補充指導
30回 代表指導教員による指導 研究成果の取りまとめ、次年度以降の作業の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極的な取り組み 20%
特定課題研究成果 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

判例や概説書等を参考に、事前に論点についての学説を整理してください。
事後は、報告、討論等を基にノートを作成してください。

履修上の注意 /Remarks

院生が自主的に課題に取り組むことが必要です。研究計画に基づいて、積極的に資料を収集し、担当者と議論してください。報告には、レジメの作成が必要です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

院生が各自の問題意識に基づいて、主体的に取り組むことが何より必要です。

キーワード /Keywords

公法領域特定課題研究I 【夜】

担当者名 /Instructor　重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　4単位　学期 /Semester　1・2学期（ペア）　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Course Completion),Specific Targets in Focus

【専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	△	地域社会で中核的な役割を担うべき高度専門職業人にふさわしい公法分野の専門的・実務的知識を修得している。
技能	○	関心を持った公法分野の特定課題を深く掘り下げて研究するための批判的分析能力・論理的思考能力を身に着けている。
態度	◎	自立した高度専門職業人、高度で知的素養のある人材として、地域社会の中でリーダーシップを発揮する積極的・主体的な行動力を有する。

※ ◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

公法領域特定課題研究Ⅰ

授業の概要 /Course Description

この授業は、専修コースの大学院生が特定課題研究を完成させるための指導を行うことを目的とする。
授業においては、受講者の関心領域と問題意識に応じて特定課題研究論文を作成することを通して、高度専門職業人または高度で知的な素養のある人材として活躍し得る水準に到達することを目標とする。

教科書 /Textbooks

予めは、指定しない。開講後、受講者の関心領域に応じて、適宜指示する場合がある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講者の関心領域に応じて、適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1 回　ガイダンス
2 回　特定課題研究とは何か
3 回　関心領域の確認
4 回　基礎的文献の選択（1　日本語文献）
5 回　基礎的文献の選択（2　外国語文献）
6 回　その他の文献の検討（1　判例等）
7 回　その他の文献の検討（2　その他）
8 回　テーマの確定
9 回　構想の検討（1　視角）
10回　構想の検討（2　構成）
11回　構想の検討（3　結論）
12回　使用文献のまとめ（1　主要文献）
13回　使用文献のまとめ（2　その他の文献）
14回　文献読解状況の報告と検討（主要文献序盤）
15回　文献読解状況の報告と検討（主要文献前半）
16回　文献読解状況の報告と検討（主要文献中盤）
17回　文献読解状況の報告と検討（主要文献後半）
18回　文献読解状況の報告と検討（その他の文献序盤）
19回　使用文献についての報告と検討（その他の文献前半）
20回　使用文献についての報告と検討（その他の文献後半）
21回　特定課題研究内容の報告と検討（序論）
22回　特定課題研究内容の報告と検討（第1章前半）
23回　特定課題研究内容の報告と検討（第1章後半）
24回　特定課題研究内容の報告と検討（第2章前半）
25回　特定課題研究内容の報告と検討（第2章後半）
26回　特定課題研究内容の報告と検討（第3章前半）
27回　特定課題研究内容の報告と検討（第3章後半）
28回　特定課題研究内容の報告と検討（第4章以下）
29回　全体のまとめ（結論）
30回　全体のまとめ（総合）

公法領域特定課題研究I 【夜】

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への積極的な取り組み…１０％　特定課題研究成果…９０パーセント

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業の前に、該当回の内容を事前に把握し予習しておくこと。授業の後は、配付資料等をもとに、内容を整理し、復習を行うこと。また、自己の関心領域に合わせて文献、資料等を収集し、整理しておくこと。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

政策調査法 【夜】

担当者名 /Instructor　政策科学科教員

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Course Completion),Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（政策科学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解		
技能	◎	地域社会の諸課題（または特定の政策課題）について、政策を立案・評価（または実践的に提言）するために必要な情報を収集・分析することができる。
態度	○	研究者（または高度専門職業人）として政策学的な観点から説得力のある議論を展開し、政策分野について専門的かつ主体的に研究することができる。

※　◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

政策調査法

授業の概要　/Course Description

本講義の目的は、これから大学院で研究する学生が、大学院で研究するに際して必要となる（研究の）方法論、調査方法、修士論文執筆のために知っておくべき基本的な知識を提供することにあります。大学院での研究といっても、政策科学系の学生は、学生の専門によって方法論等が異なるため、講義は指導教員を中心とした集団指導体制で行うことを予定しています。

教科書　/Textbooks

教科書は第一回目の講義において担当教員等が指示する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

参考文献は、各回ごとに教員が紹介する予定であるが、とりあえず以下のものを挙げておきます。
○伊藤修一郎『政策リサーチ入門–仮説検証による問題解決の技法–』（東京大学出版会、2011年）。
○秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山俊哉『公共政策学の基礎』（有斐閣、2010年）。
○松田憲忠・竹田憲史『社会科学のための計量分析入門–データから政策を考える–』（ミネルヴァ書房、2012年）。
○真淵勝監訳『社会科学のリサーチ・デザイン：定性的研究における科学的推論』（勁草書房、2004年）。
○ユージン・バーダック(著)、白石賢司他(翻訳)『政策立案の技法–問題解決を「成果」に結び付ける8つのステップ–』（東洋経済新報社、2012年）。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１．導入
２．いかにして政策を研究するのか一政策研究の方法と倫理
３．先行研究と文献リストの作成
４．論文作成の技法と作法
５．リサーチ・クエスション及び仮説をたてる
６．資料やデータを収集する
７．仮説を検証する
８．政策を提言する
９．論文の書き方
10．定量的分析と定質的分析
１１．定量的分析（１）–調査票の作成
１２．定量的分析（２）–サンプリング等について
１３．定質的分析（１）- 聞き取り調査
１４．定質的分析（２）- 参与観察法
１５．まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

成績評価は、毎回の授業における報告及び授業貢献度（60%）と学期末のレポート（40%）による。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

それぞれの回の授業担当教員の指示に従って授業の準備をしておくこと。授業終了後には論点をまとめ復習すること。

政策調査法 【夜】

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

政治学I 【夜】

担当者名 /Instructor　中井　遼 / NAKAI, Ryo / 政策科学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が修了時に身に付ける能力)」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion),Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース(政策科学系)】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者（または高度専門職業人）として活躍するために必要な、政治学分野の知識を修得する。
技能	○	社会の政治的課題について、必要な情報を収集・分析し、政策を立案・評価（または実践的に提言）することができる。
態度		

※ ◎:強く関連　○:関連　△:やや関連

政治学Ⅰ

※ 法律学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要　/Course Description

政治現象の根本単位ともいえる「国家」について，歴史的・実証的見地から根本的に見識を拡張するため，国家なき社会や国家から離脱してきた人々の社会的戦略と合理性について，世界的大著，『ゾミア：脱国家の世界史』（THE ART OF NOT BEING GOVERNED：An Anarchist History of Upland Southeast Asia）の輪読を通じて理解を深める。

教科書　/Textbooks

ジェームズ・スコット著（佐藤仁他訳）2013.『ゾミア：脱国家の世界史』（Scott, James, 2009. THE ART OF NOT BEING GOVERNED：An Anarchist History of Upland Southeast Asia, Yale UP.）
輪読の底本としては日本語版を用いるが，訳語や文意の正確な理解のために，英語原著も併せて読むことが想定される。併せて入手しておくこと。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　イントロダクション，担当決め
第２回　スコット2013　輪読１本目
第３回　スコット2013　論文輪読２本目
第４回　スコット2013　論文輪読３本目
第５回　スコット2013　論文輪読４本目
第６回　スコット2013　論文輪読５本目
第７回　スコット2013　論文輪読６本目
第８回　前半の振り返りと後半の担当決め
第８回　スコット2013　論文輪読７本目
第９回　スコット2013　論文輪読８本目
第10回　スコット2013　論文輪読９本目
第11回　スコット2013　論文輪読10本目
第12回　スコット2013　論文輪読11本目
第13回　スコット2013　論文輪読12本目
第14回　スコット2013　論文輪読13本目
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業参加による報告と議論への貢献　100%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

次回輪読箇所を必ず通読し，理解困難箇所・コメントを用意してくること。授業自体はその事前容易に基づいて展開される。

履修上の注意　/Remarks

政治学Iと政治学IIは独立して運用する。よって，後期政治学IIの履修予定がない者の参加も許可する。参加者1名の場合には授業の進め方に次いて相談事項とする

政治学I 【夜】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

政治学II 【夜】

担当者名 /Instructor　中井　遼 / NAKAI, Ryo / 政策科学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が修了時に身に付ける能力)」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion),Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース(政策科学系)】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者（または高度専門職業人）として活躍するために必要な、政治学分野の知識を修得する。
技能	○	社会の政治的課題について、必要な情報を収集・分析し、政策を立案・評価（または実践的に提言）することができる。
態度		

※ ◎:強く関連　○:関連　△:やや関連

政治学Ⅱ

※ 法律学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要　/Course Description

政治学主要雑誌の近年の論文から，参加者の関心と相談の上輪読対象を決定し，これを読解し批判的に検討する。おもにAPSR, AJPS, JOP, BJPS, EJPR, CPS, IO,『年報政治学』,『国際政治』,『レヴァイアサン』,『比較政治学会年報』を対象とする。各回に主たる報告担当者を決めて輪読を進めていく。

教科書　/Textbooks

特定書籍の教科書なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜指示する

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　イントロ・担当決め
第２回　政治学学術論文輪読　１本目
第３回　政治学学術論文輪読　２本目
第４回　政治学学術論文輪読　３本目
第５回　政治学学術論文輪読　４本目
第６回　前半フォローアップと中盤の担当決め
第７回　政治学学術論文輪読　５本目
第８回　政治学学術論文輪読　６本目
第９回　政治学学術論文輪読　７本目
第10回　政治学学術論文輪読　８本目
第11回　中盤フォローアップと後半の担当決め
第12回　政治学学術論文輪読　９本目
第13回　政治学学術論文輪読　10本目
第14回　政治学学術論文輪読　11本目
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業参加の上での報告と議論への参加　100%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

各回の輪読論文については全員が事前に読解の上コメントを用意してくることを求める。
内容の検討が重要であり英文読解は（重要な場所を除き）授業内では行わないため，その点については各人が予習・復習において対応する事。

履修上の注意　/Remarks

本講義は政治学IIIとは独立に運用される。よって，政治学III未履修者の履修も許可する。

上記に挙げた主要誌のうち，EJPRとCPSについては現在の本学環境ではアクセスできないため，EJPRについては教員個人資産を介して，CPSはILL等を通じて入手するものとする。

政治学II 【夜】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

行政学I 【夜】

担当者名 /Instructor　森　裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が修了時に身に付ける能力)」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion),Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース(政策科学系)】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者（または高度専門職業人）として活躍するために必要な、行政学分野の知識を修得する。
技能	○	地域社会の諸課題（または特定の政策的課題）について、必要な情報を収集・分析し、政策を立案・評価（または実践的に提言）することができる。
態度		

※ ◎:強く関連　○:関連　△:やや関連

行政学Ⅰ

※ 法律学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要　/Course Description

本講義は、特に欧米の最新の行政学の文献を読み、行政学の展開を学ぶ。原則、テキストを輪読し、行政学の基本的内容を身につけた上で、議論を行う。

教科書　/Textbooks

B Guy Peters, Tero Erkkilae, Patrick von Maravić, 2015, Public Administration: Research Strategies, Concepts, and Methods, Routledge.

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

講義中に適宜指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　ガイダンス
第２回　行政学の概観
第３回　Introduction: Studying Public Administration
第４回　Power (テキスト第１章)
第５回　Structure (テキスト第２章)
第６回　People (テキスト第３章)
第７回　Roles (テキスト第４章)
第８回　Decisions (テキスト第５章)
第９回　Ideas (テキスト第６章)
第１０回　Corruption (テキスト第７章)
第１１回　Change (テキスト第８章)
第１２回　Problems and Strategies (テキスト第９章)
第１３回　テキストを巡る議論【行政学の進展を巡る議論】
第１３回　テキストを巡る議論【方法論などについて】
第１４回　日本の行政学の最新の文献
第１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

期末論文･･･８０％、講義参加積極度･・・２０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前には指定教科書の予習を行う。また、事後学習は講義中に議論した内容をまとめてレポートとして提出する。

履修上の注意　/Remarks

輪読において、事前準備は必須の作業である。
授業開始前までにシラバスを確認し予習しておくこと。授業終了後には論点をまとめ復習すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

行政学I 【夜】

キーワード　/Keywords
行政学、官僚制

行政学II 【夜】

担当者名 /Instructor　森　裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が修了時に身に付ける能力)」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion),Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース(政策科学系)】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者（または高度専門職業人）として活躍するために必要な、行政学分野の知識を修得する。
技能	○	地域社会の諸課題（または特定の政策的課題）について、必要な情報を収集・分析し、政策を立案・評価（または実践的に提言）することができる。
態度		

※ ◎:強く関連　○:関連　△:やや関連

行政学Ⅱ

※ 法律学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要　/Course Description

近年、ガバナンスやパートナーシップといった概念が行政学では定着しつつある。これは政府と民間諸組織とが協力して政策過程を進めていくことを含意するものである。そこにはいわば組織間間関係が発生することになるが、そうした関係は自然に発生したり、うまく作動したりするものでなく、関係形成を促したり、関係をマネジメントしたりすることが必要である。そうした分析手法ないしマネジメント手法として欧米で近年注目されている"boundary spanning"（境界連結）に着眼した研究を読み、最新の議論を学ぶ。

教科書　/Textbooks

Williams, P., 2012, Collaboration in Public Policy and Practice: Perspectives on Boundary Spanners, The Policy Press.
山倉健嗣（1993）『組織間関係論–企業間ネットワークの変革に向けて』有斐閣。
田尾雅夫（2015）『公共マネジメント』有斐閣。
森裕亮（2016）「官民関係研究と境界連結概念」『同志社政策科学研究』。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References（Available in the library: ○ ）

講義の際指定する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス
第2回　組織間関係と境界連結概念【山倉（1993）】
第3回　官民関係と境界連結概念【田尾（2015）ほか】
第4回　Introduction【Williams　第１章】
第5回　Policy context: Intra and intersectional Collaboration【Williams　第２章】
第6回　Structure and agency【Williams　第３章】
第7回　The role and competencies of boundary spanners【Williams　第４章】
第8回　Challenges in the boundary spanning role【Williams　第５章】
第9回　Learning from the private sector【Williams　第６章】
第10回　We are all boundary spanners now?【Williams　第７章】
第11回　Implecations for policy and practice【Williams　第８章】
第12回　Reflections and conclusion【Williams　第９章】
第13回　Williamsの議論【境界連結概念】
第14回　官民関係分析の枠組みとしての可能性【森（2016）】
第15回　ふりかえり

成績評価の方法　/Assessment Method

期末レポート・・・８０％、講義参加の積極性・・・２０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習は、発表の準備を行うだけでなく、関連する資料も参考にする。事後学習は、講義中の議論をまとめてレポートとして提出する。

履修上の注意　/Remarks

毎回１章分の予習と準備が必要です。授業終了後には論点をまとめ復習すること。

行政学II 【夜】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

他の欧米の文献も予習ではいっぱい読みましょう。

キーワード　/Keywords

組織間関係、組織論、行政学、境界連結

政治思想史I 【夜】

担当者名 /Instructor　大澤　津 / 政策科学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が修了時に身に付ける能力)」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion),Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース(政策科学系)】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者（または高度専門職業人）として活躍するために必要な、政治思想史分野の知識を修得する。
技能	○	社会の諸課題（または特定の政策的課題）について、必要な情報を収集・分析し、政策を立案・評価（または実践的に提言）することができる。
態度		

※ ◎:強く関連　○:関連　△:やや関連

政治思想史Ⅰ

※ 法律学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要　/Course Description

政治思想史Ⅰでは、政治思想史の研究に必要な知識の習得を図ります。また、歴史的に展開されてきた政治思想が、現代の問題や政治理論とどうかかわるのかも考察していきます。

教科書　/Textbooks

受講者と相談して決めます。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　政治思想史研究の方法
第2回　古代政治思想の概観
第3回　古代ギリシア政治思想I 【プラトン：国家】
第4回　古代ギリシア政治思想II　【プラトン：ノモス】
第5回　古代ギリシア政治思想III　【アリストテレス：倫理学】
第6回　古代ギリシア政治思想IV　【アリストテレス：政治学】
第7回　古代から中世へ：その歴史的展開
第8回　中世政治思想概観
第9回　中世政治思想I　【アウグスティヌス：神の国】
第10回　中世政治思想II　【アウグスティヌス：告白】
第11回　中世政治思想III 【トマス・アクィナス：神学大全】
第12回　中世政治思想IV 【トマス・アクィナス：暴君放伐論】
第13回　中世末期の政治思想I　【マルシリオ・パドヴァ：平和の擁護者】
第14回　中世末期の政治思想II　【マルシリオ・パドヴァ：人民主義】
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

報告、授業への取り組み…100%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

指定された課題を事前に読むこと。また授業後には、討議した論点をまとめておくこと。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

政治思想史II 【夜】

担当者名 /Instructor　大澤　津 / 政策科学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が修了時に身に付ける能力)」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion),Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース(政策科学系)】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者（または高度専門職業人）として活躍するために必要な、政治思想史分野の知識を修得する。
技能	○	社会の諸課題（または特定の政策的課題）について、必要な情報を収集・分析し、政策を立案・評価（または実践的に提言）することができる。
態度		

※ ◎:強く関連　○:関連　△:やや関連

政治思想史Ⅱ

※ 法律学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

政治思想史ＩＩでは、政治思想史の研究に必要な知識の習得を図ります。また、歴史的に展開されてきた政治思想が、現代の問題や政治理論とどうかかわるのかも考察していきます。

教科書 /Textbooks

受講者と相談して決めます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回　中世ヨーロッパからルネサンスへ
第2回　ルネサンスの政治思想I　【マキャベリ：君主論】
第3回　ルネサンスの政治思想II　【マキャベリ：ディスコルシ】
第4回　共和主義の流れ
第5回　宗教改革期の政治思想
第6回　近代の政治思想I　【ホッブス：哲学の体系】
第7回　近代の政治思想II　【ホッブス：リヴァイアサン】
第8回　近代の政治思想III　【ロック：認識論】
第9回　近代の政治思想IV　【ロック：統治論】
第10回　近代の政治思想V　【ルソー：人間不平等起源論】
第11回　近代の政治思想VI　【ルソー：社会契約論】
第12回　民主主義への省察
第13回　危機の時代の政治思想
第14回　戦後の政治思想
第15回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告、授業への取り組み…100％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された課題を事前に読むこと。また授業後には、討議した論点をまとめておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

途上国開発論I 【夜】

担当者名 /Instructor　三宅 博之 / HIROYUKI　MIYAKE / 政策科学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が修了時に身に付ける能力)」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion),Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース(政策科学系)】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者（または高度専門職業人）として活躍するために必要な、途上国の開発分野の知識を修得する。
技能	○	地域社会の諸課題（または特定の政策的課題）について、必要な情報を収集・分析し、政策を立案・評価（または実践的に提言）することができる。
態度		

※ ◎:強く関連　○:関連　△:やや関連

途上国開発論Ⅰ

※ 法律学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

1990年代以降、開発途上国はグローバリゼーションの影響を受け、政治的、経済的、社会的に大きく変わってきている。貧困といわれていたアフリカ諸国に多くの天然資源が発掘され、資源マネーを生み出している。現在、中国の直接投資でインフラや市場が整備されてきている。アジア地域は大半の国々ではGDPを毎年７％以上上昇させている。大都市の建築物の様相はこの間、建設ラッシュのために一変した。このようにダイナミックに動く途上国の動きを開発学の視点からとらえるのが本授業の目的である。この経済的な動きはすべての国民を満足させたわけではない。経済的格差が余計に拡大したともいわれるように、貧困層での貧困の質・量も変わってきた。本授業ではその部分にも触れてみたい。その事例対象にはバングラデシュを中心に、他の途上国諸国にも焦点を当てたい。

教科書 /Textbooks

* 三宅博之『開発途上国の都市環境～バングラデシュ・ダカ　持続可能な社会の希求』明石書店、2008年
* Ministry of Environments & Forests, Bangladesh ~ Capacity Development Action Plan, 2007, Govt of Bangladesh

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

* Diana Mitlin & David Satterthwaite, Urban Poverty in the Global South - Scale and nature, Routledge, 2013
* 松井範惇　&　池本幸生編『アジアの開発と貧困』明石書店、2006年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回　授業の目標と概要説明
2回　途上国における開発・発展概念とは？　～経済発展
3回　貧困の計測
4回　社会開発
5回　開発研究の鳥瞰図
6回　人間開発
7回　国際移動
8回　都市問題
9回　農村問題
10回　ガバナンス
11回　バングラデシュの経済状況
12回　バングラデシュの都市と農村
13回　世界に散らばるバングラデシュ人労働者　他の途上国の事例と比べて
14回　バングラデシュの廃棄物問題と社会配慮　　他の途上国諸国と比べて
15回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加態度…40％、レポート…60％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

当該日の授業内容を知り、事前に関連する文献を読み、ノートにまとめておく。事後には、自らの考えと授業で議論された内容とどのように違うのか、または類似していたのかをノートに整理する。

履修上の注意 /Remarks

授業開始前までにシラバスを確認し予習しておくこと。授業終了後には論点をまとめ復習すること。

途上国開発論I 【夜】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

英語の読解力も身に着けるように努力してください。

キーワード　/Keywords

貧困の計測、ガバナンス、人間開発、社会開発、バングラデシュ

途上国開発論II 【夜】

担当者名 /Instructor　三宅 博之 / HIROYUKI　MIYAKE / 政策科学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が修了時に身に付ける能力)」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion),Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース(政策科学系)】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者（または高度専門職業人）として活躍するために必要な、途上国の開発分野の知識を修得する。
技能	○	地域社会の諸課題（または特定の政策的課題）について、必要な情報を収集・分析し、政策を立案・評価（または実践的に提言）することができる。
態度		

※ ◎:強く関連　○:関連　△:やや関連

途上国開発論Ⅱ

※ 法律学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

開発途上国は、この間経済成長を急ぐあまり、深刻な環境問題に直面している。日本にも大きな影響を与えている中国大都市の大気汚染（PM2.5）、河川や海洋の水質汚濁、廃棄物問題や森林破壊などである。このような環境問題や貧困問題の解決の一方法に環境教育やESD（持続可能な開発のための教育）やSDGsがある。1990年代や今世紀に入って積極的に導入されてきた。本授業ではまず、環境問題の原因を探り、そのあと環境教育やESDの理論的解釈、さらにはその奏功について吟味する予定である。SDGsの目標年である2030年を見据えて学習したい。

教科書 /Textbooks

* 日本環境教育学会編『環境教育』教育出版、2012年
* 朝岡幸彦編『新しい環境教育の実践』高文堂出版社、2005年
* 阿部治・田中治彦編『アジア・太平洋地域におけるESD（持続可能な開発のための教育）の新展開』明石書店、2012年
* 事業構想大学院大学出版部編『SDGsの基礎』事業構想大学院大学、2018年、1980円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○御代川貴久夫・関啓子編『環境教育を学ぶ人のために』世界思想社、2009年
* 日本ホリスティック教育協会編『ホリスティック教育入門』せせらぎ出版、2005年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回　授業の目的と今後の内容
2回　世界の環境問題～地球温暖化　【地球温暖化】
3回　世界の環境問題～生態系と生物多様性　【生物多様性】
4回　世界の環境問題～資源ごみ問題　【ごみ問題】
5回　世界の環境問題～食料・水　【食料】
6回　環境教育とは　？　【環境教育】
7回　環境教育の歴史と倫理　【倫理】
8回　環境教育の目的と方法　【目的と方法】
9回　環境教育計画の作り方（アクティビティを含む）　【アクティビティ】
10回　環境教育からESDへの移行　【ESD】
11回　ESDの歴史と概念　【歴史】
12回　ホリスティック教育の登場　【ホリスティック教育】
13回　途上国の環境教育とSDGｓ　～　インド編　【SDGsとインド】
14回　途上国の環境教育とSDGs　～　インドネシア編　【SDGsとインドネシア】
15回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加態度…30%、小課題…20%、レポート…50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前には当該日の授業内容に関連する文献を読み、他の資料にも目を通しておく。事後は、授業の議論を経て出された考えが先の自らの考えとどのような相違があったのかを知り、ノートに記述する。

途上国開発論II 【夜】

履修上の注意　/Remarks

環境教育やＥＳＤに関してはある程度の理論が確立されようとしている。しかし、他の学問に比べ、少し、捉えづらい個所もある。したがって、配布された資料を読み、授業で学習したことを復習し、その理論的な支柱をおぼえるようにして欲しい。授業開始前までにシラバスを確認し予習しておくこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

ESDや環境教育の知識を獲得すると同時に、スキルも学んでください。

キーワード　/Keywords

ESD、SDGs、環境教育、地球温暖化、インド・中国

産業政策論I 【夜】

担当者名 /Instructor　田代　洋久 / Hirohisa Tashiro / 政策科学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が修了時に身に付ける能力)」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion),Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース(政策科学系)】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者（または高度専門職業人）として活躍するために必要な、都市の産業政策の知識を修得する。
技能	○	都市の諸課題（または特定の政策的課題）について、必要な情報を収集・分析し、政策を立案・評価（または実践的に提言）することができる。
態度		

※ ◎:強く関連　○:関連　△:やや関連

産業政策論Ⅰ

※ 法律学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要　/Course Description

人口減少社会、加速化するグローバル競争、地域格差の拡大が進む中、地域経済を支えるこれまでの地域経済政策は転換を余儀なくされている。地域の持続的な発展に向けて、地域のポテンシャルを踏まえた適切な産業政策の展開が求められる一方、地域社会との共創性も看過できない。

地域経済政策論Iでは、地域経済が直面する現状と課題を概観した後、地域経済政策の変遷に触れながら、地域経済の活性化とはどのようなことなのか、企業・地域の成長戦略における場所の意味は何か、地域経済政策の実際の展開などの論点について、具体的な事例を交えながら検討していく。

受講者の主体的な参加を促すため、本講義はゼミ形式で行う。

教科書　/Textbooks

○中村良平[2014]『まちづくり構造改革』日本加除出版
○川端基夫[2013]『立地ウォーズ 改訂版』新評論

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○山崎朗他[2016]『地域政策』中央経済社
講義の中で適宜紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1．オリエンテーション - 本講義の目的と概要
2．競争の激化と地域格差の拡大
3．産業構造の変化と地域産業政策の枠組み
4．地域経済政策の課題① - ものづくり産業の衰退
5．地域経済政策の課題② - 地方創生を担う中小企業
6．地域経済政策の課題③ - コミュニティベース
7．地域産業政策の変遷 - 地域開発と内発的発展
8．地域経済の活性化① - 持続可能な地域の条件
9．地域経済の活性化② - 基盤産業と非基盤産業
10．地域経済の活性化③ - 地域内経済循環事例
11．立地戦略と都市経済① - 場所の価値、立地戦略の方向性
12．立地戦略と都市経済② - 立地創造
13．地域産業戦略事例 - 商店街活性化
14．地域産業戦略事例 - 観光まちづくり
15．まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

・課題レポート50%、日常の授業への取り組み50%

産業政策論I 【夜】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

・授業外学習として、演習内容に沿って自主的な事前事後学習を行うほか、適宜、課題を与えるので、決められた期日までに準備してください。

履修上の注意　/Remarks

・無断欠席、理由のない遅刻などの逸脱行動は厳禁です。理由なく教員の指導に従わない行動をとった場合、以後の受講を認めません。
・授業計画は進捗状況に応じて、変更する場合があります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

・担当教員は、経済系シンクタンクでの研究や地方自治体で地域政策実務経験等を踏まえ、深刻化する地域経済を支える今後の産業政策のあり方について、受講生と議論をしたいと考えています。
・幅の広い視点や柔軟な発想を持った受講生を歓迎します。

キーワード　/Keywords

産業政策論II 【夜】

担当者名 /Instructor　田代　洋久 / Hirohisa Tashiro / 政策科学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が修了時に身に付ける能力)」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion),Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース(政策科学系)】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者（または高度専門職業人）として活躍するために必要な、都市の産業政策の知識を修得する。
技能	○	都市の諸課題（または特定の政策的課題）について、必要な情報を収集・分析し、政策を立案・評価（または実践的に提言）することができる。
態度		

※ ◎:強く関連　○:関連　△:やや関連

産業政策論Ⅱ

※ 法律学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要　/Course Description

地域経済政策論IIでは、「創造」と「マネジメント」をテーマとする。
具体的にはまちづくり活動と連動しながら公共施設や公共空間をはじめとした地域の価値創出に挑む地域創造、交流人口の増加を軸とした地域活性化の具体的な展開に焦点をあてる。
とりわけ近年は、地域性と連動する文化的資源の活用や地域内に所在する諸資源とまちづくりを連結させたアートプロジェクトが注目されていることを踏まえ、経済性を伴う都市文化政策を軸とした展開に注目する。
この他、ふるさと納税やクラウドファンディングに見られる新たな資金調達技術、地域プロモーションやマーケティング、パートナーシップ政策、地域ブランドの創造、観光まちづくりやスポーツまちづくりなど、都市マネジメントや都市政策と巧みに連動しながら展開される地域創造を対象とする。
受講者の主体的な参加を促すため、本講義はゼミ形式で行う。受講者の関心を踏まえた事例分析を中心としながら、地域の価値創出の本質と政策展開や政策後術に関する議論を行いたい。

教科書　/Textbooks

・ 特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○佐々木雅幸編(2019)『創造社会の都市と農村』水曜社
○佐々木雅幸編(2014)『創造農村』学芸出版社
○池田潔編(2014)『地域マネジメント戦略』同友館
○諸富徹(2017) 『人口減少時代の都市』中央公論新社
○宮副健司(2014)『地域活性化マーケティング』同友館
・ 講義の中で適宜紹介する。

産業政策論II 【夜】

政策科学系科目
専門科目

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　オリエンテーション - 本講義の目的と概要
第２回　都市マネジメントの変遷と課題
第３回　パートナーシップ手法を活用した地域創造
第４回　公共施設・公共空間の変容
第５回　地域課題をビジネスで解決する - 社会的企業の台頭
第６回　地域資源の戦略的活用と地域創造
第７回　公共領域における地域創造 - 事例研究（院生発表）
第８回　創造都市論と創造農村論
第９回　文化的資源の活用と創作活動
第10回　地域指向型アートプロジェクトの興隆
第11回　シビックプライドとシティプロモーション戦略
第12回　地域マーケティング、地域プロモーション、地域ブランド
第13回　文化創造のマネジメントと担い手 - クラウドファンディングなど
第14回　文化創造によるまちづくりの展開 - 院生発表
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

課題レポート50%、日常の授業への取り組み50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

・授業外学習として、演習内容に沿って自主的な事前事後学習を行うほか、適宜、課題を与えるので、決められた期日までに準備すること。

履修上の注意　/Remarks

・無断欠席、理由のない遅刻などの逸脱行動は厳禁です。理由なく教員の指導に従わない行動をとった場合、以後の受講を認めません。
・授業計画は進捗状況に応じて、変更する場合があります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

・担当教員は、持続可能な地域社会の再構築に向けて、特産品の開発や交流人口の増加など地域資源を活用した地域の価値創出及びそのメカニズムに関心を持っています。
・とりわけ近年は、文化的資源を活用した観光まちづくりや地域指向型アートプロジェクトに関する研究を進めています。
・多彩な事例をもとに、新しい経済主体と活動、政策効果について読み解いていくので、多元的な主体が参画するまちづくりに関心を持ち、積極的な学習意欲のある学生を歓迎します。

キーワード　/Keywords

公共政策論I 【夜】

担当者名 /Instructor　楢原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が修了時に身に付ける能力)」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion),Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース(政策科学系)】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者（または高度専門職業人）として活躍するために必要な、公共政策分野の知識を修得する。
技能	○	地域社会の諸課題（または特定の政策的課題）について、必要な情報を収集・分析し、政策を立案・評価（または実践的に提言）することができる。
態度		

※ ◎:強く関連　○:関連　△:やや関連

公共政策論Ⅰ

※ 法律学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、現代日本の地方自治体における公共政策を研究するうえで必要となる基本的な理論や分析方法を身につけることにある。
講義の詳細の内容については、本講義の履修者との議論で決めたいと考えている。本学期は公共政策を考える上で必要となる理論や方法論について触れてある文献を多角的視点から輪読したいと考えている。

教科書 /Textbooks

テキストは用いない。本講義履修者の関心や人数などによって、その都度、参考文献等は指示する予定である。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山俊哉『公共政策学の基礎』（有斐閣、2011年）。
○伊藤修一郎『政策リサーチ入門–仮説検証による問題解決の技法–』（東京大学出版会、2011年）。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

基本的には、開講後、本講義の履修者との相談によって、テーマやスケジュール等は決定することにしたい。以下は、あくまで授業計画の例にすぎない。

第１回　導入
第２回　公共政策とは何か
第３回　公共政策学の系譜
第４回　公共政策のアクター
第５回　アジェンダ設定理論
第６回　政策問題の構造化
第７回　公共政策の手段
第８回　公共政策規範
第９回　公共政策の決定と諸理論
第１０回　公共政策の実施
第１１回　公共政策の評価
第１２回　政策決定とアイディア
第１３回　公共政策のガバナンス
第１４回　公共政策とソーシャルキャピタル
第１５回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点（プレゼンテーションを含む）… 50%　　レポート … 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

基本書の輪読では、担当箇所について必ずレジュメを作成し、プレゼンテーションの準備をして授業に参加すること。
授業開始前までにシラバスを確認し予習しておくこと。授業終了後には論点をまとめ復習すること。

履修上の注意 /Remarks

公共政策論I 【夜】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

公共政策論II 【夜】

担当者名 /Instructor　楢原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が修了時に身に付ける能力)」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion),Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース(政策科学系)】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者（または高度専門職業人）として活躍するために必要な、公共政策分野の知識を修得する。
技能	○	地域社会の諸課題（または特定の政策的課題）について、必要な情報を収集・分析し、政策を立案・評価（または実践的に提言）することができる。
態度		

※ ◎:強く関連　○:関連　△:やや関連

公共政策論Ⅱ

※ 法律学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、現代日本の地方自治体における公共政策を多角的に分析・考察することを通じて、公共政策の基本的研究方法を身につけることにある。

本講義履修者との議論によって講義の詳細は決定したいと考えているが、今学期は、超高齢人口減少都市の問題や格差社会、子どもの貧困など最先端の問題を取り上げ議論できればと考えている。

教科書 /Textbooks

テキストは用いない。本講義履修者の関心や人数などによって、その都度、参考文献等は指示する予定である。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

芳賀祥泰編著『福祉の学校–安全・安心・快適な福祉国家を目指して–』（エルダーサービス、2010年）。
伊藤修一郎『政策リサーチ入門–仮説検証による問題解決の技法』（東京大学出版会、2011年）。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

基本的には、開講後、本講義の履修者との相談によって、テーマやスケジュール等は決定することにしたい。以下は、あくまで授業計画の例にすぎない。

第１回　導入
第２回　現代日本の公共政策とそのポイント（１）–超高齢社会I
第３回　現代日本の公共政策とそのポイント（２）–超高齢社会II
第４回　現代日本の公共政策とそのポイント（３）–超高齢社会III
第５回　現代日本の公共政策とそのポイント（４）–人口減少社会の到来I
第６回　現代日本の公共政策とそのポイント（５）–人口減少社会の到来II
第７回　現代日本の公共政策とそのポイント（６）–人口減少社会の到来III
第８回　現代日本の公共政策とそのポイント（７）–格差社会I
第９回　現代日本の公共政策とそのポイント（８）–格差社会II
第１０回　子どもの貧困（１）
第１１回　子どもの貧困（２）
第１２回　都市の限界コミュニティ
第１３回　北九州市の局地的高齢化と限界コミュニティ
第１４回　限界コミュニティの再生
第１５回　フードデザート、買物難民（弱者）問題

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点（プレゼンテーション等も含む）…　７０　％　　レポート…　３０　％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

基本書の輪読等では、担当箇所について必ずレジュメを作成し、プレゼンテーションの準備をして授業に参加すること。
授業終了後には論点をまとめ復習しておくこと。

公共政策論II 【夜】

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

福祉政策論I 【夜】

担当者名 /Instructor　狭間　直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が修了時に身に付ける能力)」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion),Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース(政策科学系)】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者（または高度専門職業人）として活躍するために必要な、福祉政策分野の知識を修得する。
技能	○	社会保障の諸課題（または特定の政策的課題）について、 必要な情報を収集・分析し、政策を立案・評価（または実践的に提言）することができる。
態度		

※ ◎:強く関連　○:関連　△:やや関連

福祉政策論Ⅰ

※ 法律学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要　/Course Description

行政や公共政策の領域を中心に、社会福祉サービスや社会保険、福祉国家を扱った図書・学術論文を講読します。福祉政策や福祉国家の現状と課題を議論するのはもちろんですが、現実の福祉政策や福祉国家に対して「学術研究はどうあるべきなのか？」「どのような論文が良き学術論文なのか？」など、研究の意義や方法論についても受講生と共に議論していきたいと思います。

教科書　/Textbooks

教科書は指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業中に指示します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　理論編①自由と平等
第２回　理論編②政府の役割
第３回　理論編③福祉国家の類型
第４回　社会保険編①年金【年金財政悪化】
第５回　社会保険編②年金【空洞化】
第６回　社会保険編③年金【世代間格差】
第７回　社会保険編④年金【世代内格差】
第８回　社会保険編⑤医療【国民皆保険】
第９回　社会保険編⑥医療【医療サービスの量】
第１０回　社会保険編⑦医療【医療サービスの質】
第１１回　社会保険編⑧医療【混合診療】
第１２回　生活保護①【保護の決定】
第１３回　生活保護②【最低生活水準】
第１４回　ベーシック・インカム
第１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

報告内容・・・ 100%　　欠席1回につき5点程度減点する。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

年金や医療のしくみについて関心をもっておいてください。また、授業終了後は、配布資料をよく読み、知識や自分の考えを整理してください。

履修上の注意　/Remarks

授業開始前までにシラバスを確認し予習しておくこと。授業終了後には論点をまとめ復習すること。

福祉政策論I 【夜】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

特になし。

キーワード　/Keywords

特になし。

福祉政策論II 【夜】

担当者名 /Instructor　狭間　直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が修了時に身に付ける能力)」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion),Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース(政策科学系)】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者（または高度専門職業人）として活躍するために必要な、福祉政策分野の知識を修得する。
技能	○	社会保障の諸課題（または特定の政策的課題）について、 必要な情報を収集・分析し、政策を立案・評価（または実践的に提言）することができる。
態度		

※ ◎:強く関連　○:関連　△:やや関連

福祉政策論Ⅱ

※ 法律学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要　/Course Description

行政や公共政策の領域を中心に、社会福祉サービスや社会保険、福祉国家を扱った図書・学術論文を講読します。福祉政策や福祉国家の現状と課題を議論するのはもちろんですが、現実の福祉政策や福祉国家に対して「学術研究はどうあるべきなのか？」「どのような論文が良き学術論文なのか？」など、研究の意義や方法論についても受講生と共に議論していきたいと思います。

教科書　/Textbooks

教科書は指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業中に指示します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　社会福祉サービスとは
第２回　社会福祉サービスの行政
第３回　社会福祉サービスの財政
第４回　介護保険の保険料・保険給付
第５回　介護保険のサービス
第６回　介護保険の課題
第７回　児童福祉のサービス
第８回　保育所改革
第９回　児童虐待への対応
第１０回　障害者の定義
第１１回　障害者福祉のサービス
第１２回　障害者の就労支援①【一般就労】
第１３回　障害者の就労支援②【福祉的就労】
第１４回　地域福祉
第１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

報告内容・・・ 100%　　欠席1回につき5点程度減点する。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

社会福祉サービスについて関心をもっておいてください。また、授業終了後は、配布資料をよく読み、知識や自分の考えを整理してください。

履修上の注意　/Remarks

授業開始前までにシラバスを確認し予習しておくこと。授業終了後には論点をまとめ復習すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

特になし。

福祉政策論II 【夜】

キーワード　/Keywords
特になし。

環境政策論I 【夜】

担当者名 /Instructor　申　東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が修了時に身に付ける能力)」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion),Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース(政策科学系)】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者（または高度専門職業人）として活躍するために必要な、環境政策の知識を修得する。
技能	○	地域の諸課題（または特定の政策的課題）について、必要な情報を収集・分析し、政策を立案・評価（または実践的に提言）することができる。
態度		

※ ◎:強く関連　○:関連　△:やや関連

環境政策論Ⅰ

※ 法律学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要　/Course Description

社会問題の増加に伴い、政府の役割やその政策に関する議論も増加の傾向にある。このような議論のなかで、比較政治研究や比較制度分析論は、制度、アクター、アイディア、時間などを分析概念とし、各国の政策過程やその相違について分析している。授業では、このような分析概念、比較研究方法論などについて議論し、関連知識を取得する。

政府機能・比較制度分析に関する知識の取得。
①政府機能・役割に関する論文や著作を読んで議論する。
②制度論と比較研究について議論する。

専門知識の活用能力を高める。
①制度論と比較研究に関する知識を活用する。
②レポートや論文などで応用し、分析してみる。

教科書　/Textbooks

特に、指定しないが、「政府の失敗」「比較制度」に関する著作、論文を読む。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『政策リサーチ入門–仮説検証による問題解決の技法』(伊藤修一郎著　東京大学出版会　￥2,940)
『比較政治制度論』(建林 正彦、曽我 謙悟、待鳥 聡史著　有斐閣アルマ　￥2,100)
『比較政治経済学』(新川敏光、井戸正伸、宮本太郎、真柄秀子著　有斐閣アルマ　￥2,310)
その他、制度論、The Principal-Agent Model やGame Theory 関連の論文や著作。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第 1回　関連書籍や議論の紹介。
第 2回　政策リサーチ入門I【理論と推論】
第 3回　政策リサーチ入門II【因果関係と変数】
第 4回　政策リサーチ入門III【研究の問いとデータ】
第 5回　比較政治経済学I【理論】
第 6回　比較政治経済学II【比較政治】
第 7回　比較政治経済学III【拒否権等の事例】
第 8回　公共部門の経済学IV【政策失敗：官僚、予算】
第 9回　比較政治制度論I【制度論】
第10回　比較政治制度論II【比較分析】
第11回　比較政治制度論III【比較ー環境事例】
第12回　Game Theory 関連論文の議論。
第13回　Game Theory やThe Principal-Agent Model　関連論文の議論。
第14回　The Principal-Agent Model やガバナンス関連論文の議論。
第15回　まとめ。
その他　論文のコピーを配布する。

環境政策論I 【夜】

成績評価の方法　/Assessment Method

レポートの報告（60%）議論（40%）。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

論文を読んで、著者の問題意識、論点について考えること。
事前課題を学習支援フォルダに挙げるので、参照し準備すること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

政府機能、政府役割、政府失敗、制度、アクター

環境政策論II 【夜】

担当者名 /Instructor　申　東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が修了時に身に付ける能力)」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion),Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース(政策科学系)】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者（または高度専門職業人）として活躍するために必要な、環境政策の知識を修得する。
技能	○	地域の諸課題（または特定の政策的課題）について、必要な情報を収集・分析し、政策を立案・評価（または実践的に提言）することができる。
態度		

※ ◎:強く関連　○:関連　△:やや関連

環境政策論Ⅱ

※ 法律学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要　/Course Description

環境問題：地球規模の環境問題、気候変動と農業・ 災害・ 都市の生活基盤との関係、福島事故と災害の問題など。
環境政策：温暖化対策、エネルギー政策、リスク管理政策などについての理解と専門知識の取得。

以上の内容、他のテーマに関する内容を研究する。

①環境問題や環境政策を理解するため、論文や著作を読んで議論し、理解力を高める。
②環境政策の形成過程を分析する理論的視座について勉強し、その議論を深める。

専門知識の活用能力を高める。
①環境政策の形成に関する専門的知識を応用する。
②環境政策の事例を取り上げ、分析してみる。

教科書　/Textbooks

特に、指定しないが、環境問題や環境政策に関する論文、著作を読んで議論する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『環境経済学』(宮本憲一著、岩波書店、￥3,990)
○『環境社会学』(船橋晴俊著　成文堂　￥2,700)
○『再生可能エネルギーの政治経済学』(大島堅一著　東洋経済新報社　￥3,990)
○『環境問題の社会史』(飯島伸子著　有斐閣　￥2,310)
○『脱原子力の運動と政治–日本のエネルギー政策の転換は可能か』(本田 宏著　北海道大学図書刊行会　￥6,300)

その他　英文、 リスク管理関連の論文のコピーを配布する。また、視聴覚資料 (youtube、DVD) を参考する。

環境政策論II 【夜】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第 1回　授業内容と本の説明、紹介。
第 2回 環境問題の社会史【人間生活と環境】
第 3回　環境問題の社会史【環境問題と社会史】
第 4回　環境経済学【環境問題と経済学】
第 5回　環境経済学【政策手段】
第 6回　環境経済学【自律協定と排出取引権】
第 7回 【温暖化問題】
第 8回 【エネルギーイシューと論点】
第 9回 【原子力と再生エネルギー】
第10回 【再生可能エネルギーの政治学】
第11回 【再生可能エネルギーの経済学】
第12回 【脱原子力の運動と政治】
第13回 【リスク管理政策】
第14回　アメリカでの研究、考察
第15回 海外での研究、考察、授業の総括

その他、 論文や資料を読み、議論する。

成績評価の方法　/Assessment Method

議論と報告（70%）、レポート（30%）で評価する。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

論文を読んで、著者の問題意識、論点について考えること。
事前課題を学習支援フォルダに挙げるので、参照し準備すること。

履修上の注意　/Remarks

政策過程論、環境政策を受講すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

「環境」というのは、単なる自然環境ではなく、人間生活を可能とするミナモトであり、人間と社会経済との関係をつなぐ媒介でもあります。
環境は、人々の考え方、文化　そして制度によって異なる現像であります。
「環境」の在り方を見つめることは、「社会構成原理」や「人間社会の在り方」を見つめることにもなります。このような議論の一つが「持続可能な」社会でしょう。
「環境」を考えることは、「今」・「ここ」という我々の生活に限定されない次世代に渡るコミュニケーションでもあります。

キーワード　/Keywords

人間生活と社会経済、制度、関係、アクター、利益、費用と便益、政策過程

政策評価論I 【夜】

担当者名 /Instructor　横山　麻季子 / Makiko, YOKOYAMA / 政策科学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が修了時に身に付ける能力)」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion),Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース(政策科学系)】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者（または高度専門職業人）として活躍するために必要な、評価論の知識を修得する。
技能	○	地域社会の諸課題（または特定の政策的課題）について、必要な情報を収集・分析し、政策を立案・評価（または実践的に提言）することができる。
態度		

※ ◎:強く関連　○:関連　△:やや関連

政策評価論Ⅰ

※ 法律学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要　/Course Description

本授業では、日本または海外諸国の行政・地方自治に関する文献（日本語および英語・主に理論）を輪読し、議論しながら、地方自治体における諸問題について検討し、公的部門の経営・評価、政策、組織等についての研究を行います。受講生は２回以上、報告者として担当となった文献をレジュメにまとめて発表し（パワーポイント等を用いてもよい）、報告者は疑問点や論点を提示し、受講生の議論をリードする役割も担います。内容が悪い場合には、再度報告をしてもらうことがあります。また受講生には、報告者であるなしに関わらず、文献を読み込んで授業に参加、議論に貢献することを強く求めます。文献報告のほか、個人の研究についても発表する機会を設ける予定です。

教科書　/Textbooks

受講生と相談のうえ決定します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○古川俊一・北大路信郷（2004）『新版公的部門評価の理論と実際』日本加除出版
○キャロル・H・ワイス(2014）『入門評価学：政策・プログラム研究の方法』日本評論社
○大島巌・源由理子ほか(2019）『実践家参画型エンパワメント評価の理論と方法』日本評論社
○小塩隆士（2012）『効率と公平を問う』日本評論社
○スティーブン P.ロビンス[髙木晴夫訳]（2009）『新版組織行動のマネジメント』ダイヤモンド社

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回　受講生の研究報告【研究テーマの確認】
３回　文献輪読【理論・実証の整理】
４回　文献輪読【分析手法の検討】
５回　文献輪読【評価論の整理・検討】
６回　文献輪読【評価方法の整理・検討】
７回　文献輪読【行政組織と行政評価】
８回　受講生の研究報告【リサーチ・クエスチョン】【仮説】
９回　文献輪読【行政評価システム導入状況の確認】
１０回　文献輪読【欧米諸国における行政評価の先進事例研究】
１１回　文献輪読【日本の地方自治体における行政評価の先進事例研究】
１２回　文献輪読【日本の中央省庁における行政評価の先進事例研究】
１３回　文献輪読【現行評価システムに対する批判的考察】
１４回　文献輪読【現行評価システムの改善策の検討】
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

報告50%、議論への参加・貢献50%
（無断欠席・遅刻は厳禁、度重なる場合には減点対象とします）

政策評価論I 【夜】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前に文献を読み込み、レジュメを作成すること、また事後学習については、特に研究報告時に出された質問やコメントをまとめ、次の報告に活かすため記録することが肝要です。

履修上の注意　/Remarks

特段必要なことはありません。随時読むべき文献・参考となる資料や論文を示していく予定ですが、受講生には常日ごろから活字を読む習慣をつけ、様々な問題やその背景を複合的にとらえたうえでの議論ができればと思っています。研究報告は、学年を問わず最低2度は行ってもらう予定です。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

政策評価論II 【夜】

担当者名 /Instructor　横山　麻季子 / Makiko, YOKOYAMA / 政策科学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が修了時に身に付ける能力)」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion),Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース(政策科学系)】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者（または高度専門職業人）として活躍するために必要な、評価論の知識を修得する。
技能	○	地域社会の諸課題（または特定の政策的課題）について、必要な情報を収集・分析し、政策を立案・評価（または実践的に提言）することができる。
態度		

※ ◎:強く関連　○:関連　△:やや関連

政策評価論Ⅱ

※ 法律学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要　/Course Description

本授業では、日本または海外諸国の行政・地方自治に関する文献（日本語および英語・主に実証分析）を輪読し、議論しながら、地方自治体における諸問題について検討し、公的部門の経営・評価、政策、組織等についての研究を行います。受講生は２回以上、報告者として担当となった文献をレジュメにまとめて発表し（パワーポイント等を用いてもよい）、報告者は疑問点や論点を提示し受講生の議論をリードする役割も担います。内容が悪い場合には、再度報告をしてもらうことがあります。また受講生には、報告者であるなしに関わらず、文献を読み込んで授業に参加、議論に貢献することを強く求めます。なお、個人研究の報告の機会も設ける予定です。

教科書　/Textbooks

受講生と相談のうえ決定します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○古川俊一・北大路信郷（2004）『新版公的部門評価の理論と実際』日本加除出版
○キャロル・H・ワイス（2014）『入門評価学：政策・プログラム研究の方法』日本評論社
○大島巌・源由理子ほか(2019）『実践家参画型エンパワメント評価の理論と方法』日本評論社
○小塩隆士（2012）『効率と公平を問う』日本評論社
○赤井伸郎（2006）『行政組織とガバナンスの経済学：官民分担と統治システムを考える』有斐閣

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回 ガイダンス
２回 受講生の研究報告【研究テーマの確認】【先行研究の紹介】
３回 文献輪読【理論・実証の整理】
４回 文献輪読【分析手法の検討】
５回 文献輪読【評価論の整理・検討】
６回 文献輪読【評価方法の整理・検討】
７回 文献輪読【評価における統計的分析】
８回 受講生の研究報告【リサーチクエスチョン】【仮説】
９回 文献輪読【行政評価システム導入状況の確認】
１０回 文献輪読【日本の地方自治体を中心とした行政評価の先進事例研究】
１１回 文献輪読【外部評価制度の事例研究】
１２回 文献輪読【外部評価制度の問題点】
１３回 文献輪読【現行評価システムに対する批判的考察】
１４回 文献輪読【現行評価システムの改善策の検討】
１５回 まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

報告50%、議論への参加・貢献50%
（無断欠席・遅刻は厳禁、度重なる場合には減点対象とします）

政策評価論II 【夜】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前に文献を読み込み、レジュメを作成すること、また事後学習については、特に研究報告時に出された質問やコメントをまとめ、次の報告に活かすため記録に残すことが肝要です。

履修上の注意　/Remarks

特段必要なことはありません。随時読むべき文献・参考となる資料や論文を示していく予定ですが、受講生には常日ごろから活字を読む習慣をつけ、様々な問題やその背景を複合的にとらえたうえでの議論ができればと思っています。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

比較政治経済学I 【夜】

担当者名 /Instructor　坂本　隆幸 / Takayuki Sakamoto / 政策科学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が修了時に身に付ける能力)」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion),Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース(政策科学系)】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者（または高度専門職業人）として活躍するために必要な、比較政治経済学分野の知識を修得する。
技能	○	社会・経済の諸課題（または特定の政策的課題）について、必要な情報を収集・分析し、政策を立案・評価（または実践的に提言）することができる。
態度		

※ ◎:強く関連　○:関連　△:やや関連

比較政治経済学Ⅰ

※ 法律学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要　/Course Description

このクラスは先進諸国が様々な政策分野でいかなる政策を実行し、政策がいかなる結果を創出するかを検証する。分析対象の政策分野は主に次：経済、福祉、教育、労働、規制、貿易など。また、違う政策が経済パフォーマンスや人々の福祉にどのような肯定的・否定的影響を与えるかを検証し、いかなる政策のセットが当該の結果の分野において望ましいかを考察する。さらに、これらの政策の相違はいかなる要因によって産まれるのかを考察する（諸国の政治経済体制の種類、経済状況、価値観、政党間競争、労使関係など）。また、資本・貿易や経済の国際化の制約が、諸国の政策にいかなる影響を与えるかを検証する。

*比較政治経済学「I・II」と「III・IV」の違いは、「III・IV」では「I・II」で学んだ知識を基礎にしてそれを発展させるとともに上記問題についてより深く掘り下げて分析する。

*比較政治経済学IIとの違いは、Iは理論から始め、理論がどれだけ実証的データと合致するかという点からデータを検証する。これに対してIIはIの応用編で、更なる理論的検討と実証データやケースに重点を置く。

教科書　/Textbooks

Anton Hemerijck, Changing Welfare States (Oxford: Oxford University Press, 2013).

（なぜ英語のテキストを使うのかなど私のクラスについては、http://www.geocities.jp/sakamoto_pol/basicideas.htmを参照）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

後日指示。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

毎週当該のトピックについて、学生によるテキストの講読をもとにしたプレゼンテーション・検証・質疑応答を行い、学生と教員が互いに理解を深める。すべての学生は毎週、指定されたテキストを事前に読み終えて授業に臨む。

1. イントロ; 2. 問題定義: 経済成長、平等、福祉国家; 3. 福祉国家の進化・適応; 4. 福祉国家をめぐる政治経済; 5. 社会福祉政策が直面する２１世紀の問題; 6. 福祉国家の変化・改革; 7. 福祉政策の調整; 8. 福祉国家の効果・影響ー経済成長、生産性の成長; 9. 福祉国家の効果・影響ー雇用、失業、長期失業; 10. 福祉国家の効果・影響ー所得分配、格差、貧困; 11. 福祉国家の自律的持続性; 12. 投資的福祉政策ー教育、労働訓練; 13. 投資的福祉政策ー家族支援、再分配; 14. 小括; 15. まとめ。

成績評価の方法　/Assessment Method

成績の評価は、100%のうち、（１）テキストの講読・理解、授業での発言参加が40%、（２）研究論文あるいは期末総合テストが60%（どちらかひとつ）。研究論文とテストのどちらを行うかは、授業の進度や受講学生の学習の進歩を見て学期中に決める。研究論文の場合、研究の内容は、テキストや授業で学んだ内容を発展させる、あるいは検証するもの。研究を進め、論文を書く際、次のことに注意を払うこと：（１）オリジナルな研究、論文にする、（２）理論や説明の論理的整合性、（３）理論や議論とデータとの合致(自分の理論や説明をデータによって裏付けて説得力のあるものにする。あるいはデータの適切な分析に基づく結論を導く)。いずれにせよ、thoughtfulな分析にすること。テストの場合は、学期中に学習・分析した内容をどれだけ良く理解したかを総合的に問うテストを行う。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

上記の「授業計画・内容」、「成績評価の方法」に記載していますのでそれらを参照してください。

比較政治経済学I 【夜】

履修上の注意　/Remarks

毎週の授業前に、教科書の指定箇所を読むこと。この講読で得た知識をベースに授業を進める。
授業終了後には論点をまとめ復習すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

なにごとも、必死になって頑張れば、なんとかなりますので、必死になって頑張ってください。

キーワード　/Keywords

比較政策分析、比較政治経済、福祉政策、経済政策、教育政策、労働政策、国際政治経済、比較政治、雇用、経済成長、平等、福祉、市民、政府、政治家、利益集団

比較政治経済学II 【夜】

担当者名 /Instructor　坂本　隆幸 / Takayuki Sakamoto / 政策科学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が修了時に身に付ける能力)」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion),Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース(政策科学系)】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者（または高度専門職業人）として活躍するために必要な、比較政治経済学分野の知識を修得する。
技能	○	社会・経済の諸課題（または特定の政策的課題）について、必要な情報を収集・分析し、政策を立案・評価（または実践的に提言）することができる。
態度		

※ ◎:強く関連　○:関連　△:やや関連

比較政治経済学Ⅱ

※ 法律学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要　/Course Description

このクラスは先進諸国が様々な政策分野でいかなる政策を実行し、政策がいかなる結果を創出するかを、実証データやケースに重点を置いて検証する。（比較政治経済学Iとの違いは、Iは理論から始め、理論がどれだけ実証的データと合致するかという点からデータを検証する。これに対してIIはIの応用編で、更なる理論的検討と実証データやケースに重点を置く。）政策問題にはたとえば下に記すようなものがあるが、各学生が研究関心がある問題を選び、その問題解消のため有効・無効な政策のデータを検証してもらい、クラス全体で政策の有効性、いかなる政策がいかなる問題に応用されるべきかを検証する。（政策問題の例：失業、貧困、教育、経済格差、男女格差、人口減少、低出生率、経済停滞、医療政策、福祉政策、財政政策）

*比較政治経済学「I・II」と「III・IV」の違いは、「III・IV」では「I・II」で学んだ知識を基礎にしてそれを発展させるとともに上記問題についてより深く掘り下げて分析する。

教科書　/Textbooks

各学生が選ぶ政策問題にかかわる文献を随時学期中に選んで指定する。ただ比較政治経済学Iで使用するテキストは広い範囲の問題を扱い、役に立つので、IIを履修する前か履修の学期中に読むことが望ましい。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

後日指示。

比較政治経済学II 【夜】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

毎週当該のトピックについて、学生の調査・研究・考察の結果をもとに、プレゼンテーションや質疑応答、討論を通して、政策問題を検証する。毎週の具体的なトピックは、第1・2週の授業の中で相談の上決める。

1. 導入
2. 問題設定
3. 運営計画策定
4. 報告I　[トピックは例えば、経済成長、雇用、失業、貧困、経済格差、教育政策、労働市場政策、再分配政策、家族支援政策、社会保障政策、医療政策、他の福祉政策、財政政策などから]
5. 考察、批評、提言I
6. 報告II　[トピックは例えば、経済成長、雇用、失業、貧困、経済格差、教育政策、労働市場政策、再分配政策、家族支援政策、社会保障政策、医療政策、他の福祉政策、財政政策などから]
7. 考察、批評、提言II
8. 報告III　[トピックは例えば、経済成長、雇用、失業、貧困、経済格差、教育政策、労働市場政策、再分配政策、家族支援政策、社会保障政策、医療政策、他の福祉政策、財政政策などから]
9. 考察、批評、提言III
10. 報告IV　[トピックは例えば、経済成長、雇用、失業、貧困、経済格差、教育政策、労働市場政策、再分配政策、家族支援政策、社会保障政策、医療政策、他の福祉政策、財政政策などから]
11. 考察、批評、提言IV
12. 中間報告
13. 考察、批評、提言
14. 再分析、再考察、最終作業I
15. まとめ

*Topics vary, depending on the interests of students.

成績評価の方法　/Assessment Method

成績の評価は、100%のうち、（1）授業参加における積極性や質が40%、（2）調査・研究の結果をまとめた論文が60%。研究には学期を通して従事する。研究の内容は、各学生が選ぶ政策問題を分析・考察するもの。研究を進め、論文を書く際､次のことに注意を払うこと：（1）オリジナルな研究､論文にする、（2）理論や説明の論理的整合性､（3）理論や議論とデータとの合致(自分の理論や説明をデータによって裏付けて説得力のあるものにする。あるいはデータの適切な分析に基づく結論を導く)。いずれにせよ、thoughtfulな分析にすること。また、学期半ばに研究の計画書を提出する。研究の課題､研究方法・計画の概要を記したアウトラインを提出する。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

上記の｢授業計画・内容｣、「成績評価の方法」に記載していますのでそれらを参照してください。

履修上の注意　/Remarks

毎週の授業前に、教科書の指定箇所を読むこと。この講読で得た知識をベースに授業を進める。
授業終了後には論点をまとめ復習すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

なにごとも、必死になって頑張れば、なんとかなりますので、必死になって頑張ってください。

キーワード　/Keywords

比較政策分析、比較政治経済、福祉政策、経済政策、教育政策、労働政策、国際政治経済、比較政治、雇用、経済成長、平等、福祉、市民、政府、政治家、利益集団

自治体政策論I 【夜】

担当者名 /Instructor　山脇　直祐 / Naosuke YAMAWAKI / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が修了時に身に付ける能力)」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion),Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース(政策科学系)】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者（または高度専門職業人）として活躍するために必要な、自治体政策論の知識を修得する。
技能	○	地域社会の諸課題（または特定の政策的課題）について、必要な情報を収集・分析し、政策を立案・評価（または実践的に提言）することができる。
態度		

※ ◎:強く関連　○:関連　△:やや関連

自治体政策論Ⅰ

※ 法律学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要　/Course Description

「まちと暮らしの将来について考える」

私たちは多くの場合、誰かと関わって生きています。
他者との関係のなかで「住む」ことは、私たちが生きていく上で避けようのない事実です。
そして、私たちが暮らすまちのあり方は生活のあり方を左右することすらあります。
私たちのまちの課題は何であり、どのように対処していくことができるのでしょうか。

本講は私たちの生活の場としてのまちにそくし、
政治・ 政策・ 法に関する学問の実践的意義について理解を深め、
新たな政策展開の方向性を模索し考察することを目的とします。

教科書　/Textbooks

※履修者の専攻や希望により、
　参考書欄掲載文献などで柔軟に対応したい。
　もっとも、以下は目を通しておいてもらいたい。
今井照『地方自治講義』筑摩書房2017年 ￥968-
曽我謙悟『日本の地方政府 1700自治体の実態と課題』中央公論新社2019年 ￥946-

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

※以下は例示であり、履修者の専攻や希望にそって柔軟に対応したい。
広井良典『人口減少社会のデザイン』東洋経済新報社2019年 ￥1980-
E.ﾏｯｹﾝｼﾞｰ『プライベートピア 集合住宅による私的政府の誕生』世界思想社2002年 ￥2530-
筧裕介『持続可能な地域のつくり方 未来を育む「人と経済の生態系」のデザイン』英治出版2019年 ￥2640-

自治体政策論I 【夜】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

※履修者の専攻や希望により、柔軟に対応したい。
　したがって、以下はあくまで予定であることを留意されたい。
（【】内はキーワード）
第　１回　はじめに．　～自治と自治体の将来～【自治】【自治体】【政策】
第　２回　社会構造の展望I：人口動態と都市　【人口政策】【都市政策】
第　３回　社会構造の展望II：限界集落と地域　【集落支援】【交流人口】【地域組織】
第　４回　社会課題の展望I：地域の維持管理　【高齢化】【少子化】
第　５回　社会課題の展望II：地域の危機管理　【貧困】【災害】
第　６回　自治体組織の展望：職員と業務執行　【業務管理】
第　７回　自治体組織の展望：職務と外部委託　【業務委託】
第　８回　自治体財政の展望：自治体と予算　【予算運営】
第　９回　自治体財政の展望：自治体と財源　【財源確保】
第１０回　自治体の将来：政策形成と議会　【政治参加】
第１１回　自治体の将来：政策形成と地域　【市民参加】
第１２回　地方自治の将来：自治体の役割　【住民自治】【団体自治】【地方分権】
第１３回　地方自治の将来：自治への期待　【地方創生】【コンパクト・シティ】
第１４回　学位（修士）論文構想発表 / 講評
第１５回　おわりに．　～自治と自治体の構想～

成績評価の方法　/Assessment Method

受講姿勢、定期試験。各回のテーマに関する自主的レポート（2500字程度）の提出も歓迎します。
受講姿勢…60％　定期試験…40％
レポートはその内容に応じ、１本10％までで加点します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習としては課題について資料を準備、自分なりの見方を用意しておくこと。
※可能な限り、資料を紹介し発言できるよう準備しておく。
事後学習としては事前の自分なりの見方と講義内容を比較し整理しておくこと。
※可能な限り、文書化が望ましい。

履修上の注意　/Remarks

臆しない悩まない、ただし考える。
御紹介できる情報や機関もあると思いますので、困り事があったら応相談。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

出来、不出来より積極性を評価します。
修士論文作成に向けて、進路形成に向けていかに講義を活用するかを考えてもらいたい。

キーワード　/Keywords

自治、自治体、政策、人口政策、都市政策、集落支援、交流人口、地域組織、
高齢化、少子化、貧困、災害、業務管理、業務委託、予算運営、財源確保、
政治参加、市民参加、住民自治、団体自治、地方分権、地方創生、コンパクト・シティ

行政学特別研究I 【夜】

担当者名 /Instructor　森　裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　4単位　学期 /Semester　1・2学期（ペア）　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Course Completion),Specific Targets in Focus

【研究者コース（政策科学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	△	研究者としての活動の基盤となる、行政学分野についての高度な専門的知識を修得する。
技能	○	地域社会の諸課題について、必要な情報を収集・分析し、政策を立案し評価することができる。
態度	◎	研究者として政策学的な観点から説得力のある議論を展開し、行政学分野について専門的かつ主体的に研究することができる。

※　◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

行政学特別研究Ⅰ

授業の概要　/Course Description

行政学に関する修士論文の指導を行うことを目的とする。

教科書　/Textbooks

受講生との相談で決定する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

受講生との相談で決定する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回ガイダンス
第2回論文に慣れる【論文を集める】
第3回論文に慣れる【論文のスケルトンをつかむ】
第4回論文に慣れる【論文を読む】
第5回論文に慣れる【まとめ】
第6回リサーチクエスチョンを立てる【リサーチクエスチョンとは】
第7回リサーチクエスチョンを立てる【論文のリサーチクエスチョンを見てみる】
第8回リサーチクエスチョンを立てる【修論のリサーチクエスチョンを見てみる】
第9回リサーチクエスチョンを立てる【まとめ】
第10回自分の論文のスケルトンに挑戦する【スケルトンとは】
第11回論文を読む【外国文献を集める】
第12回論文を読む【外国文献を読む】
第13回論文を読む【外国文献のスケルトンをつかむ】
第14回論文を読む【外国文献のまとめ】
第15回先行研究の重要性【リサーチクエスチョン】
第16回行政学の先行研究【著書を繙く】
第17回行政学の先行研究【論文を繙く】
第18回先行研究から文献リストをつくる【文献スタイルの講義】
第19回リサーチ方法についての検討【方法論の講義】
第20回専門文献の読解【文献①西尾勝行政学】
第21回専門文献の読解【文献②今村都南雄行政学】
第22回専門文献の読解【文献③村松岐夫行政学】
第23回専門文献の読解【文献④中堅行政学者の文献】
第24回専門文献の読解【文献⑤Guy Peters等の文献】
第25回自分の修士論文のスケルトンに挑戦する【スケルトンブラッシュアップ】
第26回修士論文内容の報告【第１回、スケルトンをがっちりさせよう】
第27回報告で不足分の文献読解【分析対象の基礎文献】
第28回修士論文内容の報告【いい感じに仕上げよう】
第29回報告で不足分の文献読解【分析対象の発展文献】
第30回修士論文に向けての注意【リサーチクエスチョンのブラッシュアップ】

行政学特別研究I 【夜】

成績評価の方法　/Assessment Method

積極的な参加･･･ 50%、毎回の準備･･･ 50%

事前･ 事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習は、講義発表など指定箇所の予習あるいは準備、事後学習は、講義中の議論をまとめてレビューレポートを提出。

履修上の注意　/Remarks

授業開始前までにシラバスを確認し予習しておくこと。授業終了後には論点をまとめ復習すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

途上国開発論特別研究I 【夜】

担当者名 /Instructor　三宅 博之 / HIROYUKI　MIYAKE / 政策科学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　4単位　学期 /Semester　1・2学期（ペア）　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Course Completion),Specific Targets in Focus

【研究者コース（政策科学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	△	研究者としての活動の基盤となる、途上国の開発・発展分野についての高度な専門的知識を修得する。
技能	○	途上国の諸課題について、必要な情報を収集・分析し、政策を立案し評価することができる。
態度	◎	研究者として政策学的な観点から説得力のある議論を展開し、途上国の開発・発展分野について専門的かつ主体的に研究することができる。

※　◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

途上国開発論特別研究Ⅰ

授業の概要　/Course Description

日本の社会や経済は開発途上国や新興国の存在なくしてはもはや語ることはできません。双方はグローバリゼーションの中で深くて強い関係を築いています。したがって、開発途上国や新興国の開発や環境の状況を把握しておくことは日本や世界の今後の方向性を考える上で非常に重要になってきます。

本授業では、受講生が主役となって開発途上国や新興国を取り上げ、その経済、社会、政治を調べ、それに伴う環境問題の発生状況をつかみ、当該国での環境教育やESD、さらにはSDGsのあり方を把握することに努め、それらを研究論文にいかす努力をしてもらいます。その際、スタディ・ツアーやまなびとESDステーションの様々なESDプロジェクトの体験学習を通して現実のESDや環境教育を学習する予定です。

教科書　/Textbooks

* 安藤明之『社会調査・アンケート調査とデータ解析』日本評論社、2009年
* 日本環境教育学会編『環境教育』教育出版、2012年
* 北村友人・佐藤真久他『SDGs時代の教育：すべてのすべての人に質の高い学びの機会を』学文社、2019年、3300円

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

* エコピープル支援協議会編『環境活動ハンドブック』日本能率協会マネジメントセンター、2007年
* 斎藤文彦編『参加型開発』日本評論社、2002年
* 小川潔、伊東靜一、又井裕子編『自然保護教育論』筑波書房、2008年
* Ghosh G.K., Environmental Pollution~ascientific Dimension, Ashish Publishing House, Delhi, 2011
* 佐藤真久・阿部治編『ESD入門』筑波書房、2012年、2800円

途上国開発論特別研究I 【夜】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　授業の概要説明
2回　修士論文とは何かを考える
3回　受講生によるテーマの設定
4回　対象・方法論の確定
5回　各受講生の論文構想発表１と議論【インド】
6回　各受講生の論文構想発表２と議論【ダカ市】
7回　各受講生の論文構想発表３と議論【環境教育】【ESD】
8回　調査方法を考える
9回　各受講生の調査方法と内容の発表１と議論【インド】
10回　各受講生の調査方法と内容の発表２と議論【ダカ市】
11回　各受講生の調査方法と内容の発表３と議論【環境教育】
12回　各受講生の調査方法と内容の発表４と議論【ESD】
13回　事例学習：インドの環境問題と環境教育の実態
14回　事例学習：バングラデシュ・ダカ市の廃棄物管理
15回　事例学習：北九州市藍島プロジェクト
16回　各自の調査結果報告１と議論　　【インド】
17回　各自の調査結果報告２と議論【ダカ市】
18回　各受講生の調査結果報告３と議論【環境教育】
19回　各自の調査結果報告４と議論【ESD】
20回　各受講生の論文に必要な文献資料紹介１と議論【インド】
21回　各受講生の論文に必要な文献資料紹介２と議論【ダカ市】
22回　各受講生の論文に必要な文献資料紹介３と議論【環境教育】
23回　各受講生の論文に必要な文献資料紹介４と議論【ESD】
24回　中間講評
25回　各受講生の研究発表１と議論【インド】
26回　各受講生の研究発表２と議論【ダカ市】
27回　各受講生の研究発表３と議論【環境教育】
28回　各受講生の研究発表４と議論【ESD】
29回　環境教育・ESD研究に関する議論
30回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への参加態度　…　40%　　小課題　…　10%　　レポート…50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習として、文献を読み、テーマがどのように選ばれ、章構成がどのようにして決定されたのかを考える。事後学習として、自らの将来の論文にどのように取り入れるかをノートにまとめておくこと。

履修上の注意　/Remarks

教科書は事前に必ず読み、授業に臨むことです。授業終了後には論点をまとめ復習すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

学生が主役なので未来に残したくなる授業にしたい。これ以外に日ごろから、もっと本を読み、教員と楽しい学問的なおしゃべりができるように頑張ってください。

キーワード　/Keywords

環境教育、ESD、SDGｓ、まなびとESDステーション、修士論文or特定課題論文

産業政策論特別研究I 【夜】

担当者名 /Instructor　田代　洋久 / Hirohisa Tashiro / 政策科学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　4単位　学期 /Semester　1・2学期（ペア）　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Course Completion),Specific Targets in Focus

【研究者コース（政策科学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	△	研究者としての活動の基盤となる、都市の産業政策についての高度な専門的知識を修得する。
技能	○	都市が直面する諸課題について、産業政策の視点から必要な情報を収集・分析し、政策を立案し評価することができる。
態度	◎	研究者として政策学的な観点から説得力のある議論を展開し、産業政策について専門的かつ主体的に研究することができる。

※　◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

産業政策論特別研究Ⅰ

授業の概要　/Course Description

・地域活性化に向けて地域に所在する文化的資源などの地域資源を活用しながら地域の価値創出を目的とした地域経済政策、あるいは地域創造事例の成果と課題分析を主たる研究テーマとした修士論文を作成する。

教科書　/Textbooks

・特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

・特に指定しない。なお、修士論文作成に参考となる論文・文献等は別途指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　イントロダクション
第２回　研究論文とは
第３回　地域創造と地域経済政策
第４回　問題関心と研究テーマの選定について
第５回　リサーチクエスチョンと仮説立案
第６回　先行研究調査方法–図書館等の使い方
第７回　先行研究調査方法–文献収集
第８回　先行研究の報告（院生）
第９回　先行研究と研究テーマとの関連性（討議）
第１０回　研究方法論–質的調査
第１１回　研究方法論–量的調査
第１２回　研究テーマの設定、研究計画書の作成
第１３回　研究方法の検討
第１４回　論文の構成について
第１５回　論文の書き方–引用注の付け方等について
第１６回　研究課題報告
第１７回　調査の設計
第１８回　調査対象の検討
第１９回　調査票の作成
第２０回　調査の実施
第２１回　調査結果の整理
第２２回　調査結果の分析
第２３回　調査結果の報告
第２４回　中間報告の準備
第２５回　中間報告の実施
第２６回　中間報告の論評・修正
第２７回　最終報告の準備
第２８回　最終報告の実施
第２９回　最終報告の修正
第３０回　まとめ・意見交換

産業政策論特別研究I 【夜】

成績評価の方法　/Assessment Method

・ 授業での報告 50%、期末レポート（中間報告）50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

・ 十分に事前準備を行ったうえで報告を行うこと。授業終了後は、討議内容を踏まえながら自分の考えを整理すること。

履修上の注意　/Remarks

・ 無断欠席、理由のない遅刻などの逸脱行動は厳禁です。理由なく教員の指導に従わない行動をとった場合、以後の受講を認めません。
・ 講義資料や講義内容を無断で公開するなどの二次使用を禁止する。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

・ 特になし

キーワード　/Keywords

公共政策論特別研究I 【夜】

担当者名 /Instructor　楢原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　4単位　学期 /Semester　1・2学期（ペア）　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Course Completion),Specific Targets in Focus

【研究者コース（政策科学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	△	研究者としての活動の基盤となる、公共政策分野についての高度な専門的知識を修得する。
技能	○	研究者として地域社会の諸課題について、必要な情報を収集・分析し、政策を立案し評価することができる。
態度	◎	研究者として政策学的な観点から説得力のある議論を展開し、公共政策について専門的かつ主体的に研究することができる。

※　◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

公共政策論特別研究Ⅰ

授業の概要　/Course Description

公共政策もしくは地域公共政策に関する論文指導を行います。具体的には、テーマの選定からリサーチ・クエスチョンのたてかた、及び仮説のたてかた、さらに量的分析・質的分析の説明から論文執筆に際して注意すべき点、引用注の付け方まで、順を追って修士論文の作成の仕方について指導していく予定です。

教科書　/Textbooks

テキストは、受講生と相談のうえ決定します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜紹介します。

公共政策論特別研究I 【夜】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

受講生の研究の進捗状況にあわせてその都度決定していくが、とりあえずは以下のようなスケジュールで進める予定です。

第１回　導入
第２回　修士論文作成に際しての心得
第３回　テーマの選定について
第４回　リサーチ・クエスチョンをたてる
第５回　仮説をたてる
第６回　文献調査について（１）–図書館等の使い方
第７回　文献調査について（２）–邦語文献の収集
第８回　文献調査について（３）–外国語文献の収集
第９回　第一次文献リストの作成
第１０回　量的調査
第１１回　質的調査
第１２回　テーマの(仮）決定
第１３回　論文の構成について
第１４回　論文の書き方–引用注の付け方等について
第１５回　論文の体裁についての指導
第１６回　テーマ設定、調査方法などに関する論評及び修正
第１７回　先行研究の検討
第１８回　先行研究及び関連研究の検討
第１９回　先行研究と自らの研究の検討（先行研究のどこを乗り越えるのか）
第２０回　調査方法の検討
第２１回　調査票等の作成
第２２回　調査の設計
第２３回　調査の実施
第２４回　調査結果の整理
第２５回　調査結果の報告
第２６回　中間報告の準備
第２７回　中間報告
第２８回　中間報告の論評・修正
第２９回　最終報告
第３０回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・・５０％　　レポート・・・・・５０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

指示した箇所は必ず前もって検討しておいてください。また、授業終了後には論点をまとめ必ず復習するようにして下さい。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

福祉政策論特別研究I 【夜】

担当者名 /Instructor　狭間　直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　4単位　学期 /Semester　1・2学期（ペア）　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Course Completion),Specific Targets in Focus

【研究者コース（政策科学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	△	研究者としての活動の基盤となる、福祉政策分野についての高度な専門的知識を修得する。
技能	○	社会保障・社会福祉サービスの諸課題について、必要な情報を収集・分析し、政策を立案し評価することができる。
態度	◎	研究者として政策学的な観点から説得力のある議論を展開し、福祉政策分野について専門的かつ主体的に研究することができる。

※　◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

福祉政策論特別研究Ⅰ

授業の概要　/Course Description

社会保障をめぐる政治・行政・政策を研究内容とした修士論文を作成します。日本の社会保障制度の概要や主要論点を理解し、年金、医療、介護、保育、障害者福祉などを扱った先行研究をふまえたうえで、研究課題に取り組みます。

教科書　/Textbooks

受講生の関心にあわせて指示します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

受講生の関心にあわせて指示します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　学術論文とは
第２回　社会保障に関わる理論を学ぶ
第３回　社会保障制度の理解
第４回　研究関心
第５回　研究テーマの選定
第６回　研究課題の設定
第７回　研究計画の作成
第８回　資料収集方法の検討
第９回　文献調査について
第１０回　数量分析について
第１１回　論文の書き方
第１２回　引用・注釈について
第１３回　先行研究を調べる
第１４回　先行研究の分析
第１５回　先行研究の意義と限界
第１６回　研究課題の再検討
第１７回　論文の構成
第１８回　文献研究の報告
第１９回　報告について
第２０回　中間報告の準備
第２１回　中間報告の実施
第２２回　中間報告に関する意見交換
第２３回　調査の設計
第２４回　調査の実施
第２５回　調査結果の整理
第２６回　調査結果の報告
第２７回　最終報告の準備
第２８回　最終報告の実施
第２９回　最終報告に関する意見交換
第３０回　まとめ

福祉政策論特別研究I 【夜】

成績評価の方法　/Assessment Method

授業での報告･・・ ５０％　　期末レポート（修士論文中間報告）・・・ ５０％

事前･ 事後学習の内容　/Preparation and Review

配布された資料等をしっかりと読み、報告の準備をしてください。また、授業終了後は、知識や自分の考えを整理してください。

履修上の注意　/Remarks

授業開始前までにシラバスを確認し予習しておくこと。授業終了後には論点をまとめ復習すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

特になし。

キーワード　/Keywords

特になし。

環境政策論特別研究I 【夜】

担当者名 /Instructor　申　東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　4単位　学期 /Semester　2学期（ペア）　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Course Completion),Specific Targets in Focus

【研究者コース（政策科学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	△	研究者としての活動の基盤となる、環境政策についての高度な専門的知識を修得する。
技能	○	地域社会の諸課題について、必要な情報を収集・分析し、政策を立案し評価することができる。
態度	◎	研究者として政策学的な観点から説得力のある議論を展開し、環境政策について専門的かつ主体的に研究することができる。

※　◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

環境政策論特別研究Ⅰ

授業の概要　/Course Description

社会科学、政策研究の調査方法、データ収集、論理構成と論文の書き方の学習。
①レポートや論文作成に向けた調査方法、データ収集方法について勉強する。
②社会現象から、科学的事実、データ、社会的解釈、概念構成、価値などの論理構成について勉強する。
③論文の書き方と発表方法などについて知ってもらう。

専門知識の活用能力を高める。
①政策事例の選定と理解、知識を深める。
②受講者の研究テーマ、政策事例に関する調査を行い、レポート、論文を作成する。

教科書　/Textbooks

『政策リサーチ入門–仮説検証による問題解決の技法』（伊藤 修一郎著　東京大学出版会　￥2,940）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『社会科学のリサーチ・デザイン–定性的研究における科学的推論』（G.キング外著　真渕勝監修　勁草書房￥3,990）
○『ケース・スタディの方法』（ロバート K.イン著、近藤公彦訳　千倉書房　￥3,675）
○『社会学研究法 リアリティの捉え方』（今田 高俊著　有斐閣アルマ　￥2,415）
○『社会調査のための統計学　-生きた実例で理解する』（神林博史著　技術評論社 ￥2,079）

その他、受講者の研究テーマに合わせ、政策過程、環境関連のの論文や著作を選定し議論する。

環境政策論特別研究I 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第 1回 紹介、関心テーマなどの共有
第 2回 政策リサーチ入門：社会現象と科学
第 3回 政策リサーチ入門：研究目的と設計
第 4回 政策リサーチ入門：データ収集方法
第 5回 社会科学のリサーチ・デザイン：定性的研究
第 6回 社会科学のリサーチ・デザイン：科学的推論と仮説
第 7回 社会科学のリサーチ・デザイン：歴史的方法と事例選定
第 8回 社会学研究法 リアリティの捉え方：価値と事実
第 9回 社会学研究法 リアリティの捉え方：研究方法の選定と設計
第10回 社会学研究法 リアリティの捉え方：調査方法
第11回 社会調査のための統計学：回帰分析
第12回 社会調査のための統計学：重回帰分析
第13回 社会調査のための統計学：相関分析
第14回 ケース・スタディの方法：単一研究
第15回 ケース・スタディの方法：比較研究
第16回 ケース・スタディの方法：単一方法の事例
第17回 ケース・スタディの方法：比較事例：環境
第18回 ケース・スタディの方法：比較事例：他事例
第19回 関連論文の考察：量的研究の事例
第20回 関連論文の考察：量的研究
第21回 関連論文の考察：質的研究
第22回 関連論文の考察：質的研究の事例
第23回 関連論文の考察：単一事例研究
第24回 関連論文の考察：比較歴史研究
第25回 関連論文の考察：比較研究
第26回 受講者の研究テーマ関連の論文：問題意識
第27回 受講者の研究テーマ関連の論文：方法論
第28回 受講者の研究テーマ関連の論文：論文構成と論理
第29回 受講者の研究テーマ関連の論文：討論と結論
第30回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

議論と報告（80%）、レポート（20%）で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前課題を学習支援フォルダに挙げるので、参照し準備すること。
授業終了後には論点をまとめ復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

リアリティの捉え方、リサーチ・デザイン、科学的推論、仮説と仮説検証、論理構成と社会的解釈、政策事例。

政策評価論特別研究I 【夜】

担当者名 /Instructor　横山　麻季子 / Makiko, YOKOYAMA / 政策科学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　4単位　学期 /Semester　1・2学期（ペア）　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Course Completion),Specific Targets in Focus

【研究者コース（政策科学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	△	研究者としての活動の基盤となる、評価論についての高度な専門的知識を修得する。
技能	○	地域社会の諸課題について、必要な情報を収集・分析し、政策を立案し評価することができる。
態度	◎	研究者として政策学的な観点から説得力のある議論を展開し、評価論について専門的かつ主体的に研究することができる。

※　◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

政策評価論特別研究Ⅰ

授業の概要　/Course Description

日本または海外諸国における公的部門の評価制度に関する事例や研究成果（日本語および英語、理論・実証などジャンル等は特に限定しない）を把握・理解したうえで、修士論文執筆のための土台をつくることを目的とする。

教科書　/Textbooks

受講生と研究テーマにより決定する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References（Available in the library: ○　）

○酒井聡樹（2015）『これから論文を書く若者のために[究極の大改訂版]』共立出版
○伊藤修一郎（2011）『政策リサーチ入門：仮説検証による問題解決の技法』東京大学出版会
○名古屋大学教育学部附属中学校・戸田山和久（2014）『はじめよう、ロジカル・ライティング』ひつじ書房
○戸田山和久（2012）『論文の教室：レポートから卒論まで．新版』NHKブックス
ほか、受講生の研究テーマにより適宜紹介する。

政策評価論特別研究I 【夜】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　ガイダンス
第２回　政策評価・行政評価制度の理解（１）【指標】【手法】【実施根拠】【事例】
第３回　政策評価・行政評価制度の理解（２）【外部評価】【政策分析】
第４回　研究テーマの検討
第５回　研究テーマの選定
第６回　リサーチクエスチョンの検討
第７回　リサーチクエスチョンの選定
第８回　文献・資料・データ等の収集について
第９回　分析対象・分析方法について
第１０回　研究計画の作成
第１１回　学術論文の書き方
第１２回　研究計画の確定
第１３回　先行研究の検討
第１４回　先行研究の整理と分析
第１５回　分析対象・分析方法の検討
第１６回　研究テーマ・リサーチクエスチョンの再考と確認
第１７回　分析対象・分析方法の整理と確認
第１８回　中間報告について
第１９回　中間報告の準備
第２０回　中間報告の実施
第２１回　中間報告でのコメントの整理と意見交換
第２２回　分析対象・分析方法の確認
第２３回　調査・分析の設計
第２４回　調査・分析の実施
第２５回　調査・分析結果の整理
第２６回　調査・分析結果の報告
第２７回　最終報告の準備
第２８回　最終報告の実施
第２９回　最終報告でのコメントの整理と意見交換
第３０回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

報告（中間・最終を含む）50%、議論への参加・貢献50%
（無断欠席・遅刻は厳禁、度重なる場合には減点対象とします）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業開始前までにシラバスを確認し予習しておくこと。授業終了後には論点をまとめ復習すること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

随時読むべき文献・参考となる資料や論文を示していく予定ですが、受講生には常日ごろから活字を読む習慣をつけ、様々な問題やその背景を複合的にとらえたうえでの議論ができればと思っています。

キーワード　/Keywords

比較政治経済学特別研究I 【夜】

担当者名 /Instructor　坂本　隆幸 / Takayuki Sakamoto / 政策科学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　4単位　学期 /Semester　2学期 (ペア)　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion),Specific Targets in Focus

【研究者コース（政策科学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	△	研究者としての活動の基盤となる、比較政治経済学分野についての高度な専門的知識を修得する。
技能	○	社会・経済の諸課題について、必要な情報を収集・分析し、政策を立案し評価することができる。
態度	◎	研究者として政策学的な観点から説得力のある議論を展開し、比較政治経済学分野について専門的かつ主体的に研究することができる。

※　◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

比較政治経済学特別研究Ⅰ

授業の概要　/Course Description

比較政治経済、比較政策の分野における修士論文の指導をする。

教科書　/Textbooks

論文作成者の研究分野に合う文献を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

論文作成者の研究分野が判明するまでなし。

比較政治経済学特別研究I 【夜】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

論文作成者の研究課題に適当な文献のリストを第1回目の指導の際に決め、論文作成者は文献のリビューを即時始める。それがある程度終わった後、研究のためのデータ収集・作成・分析を始め、毎授業で文献、データ、分析について討議する。それがある程度進んだら、同時進行で研究分析を行い、執筆にとりかかる。

1. イントロ
2. 問題定義: 経済成長と平等
3. 成長と平等II（応用）
4. 資本主義経済の諸類型
5. 雇用・失業の様態
6. 雇用・失業の様態II（応用）
7. 雇用保護・解雇規制と雇用
8. 積極的労働市場政策と雇用、教育政策、職業教育、格差
9. 積極的労働市場政策と雇用、教育政策、職業教育、格差II（応用）
10. 福祉政策、所得再分配、経済成長
11. 福祉政策、所得再分配、経済成長II（応用）
12. 福祉国家の縮小とデータ
13. 福祉国家の縮小とデータII（応用）
14. 小括
15. まとめ
16. 導入
17. 問題設定
18. 運営計画策定
19. 報告I [例えば、雇用、失業、経済成長、経済格差、貧困、経済政策、労働市場政策、教育政策、家族支援政策、再分配政策などのトピックから]
20. 考察、批評、提言I [例えば、雇用、失業、経済成長、経済格差、貧困、経済政策、労働市場政策、教育政策、家族支援政策、再分配政策などのトピックから]
21. 報告II [例えば、雇用、失業、経済成長、経済格差、貧困、経済政策、労働市場政策、教育政策、家族支援政策、再分配政策などのトピックから]
22. 考察、批評、提言II [例えば、雇用、失業、経済成長、経済格差、貧困、経済政策、労働市場政策、教育政策、家族支援政策、再分配政策などのトピックから]
23. 報告III [例えば、雇用、失業、経済成長、経済格差、貧困、経済政策、労働市場政策、教育政策、家族支援政策、再分配政策などのトピックから]
24. 考察、批評、提言III　[例えば、雇用、失業、経済成長、経済格差、貧困、経済政策、労働市場政策、教育政策、家族支援政策、再分配政策などのトピックから]
25. 報告IV [例えば、雇用、失業、経済成長、経済格差、貧困、経済政策、労働市場政策、教育政策、家族支援政策、再分配政策などのトピックから]
26. 考察、批評、提言IV [例えば、雇用、失業、経済成長、経済格差、貧困、経済政策、労働市場政策、教育政策、家族支援政策、再分配政策などのトピックから]
27. 中間報告
28. 総合的考察、批評、提言
29. 再分析、再考察、最終作業I
30. 最終作業II、まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

上記の内容・スケジュールの事柄をどれだけよく遂行しているかによって総合的に判断する。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

修士論文研究の質の高さを確保するために必要な時間を確保して、研究、調査、分析に従事してください。

履修上の注意　/Remarks

毎週の授業前までには、教科書の指定箇所を必ず読み終えていること。この講読で得た知識をベースに授業を進める。また、条件ではないが、この手の分野に関心があるなら、マクロ経済学や統計を勉強することを強く勧める。授業終了後には論点をまとめ復習すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

なにごとも、必死になって頑張れば、なんとかなりますので、必死になって頑張ってください。

キーワード　/Keywords

比較政策分析、比較政治経済、福祉政策、経済政策、教育政策、労働政策、国際政治経済、比較政治、雇用、経済成長、平等、福祉、市民、政府、政治家、利益集団

地域政策特定課題研究I 【夜】

担当者名 /Instructor　楢原　真二　他

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　4単位　学期 /Semester　1・2学期（ペア）　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion),Specific Targets in Focus

【専修コース（政策科学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	△	高度専門職業人として活躍するために必要な、地域政策分野の知識を修得する。
技能	○	地域社会の特定の政策的課題について、必要な情報を収集・分析し、政策を実践的に提言することができる。
態度	◎	高度専門職業人として政策学的な観点から説得力のある議論を展開し、地域政策分野について専門的かつ主体的に研究することができる。

※　◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

地域政策特定課題研究Ⅰ

授業の概要　/Course Description

地域公共政策、超高齢社会のまちづくり、ＮＰＯ、市民参加等に関する論文(特定課題研究）の指導を行う。

教科書　/Textbooks

テキストは使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

参考文献は、必要に応じて、適宜紹介します。

地域政策特定課題研究I 【夜】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

授業計画・内容は、受講生によって異なります。以下はあくまで一つの例として示した授業計画です。

第１回　導入
第２回　論文作成の基本的作業について
第３回　テーマを決める
第４回　先行研究の検討
第５回　文献リストの作成
第６回　リサーチ・クエスチョンをたてる
第７回　仮説をたてる
第８回　ケース・スタディ（１）–ケース・スタディとは何か
第９回　ケース・スタディ（２）–どのような時にケース・スタディを用いるのか
第１０回　ケース・スタディ（３）–政策過程研究とケース・スタディ
第１１回　ケース・スタディ（４）–まちづくりとケース・スタディ
第１２回　ケース・スタディ（５）–比較研究とケース・スタディ
第１３回　ケース・スタディ（６）–公共政策研究とケース・スタディ
第１４回　ケース・スタディ（７）–ケース・スタディの補足説明
第１５回　１学期のまとめ

第１６回　質的調査と量的調査
第１７回　質的調査（１）–フィールドワーク
第１８回　質的調査（２）–聞き取り調査
第１９回　質的調査（３）–参与観察法
第２０回　調査票を作成する
第２１回　サンプリングについて
第２２回　量的調査の実施と分析方法
第２３回　クロス表を作成する
第２４回　統計的検定について
第２５回　実際に調査を設計する
第２６回　調査をまとめる
第２７回　論文の構成について
第２８回　引用注、参考文献リスト等について
第２９回　推敲の必要性について
第３０回　年間講義のまとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

論文によって評価する。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

必ず、次に発表する部分のレジュメの作成等を行って講義にのぞんでください。授業終了後には論点をまとめて復習するようにして下さい。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

比較政策特定課題研究I 【夜】

担当者名 /Instructor　三宅　博之　他

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　4単位　学期 /Semester　1・2学期（ペア）　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy"(Competence Students Attain by Course Completion),Specific Targets in Focus

【専修コース（政策科学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	△	実践指向型市民、NPO職員や公務員としての活動の基盤となる、様々な政策の比較・分析といった分野についての高度な専門的知識を修得する。
技能	○	特定の諸課題について、必要な情報を収集・分析し、政策を立案し評価することができる。
態度	◎	高度専門職業人として政策学的な観点から議論を展開し、様々な政策の比較・分析といった分野について専門的かつ主体的に研究することができる。

※　◎：強く関連　○：関連　△：やや関連

比較政策特定課題研究Ⅰ

授業の概要　/Course Description

様々な政策の学習は政策研究者にとって重要なことです。同時に、ある特定の政策を立案したとしても、それが他の国家や地域に適合するかはわかりません。そこには当該国を規定する様々な要素、すなわち、政治体制、経済構造・ 制度、社会構造、宗教の役割など多々異なっているからです。

本授業では、特定の政策と国・ 地域の関係を受講生にとらえてもらい、整理した上で発表ならびに論文執筆を促したいと考えています。指導教員によって多少異なりますが、政策分野に関わる様々なプロジェクトにも時々参加し、実践から政策実施過程をを検証します。

教科書　/Textbooks

黒木登志夫『知的文章とプレゼンテーション～日本語の場合、英語の場合』中央公論新社、2013年

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

その都度、資料を配布する予定でいます。

比較政策特定課題研究I 【夜】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　授業の概要説明
2回　比較政策についての議論
3回　様々な政策分野の紹介と特定の政策の理解
4回　様々な地域・国々の特徴の紹介と理解
5回　受講生の研究対象としての政策と地域・国の選択１【中国】【韓国】
6回　受講生の研究対象としての政策と地域・国の選択２【インド】
7回　受講生の研究対象としての政策と地域・国の選択３【欧州】
8回　受講生の研究対象としての政策と地域・国の選択４【日本】
9回　事例研究：北九州市藍島とトンヨン市ヨンデ島比較
10回　調査方法論の学習と議論　①文献調査
11回　調査方法論の学習と議論　②観察調査
12回　調査方法論の学習と議論　③聞き取り調査
13回　調査方法論の学習と議論　④標本調査
14回　受講生の調査方法論の選択と発表　１【中国】【インド】
15回　受講生の調査方法論の選択と発表　２【韓国】【日本】
16回　事例研究：インドの環境教育・ESDの現状と課題（教員）
17回　受講生の調査結果発表　１【中国】
18回　受講生の調査結果発表　２【インド】【欧州】
19回　受講生の調査結果発表　３【韓国】
20回　受講生の調査結果発表　４【日本】
21回　事例研究：北九州市の子ども会の衰退（教員）
22回　受講生の研究論文中間発表　１【中国】
23回　受講生の研究論文中間発表　２【インド】
24回　受講生の研究論文中間発表　３【韓国】
25回　受講生の研究論文中間発表　４【日本】
26回　受講生の研究論文最終発表　１【中国】
27回　受講生の研究論文最終発表　２【インド】【欧州】
28回　受講生の研究論文最終発表　３【韓国】
29回　受講生の研究論文最終発表　４【日本】
30回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への参加態度…40％、論文…60％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

論文作成は非常に重要なので、できるだけ時間を割くようにする。事前には当該日の授業内容に沿った形で資料を読み、まとめておくことを心がける。事後は、授業で話し合い、自らの考えとどのように異なっていたかをまとめる。

履修上の注意　/Remarks

論文を執筆するために必要な方法や内容に関する配布物を毎回読み、理解して論文に反映させるようにしてください。
授業開始前までにシラバスを確認し予習しておくこと。授業終了後には論点をまとめ復習し、それを論文にいかにいかせるかを考えておくこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

論文作成のために儲けられた時間であるので、不明な点などはどしどし自ら調べると同時に、授業で話してください。

キーワード　/Keywords

比較政策、地域・国、調査方法論